

令和元年度幼児期からの運動習慣アップ支援事業

保育現場における「運動遊び」の取組に関する
実態調査実施報告書

令和2年3月31日

公益財団法人 新潟県スポーツ協会

**令和元年度幼児期からの運動習慣アップ支援事業
保育現場における「運動遊び」の取組に関する実態調査実施報告書
結果の概要**

目的

新潟県では楽しく体を動かす「運動遊び」の普及啓発を通じ、どこに住んでいても、子ども誰もが幼児期に身に付けておくことが望まれる多様な動きを経験でき、発達段階に応じた適切な援助を受けられる環境の整備を目指し、「幼児期からの運動習慣アップ支援事業」に取り組んでいる。「運動遊び」の取組の実態について、アンケート調査を実施し、本県の幼児期の「運動遊び」の普及、啓発等を推進することを目的とする。

研究対象

対象園 認可保育園，認定こども園 722 園に配布し，634 園から回答を得た。（園回収率：87.8%）役職の内訳は，園長 572 人，副園長，主任保育士等の管理的又は指導的立場 529 人，年長児クラス担任 609 人，その他 63 人である。

結果

新潟県の保育者から幼児期の「運動遊び」の取組の実態について，以下の知見が得られた。

「子ども（年長児）の動きや体の使い方，身のこなしについて気になること」は「姿勢が悪い（座っているとき，立っているとき，歩くときなど）」，「気をつけなど，同じ姿勢を保てず崩れてしまう」ことを懸念している。

「保育に『運動遊び』を取り入れにくい要因」は，「他に優先してやるべきことがあるため」，「遊びのレパートリー・バリエーションが少ないため」，「時間の確保が難しいため」が，ほぼ同じ割合であった。運動遊びに積極的に取り組めない理由は，新たな法律や法改正，監査等による事務業務増による運動時間や指導の制限，さらに，怪我の許容範囲の縮小，保護者の怪我への危機管理知識の低さ，運動能力や性格による個別化への対応の困難さが挙げられた。「自分の園での『運動遊び』の取組みに満足している」に関して，「どちらともいえない」と回答した人が 45%であった。

「保育に『運動遊び』を取り入れる目的（ねらい）」は，「体を動かす楽しさ，心地よさの実感」と回答した人が多かった。次いで「体力の向上」，「多様な動き（動作）の経験」であった。

「保育に『運動遊び』を取り入れる上での課題」は，「発達の特性に合った遊びの内容」，「一人一人の個人差，発達に応じた援助」，「思わず身体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方」が，ほぼ同じ割合であった。保育者自身の運動遊び指導上の課題として，体育指導の力量（評価の視点），運動発達の評価と運動遊びの効果，遊びの創造力が挙げられた。

なお、担任では「遊びのレパートリー・バリエーションの少なさ」が最も多かった。

「子どもの頃（小学生の頃まで）外遊びをしていた」と回答した人は、全体の97%の保育者が外遊びをしていた。保育者自身が子どもの頃は外遊びが主であった。主な場所はグラウンド、校庭、公園、空き地、神社・お寺の境内、道ばた、川、池、林、田畑と自然の中が多く、遊ぶ内容は役職間での差はなく、鬼ごっこや遊具を使った遊びが多い傾向にあった。また、担任の保育者は、自転車等の道具を使用した遊びが多い傾向にある。一方、園長や副園長・主任は、自然環境で遊ぶ経験が担任よりも多い傾向にあった。

子どもにも年々変化があり、保育者が働きかけないと体を動かしたがない、動かしてもすぐに飽きてしまうなど、「運動遊び」を継続して行えない子どもが増加しており、段階的指導による過程の満足感の経験が必要であり、現代社会の影響による遊びの変容を踏まえた幼児期に必要な運動遊びが求められている。

「運動遊びについて、身近な場所で学ぶ機会がある」については、48%の担任が「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答し、園長、副園長・主任に比べ、担任は「運動遊びについて、学ぶ機会がない」と感じている。「運動遊びについて機会があれば学んでみたい」に関して、79%の保育者が「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した。

「年長児の基本的な動き」の実態は、頻度が低い「基本的な動き」は少ない順に、こぐ・操作 (1.7)、這う・移動 (2.3)、転がる・バランス (2.4)、回る・バランス (2.4)、引く・操作 (2.4)、渡る・バランス (2.7)、押す・操作 (2.7)、登る・移動 (2.7)、ぶら下がる・バランス (2.8)、蹴る・操作 (3.0)、転がす・操作 (3.0)、掘る・操作 (3.0)、下りる・移動 (3.0) (下位10位まで)であった。「基本的な動き」の出現について、問うたが、日常保育で見られるものの姿勢が崩れており、正しい動きではない、と判断している保育者が見受けられ、「幼児の姿勢」、「基本的な動き」においても正しい姿勢と動きへの意識の高さが伺えた。

運動に苦手意識のある保育者の自由記述では、苦手意識があるからこそ、自身ができるようになった過程と経験が保育の基盤となっており、運動課題につまずく幼児への運動指導に役立ち、さらなる指導力向上には、総合型地域スポーツクラブ等のサポートが有効であることが伺える。

新潟県の保育者から、子どもの姿勢に関する懸念など、幼児期の「運動遊び」の取組の実態について様々な知見が得られた。楽しく体を動かす「運動遊び」の普及・啓発するためには、保育者の運動遊び指導・援助の時間確保、幼児期の運動に関する知識と指導力の向上のための機会を設けることが必要であり、そのためには総合型地域スポーツクラブ等との連携が有効であると思われる。そのような好循環を生み出すために、市町村が主体的に、保育園や幼稚園・こども園と総合型地域スポーツクラブ等が連携・協働し、運動遊びを推進できる環境を整える取り組みが求められる。

まえがき

筆者らは、平成30年度から新潟県の幼児の運動能力向上を促進させていくために、幼児が楽しく体を動かす「運動遊び」の普及啓発を目的に「幼児期からの運動習慣アップ支援事業」を実施している。本事業は主に保育者を対象とし「『運動遊び』モデル研修会（公開保育）」、「『運動遊び』普及啓発セミナー」、そして、本調査から構成されている。

本調査は保育者から「幼児の体の動き」について新しい知見を得た。この知見を基に保育者と総合型地域スポーツクラブ等が連携した運動指導の在り方、および運動遊びの価値について考え、幼児期からのよりよい発育発達を促進するきっかけとなれば幸いである。

研究組織

佐近慎平（新潟医療福祉大学 准教授）

青野光子（新潟青陵大学短期大学部 教授 幼児教育学科長）

周東和好（上越教育大学大学院 教授 芸術・体育教育学系長）

竹田浩美（長岡市教育委員会子ども未来部保育課 総括副主幹（保育指導担当））

後藤 忍（NPO 法人スポーツクラブあらい クラブマネジャー）

伊保橋良（NPO 法人スポネットせいらう 事務局員）

（公財）新潟県スポーツ協会

平成30年度 幼児期からの運動習慣アップ支援事業「プレ研修会」

阿賀野市（10/17（水）：阿賀野市笹神体育館・私立みのり保育園：34名）、加茂市

（10/24（水）：市立西宮保育園：20名）、糸魚川市（10/29（月）：市立やまのい保育園：22名）、南魚沼市（10/31（水）：南魚沼市子育て支援センター子育ての駅「ほのぼの」・市立八幡保育園：30名）、小千谷市（11/19（月）：市立片貝保育園：28名）

令和元年度 幼児期からの運動習慣アップ支援事業「モデル研修会」

刈羽町（5/23（木）：村立かりわ保育園：31名）、長岡市（6/6（木）：長岡市浦体育館・市立こしじ保育園：84名）、田上町（6/20（木）：町立竹の友幼児園：40名）、上越市（6/27（木）：市立なおえつ保育園：63名）、妙高市（10/17（木）：市立和田にじいろこども園：35名）、阿賀野市（11/12（火）：阿賀野市笹神体育館・みどり保育園：51名）

令和元年度 幼児期からの運動習慣アップ支援事業「運動遊び」普及啓発セミナー

妙高市（10/17（木）：妙高市総合体育館：39名）、阿賀野市（11/12（火）：阿賀野市ふれあい会館：43名）、長岡市（12/3（火）：さいわいプラザ：62名）

目次

結果の概要

まえがき

研究組織

- ・平成 30 年度 幼児期からの運動習慣アップ支援事業「プレ研修会」
- ・令和元年度 幼児期からの運動習慣アップ支援事業「モデル研修会」
- ・令和元年度 幼児期からの運動習慣アップ支援事業「運動遊び」普及啓発セミナー

目次

1	目的	1
2	研究方法	1
2.1	研究対象	1
2.2	アンケート調査	1
3	結果	2
3.1	運動遊びに関する実態調査 調査票 1 (共通)	2
3.1.1	あなたの園がある市町村名を記入してください	2
3.1.2	あなたの所属先を教えてください	2
3.1.3	あなたの性別を教えてください	2
3.1.4	あなたの保育者としての経験年数を教えてください	2
3.1.5	あなたの役職(立場)を教えてください	4
3.1.6	子ども(年長児)の動きや体の使い方,身のこなしを見ていて,どんなことが気になりますか.上位3つを順位の高い順に番号を記入してください	4
3.1.7	自分は(自分の園では),保育に「運動遊び」を取り入れている	9
3.1.8	質問7で「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した方に質問です.それは,どのような理由からですか上位3つを順位の高い順に番号を記入してください	10
3.1.9	あなたにとって,保育に「運動遊び」を取り入れる目的(ねらい)は何ですか.上位3つを順位の高い順に番号を記入してください	16
3.1.10	保育に「運動遊び」を取り入れる上で,あなたはどのようなことを課題に感じていますか.上位3つを順位の高い順に番号を記入してください	20
3.1.11	あなたの園では,運動を担当する専門の外部講師を導入していますか	26
3.1.12	質問11で「導入している」と回答した方に質問します.あなたの園では,外部講師による内容は,どのようにして決めていますか	26
3.1.13	積極的に体を動かす(運動する)子とそうでない子と二極化している	26
3.1.14	運動や体の操作が上手な子どもは,親子での「運動遊び」が影響している	28
3.1.15	運動や体の操作が上手な子どもは兄,姉との「運動遊び」が影響している	29

3.1.16 「幼児期運動指針」(文部科学省)の内容を理解している(存在を知らない場合は「1」を選択)・・・・・・・・・・・・・・・・	30
3.1.17 子どもの頃(小学生の頃まで)、「外遊び」をしていた・・・・・・・・	31
3.1.18 運動(スポーツ)や体を動かすのが好きだ・・・・・・・・	33
3.1.19 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊んでいる・・・・・・・・	34
3.1.20 「運動遊び」の知識や技能がある・・・・・・・・	36
3.2.21 日々の保育の中で子どもに「運動遊び」を働きかける(「いざなう」)のは得意だ ・・・・・・・・	37
3.1.22 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊ぶのが好きだ・・・・・・・・	38
3.1.23 日々の保育の中で「運動遊び」をする時に、子どもに手本を見せるのは得意だ	40
3.1.24 「運動遊び」は、運動を担当する専門の外部講師に任せるよりも、自分が行い たい・・・・・・・・	41
3.1.25 「運動遊び」は自分が行うよりも、運動を担当する専門の外部講師に任せたい	42
3.1.26 「運動遊び」について、他の保育者の保育の様子を見る機会がある・・・・・・・・	44
3.1.27 「運動遊び」について、身近な場所で学ぶ機会がある・・・・・・・・	45
3.1.28 「運動遊び」について、機会があれば学んでみたい・・・・・・・・	46
3.1.29 自分の園での「運動遊び」の取組に満足している・・・・・・・・	47
3.1.30 あなたは、子どもの頃(小学生の頃まで)、放課後や休日に、どこでよく遊んで いましたか・・・・・・・・	49
3.1.31 あなたは、子どもの頃(小学生の頃まで)、放課後や休日に、どのような遊びをよ くしていましたか・・・・・・・・	53
3.1.34 あなたは、県の「幼児期からの運動習慣アップ支援事業」のプレ研修会(H30:阿 賀野市、加茂市、小千谷市、南魚沼市、糸魚川市)又はモデル研修会(R1:田上 町、長岡市、刈羽村、上越市)に参加したことがありますか・・・・・・・・	55
3.1.35 姿勢が悪いと回答した保育者の運動遊びの回答・・・・・・・・	55
3.2 運動遊びに関する実態調査 調査票1(共通用)・・・・・・・・	56
3.2.1 年長児の基本的な動きの実態・・・・・・・・	56
4 自由記述・・・・・・・・	58
4.1.1 保育者自身が感じる運動遊び指導上の課題・・・・・・・・	59
4.1.2 子どもの遊び方の変化・・・・・・・・	59
4.1.3 保育園を取り巻く社会情勢の変化・・・・・・・・	59
4.1.4 保育園と総合型地域スポーツクラブ等の連携・・・・・・・・	60
5 まとめ・・・・・・・・	60
謝辞	
調査票	

1 目的

新潟県では楽しく体を動かす「運動遊び」の普及啓発を通じ、どこに住んでいても、子どもの誰もが幼児期に身に付けておくことが望まれる多様な動きを経験でき、発達段階に応じた適切な援助を受けられる環境の整備を目指し、「幼児期からの運動習慣アップ支援事業」に取り組んでいる。「運動遊び」の取組の実態について、アンケート調査を実施し、本県の幼児期の「運動遊び」の普及、啓発等を推進することを目的とする。

2 研究方法

2.1 研究対象

2.1.1 研究対象の属性

認可保育園、認定こども園 722 園に配布し、634 園から回答を得た(園回収率:87.8%)。

保育者へのアンケート調査は、関川村 6 人、阿賀野市 41 人、阿賀町 8 人、田上町 3 人、出雲崎町 3 人、糸魚川市 19 人、魚沼市 28 人、小千谷市 33 人、柏崎市 83 人、刈羽村 3 人、加茂市 30 人、五泉市 40 人、佐渡市 47 人、三条市 72 人、新発田市 82 人、上越市 139 人、聖籠町 6 人、胎内市 25 人、津南町 13 人、燕市 54 人、十日町市 56 人、長岡市 207 人、新潟市 583 人、見附市 35 人、南魚沼市 65 人、妙高市 22 人、村上市 42 人、弥彦村 5 人、湯沢町 3 人、未記入 20 人の新潟県内 634 園に勤める、計 1,773 人に行った。

役職の内訳は、園長 572 人、副園長、主任保育士等の管理的又は指導的立場 529 人、年長児クラス担任 609 人、その他 63 人である。

2.2 アンケート調査

アンケート調査は、「調査票 1 (共通用)」と、「調査票 2 (年長児担任用)」の 2 種類がある。

「調査票 1 (共通用)」は、①園長、②副園長、主任保育士等の管理又は指導的立場にある特定のクラスを担当しない保育者、③「年長児」クラスを担当する保育者(担任)、それぞれ 1 名に回答していただいた。内容は主に、「所属する園のある市町村」、「所属する園の形態(公立・私立、保育園・こども園)」、「性別」、「保育者としての経験年数」、「役職」、「年長児の動きや体の使い方、身のこなしについて気になる点」、「自身(の園)が保育に『運動遊び』を取り入れているかどうか」、「自身にとって、保育に『運動遊び』を取り入れる目的」、「保育に『運動遊び』を取り入れる上で、自身に感じている課題」、「自身の園で、運動を担当する専門の外部講師を導入しているか否か」、「子どもの運動に関する自身の考え方」、「自分自身の運動に関する考え方」、「自身が子どもの頃(小学生の頃まで)に遊んでいた場所や内容」、「自身の中学・高校時代の部活動」、「県の『幼児期からの運動習慣アップ支援事業』のプレ研修会又はモデル研修会への参加の有無」、「『運動遊び』について日々の保育で感じることの自由記載」等である。

「調査票 2 (年長児担任用)」は、「調査票 1 (共通用)」を回答した「年長児」のクラスを担当する保育者 (担任) に回答していただいた。内容は主に、「所属する園のある市町村」, 「所属する園の形態 (公立・私立, 保育園・こども園)」, 「性別」, 「保育者としての経験年数」, 「日々の保育の中で, 「体のバランスをとる動き」, 「体を移動する動き」, 「用具などを操作する動き」を子ども (年長児) がどのくらいの頻度で行っているかの自身の考え方」, 「まとまった時間に体を動かして遊んだり運動したりする場合, 「『一斉 (設定) 保育』と『自由保育』のどちらの形態をとっているか」, 「体を動かすのに, 移動の時間などの細切れの『すき間時間』を活用しているかどうか」等である。

3 結果

3.1 運動遊びに関する実態調査 調査票 1 (共通用)

新潟県内の認可保育園, 認定こども園に所属する保育者 1,773 人へのアンケート調査をもとに保育園等の「運動遊び」についての結果を以下に示す。役職の内訳は, 園長 572 人, 副園長, 主任保育士等の管理的又は指導的立場 529 人, 年長児クラス担任 609 人, その他 63 人である。

3.1.1 あなたの園がある市町村名を記入してください

「関川村」6 人 0%, 「阿賀野市」41 人 2%, 「阿賀町」8 人 0%, 「田上町」3 人 0%, 「出雲崎町」3 人 0%, 「糸魚川市」19 人 1%, 「魚沼市」28 人 2%, 「小千谷市」33 人 2%, 「柏崎市」83 人 5%, 「刈羽村」3 人 0%, 「加茂市」30 人 2%, 「五泉市」40 人 2%, 「佐渡市」47 人 3%, 「三条市」72 人 4%, 「新発田市」84 人 5%, 「上越市」138 人 8%, 「聖籠町」6 人 0%, 「胎内市」25 人 1%, 「津南町」13 人 1%, 「燕市」54 人 3%, 「十日町市」56 人 3%, 「長岡市」207 人 12%, 「新潟市」583 人 33%, 「見附市」30 人 2%, 「南魚沼市」65 人 4%, 「妙高市」19 人 1%, 「村上市」42 人 2%, 「弥彦村」5 人 0%, 「湯沢町」3 人 0%, 計 1,755 人であった。

3.1.2 あなたの所属先を教えてください

「公立保育園」805 人 48%, 「公立こども園」42 人 2%, 「私立保育園」424 人 25%, 「私立こども園」419 人 25%, 「その他」7 人 0%, 計 1,697 人であった。

3.1.3 あなたの性別を教えてください

「女性」1536 人 91% 「男性」161 人 9%, 計 1,697 人であった。

3.1.4 あなたの保育者としての経験年数を教えてください

「5 年未満」123 人 7%, 「5 年～10 年」211 人 12%, 「11 年～20 年」464 人 27%, 「21 年～30 年」552 人 34%, 「31 年以上」346 人 20%, 計 1,696 人であった。(図 1)

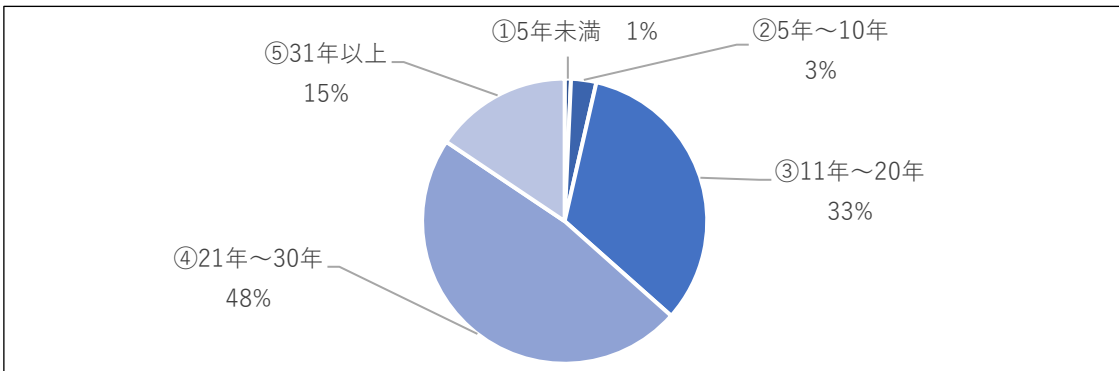


図 1-1 あなたの保育者としての経験年数を教えてください（総計）

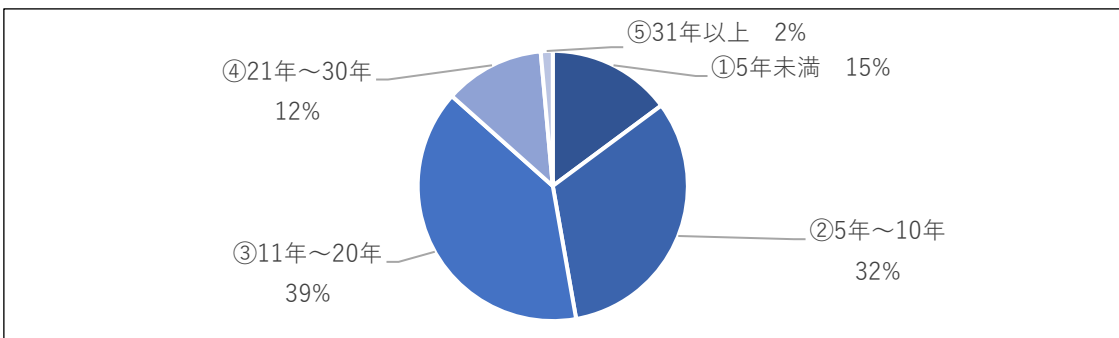


図 1-2 あなたの保育者としての経験年数を教えてください（担任）

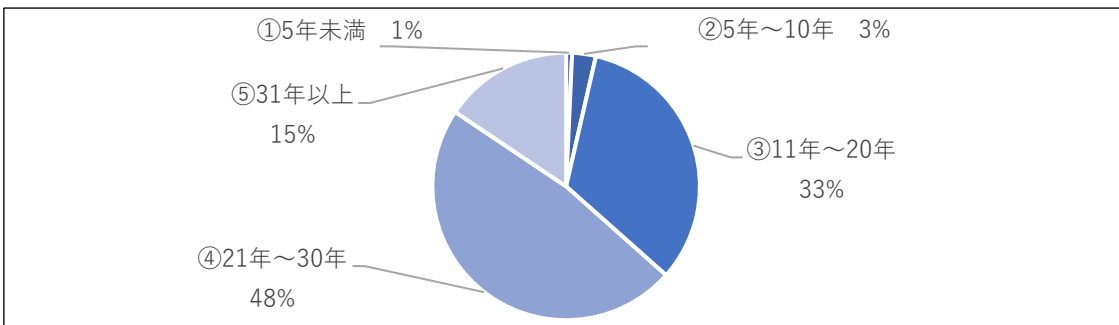


図 1-3 あなたの保育者としての経験年数を教えてください（副園長・主任）

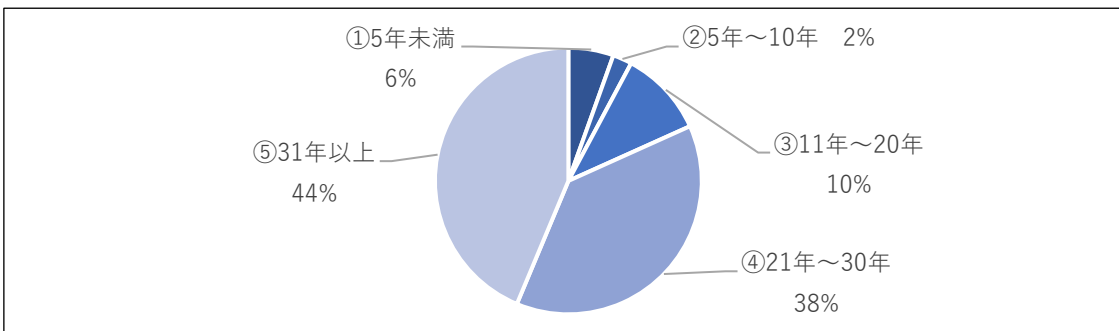


図 1-4 あなたの保育者としての経験年数を教えてください（園長）

3.1.5 あなたの役職（立場）を教えてください

「園長」572人34%「副園長，主任保育士等の管理的又は指導的立場」529人31%「年長児クラス担任」533人32%「その他」42人3%，計1,676人であった。

3.1.6 子ども（年長児）の動きや体の使い方，身のこなしを見ていて，どんなことが気になりますか。上位3つを順位の高い順に番号を記入してください。（図2-1,2-2,2-3）

第1位に対するアンケート結果（図2-1）は「①つまずきやすい・転びやすい」126人8%，「②転んでも手が出ずに，顔を怪我する」127人8%，「③人や物をよけられず，よくぶつかる」102人6%，「④歩く経験が少ない」193人12%，「⑤まっすぐに走れない」4人0%，「⑥気を付けなど，同じ姿勢を保てず崩れてしまう」380人23%，「⑦上手にしゃがめない」9人1%，「⑧姿勢が悪い（座っているとき，立っているとき，歩くときなど）」491人28%，「⑨すぐに『疲れた』，『動けない』と訴える」173人10%，「⑩体を動かしたがいらない（運動したがいらない）」7人0%，「⑪すぐにあきらめてしまう，続けたがいらない」50人3%，「⑫その他」16人1%，計1678人であった。

第2位に対するアンケート結果（図2-2）は，「①つまずきやすい・転びやすい」139人8%，「②転んでも手が出ずに，顔を怪我する」98人6%，「③人や物をよけられず，よくぶつかる」124人7%，「④歩く経験が少ない」145人9%，「⑤まっすぐに走れない」12人1%，「⑥気を付けなど，同じ姿勢を保てず崩れてしまう」367人22%，「⑦上手にしゃがめない」35人2%，「⑧姿勢が悪い（座っているとき，立っているとき，歩くときなど）」397人25%，「⑨すぐに『疲れた』，『動けない』と訴える」219人13%，「⑩体を動かしたがいらない（運動したがいらない）」21人1%，「⑪すぐにあきらめてしまう，続けたがいらない」97人6%，「⑫その他」5人0%，計1659人であった。

第3位に対するアンケート結果（図2-3）は「①つまずきやすい・転びやすい」139人9%，「②転んでも手が出ずに，顔を怪我する」81人5%，「③人や物をよけられず，よくぶつかる」163人10%，「④歩く経験が少ない」194人12%，「⑤まっすぐに走れない」25人2%，「⑥気を付けなど，同じ姿勢を保てず崩れてしまう」190人12%，「⑦上手にしゃがめない」45人3%，「⑧姿勢が悪い（座っているとき，立っているとき，歩くときなど）」205人13%，「⑨すぐに『疲れた』，『動けない』と訴える」314人18%，「⑩体を動かしたがいらない（運動したがいらない）」34人2%，「⑪すぐにあきらめてしまう，続けたがいらない」229人13%，「⑫その他」1人0%，計1,631人であった。

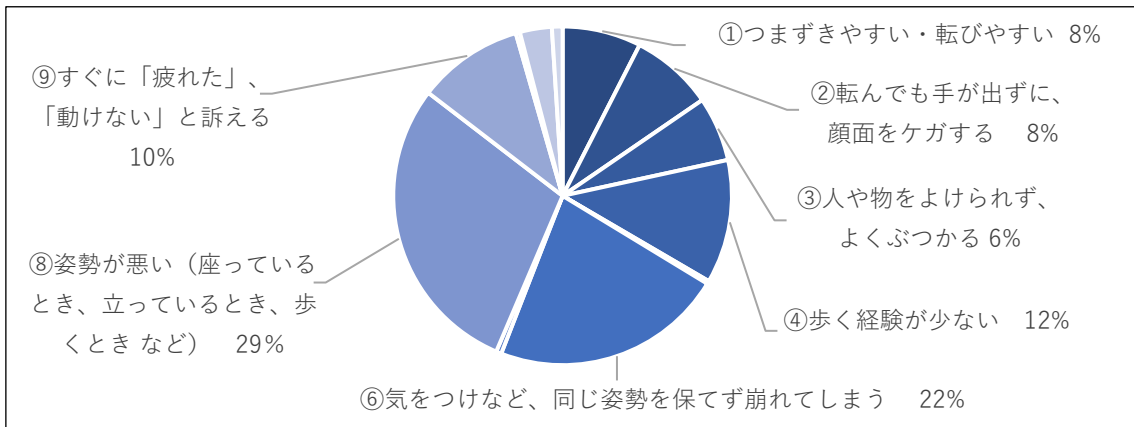


図 2-1-1 子ども（年長児）の動きや体の使い方，身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 1 位）（総計）

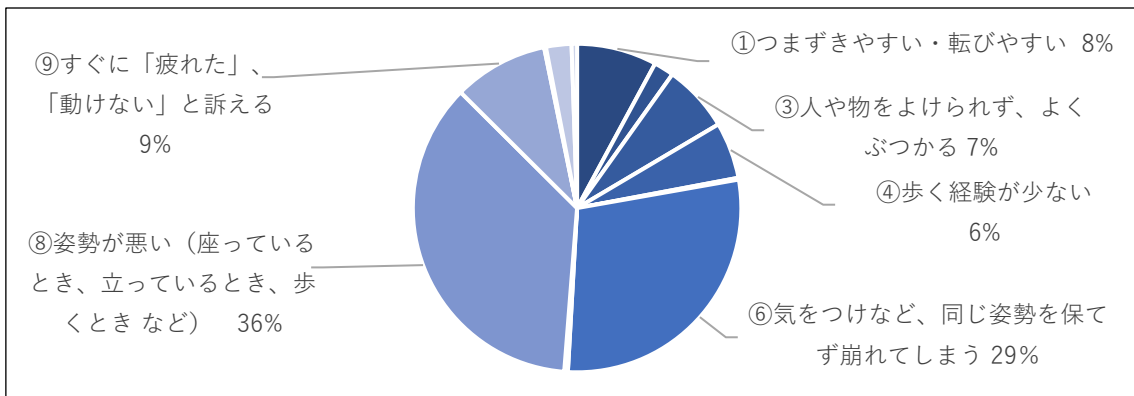


図 2-1-2 子ども（年長児）の動きや体の使い方，身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 1 位）（担任）

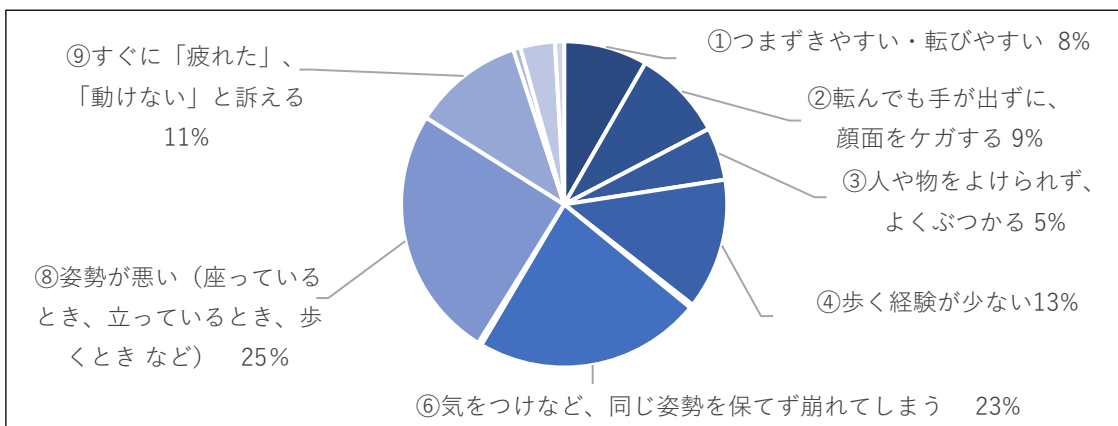


図 2-1-3 子ども（年長児）の動きや体の使い方，身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 1 位）（副園長・主任）

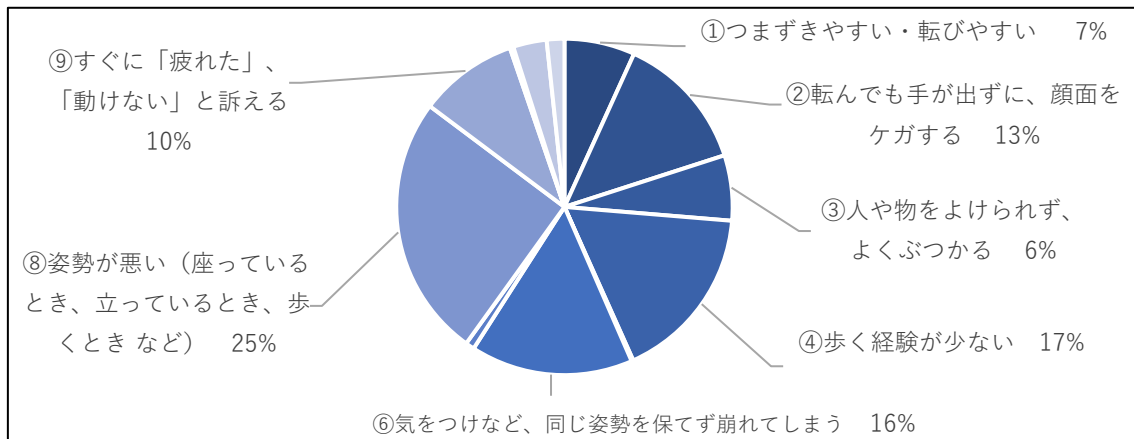


図 2-1-4 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 1 位）（園長）

保育者は、「つまずきやすい・転びやすい 8%」、「転んでも手が出ずに、顔面を怪我する 6%」（合計 14%）より、「気をつけなど、同じ姿勢を保てず崩れてしまう 22%」、「姿勢が悪い（座っているとき、立っているとき、歩くときなど） 29%」（計 51%）であり、姿勢に関する課題を抱えていることが伺える。

第 1 位で全体的に多かったのは「姿勢が悪い（座っているとき、立っているとき、歩くときなど）」であるが、担任は、同様に「気をつけなど、同じ姿勢を保てず崩れてしまう」ことも懸念している。

正木らの「子どものからだのおかしさ」の全国調査は、1978 年から続いており、野井・阿部らの「子どものからだの調査 2015」では、保育所において最近増えている実感として 1 位「アレルギー」、2 位「背中ぐにゃ」、3 位「すぐ疲れたという」と報告している。「背中ぐにゃ」は、2000 年 5 位、2005 年 4 位、2010 年 3 位と 5 年毎に順位を上げており、全国規模の調査でも姿勢が悪いことが伺える。

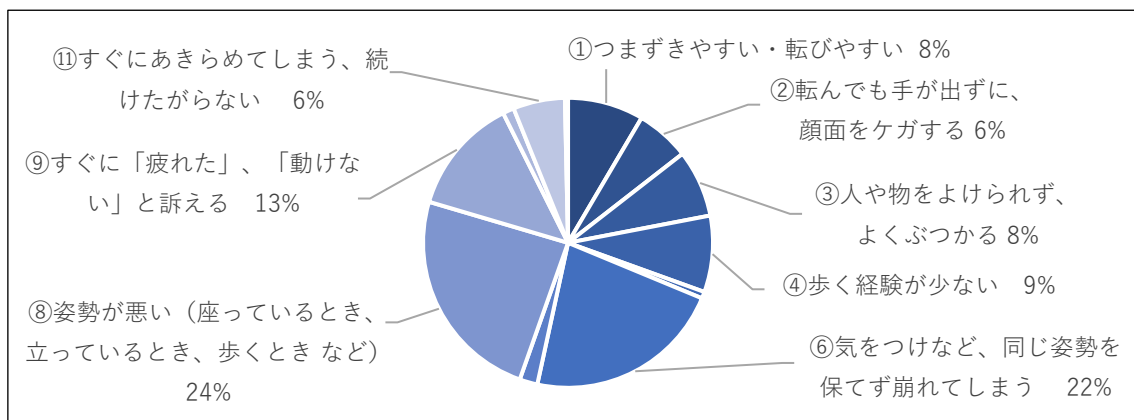


図 2-2-1 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 2 位）（総計）

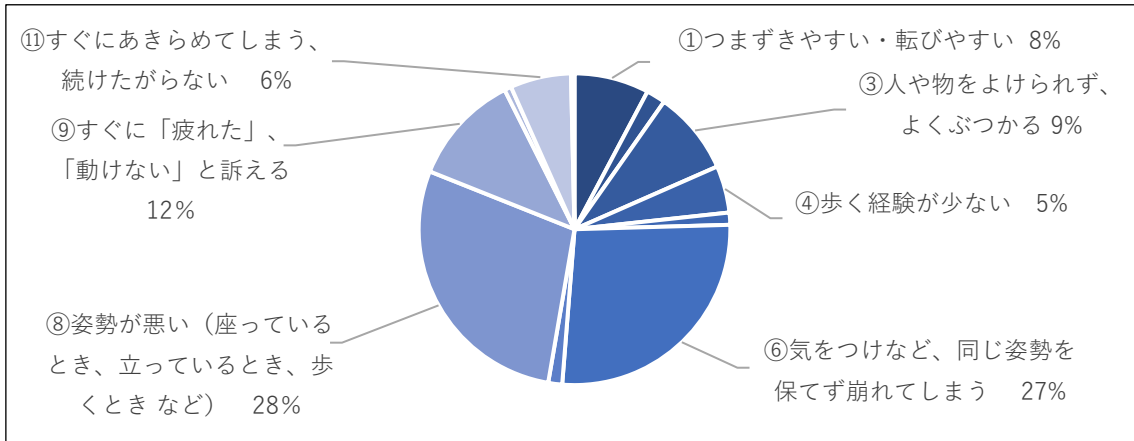


図 2-2-1 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 2 位）（担任）

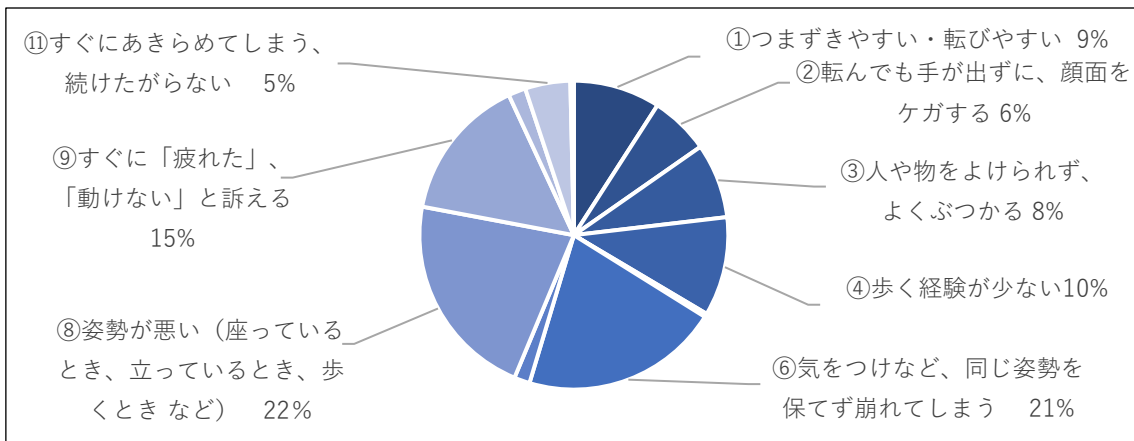


図 2-2-3 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 2 位）（副園長・主任）

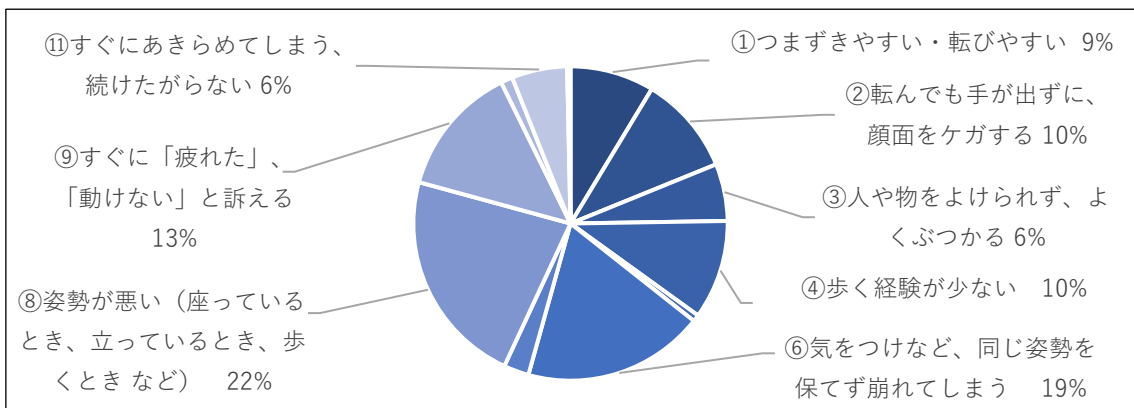


図 2-2-4 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 2 位）（園長）

第2位も「姿勢が悪い（座っているとき、立っているとき、歩くときなど）」と回答した人が多く、次いで「気をつけなど、同じ姿勢を保てず崩れてしまう」という回答が増加した。「すぐに『疲れた』、『動けない』と訴える」も増加傾向にある。

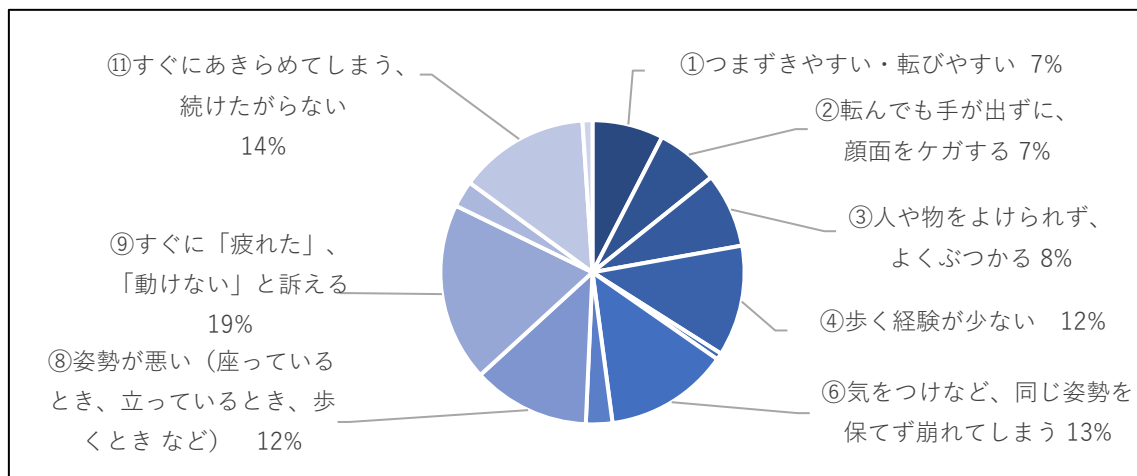


図 2-3-1 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、どんなことが気になりますか（第3位）（総計）

第3位で最も多かった回答は「すぐに『疲れた』、『動けない』と訴える」であるが、担任は「すぐにあきらめてしまう、続けたがらない」という回答も多かった。

筋力だけでなく、子どもの心の問題も関わっており、心と体のバランスが重要で姿勢は心の表れでもある。

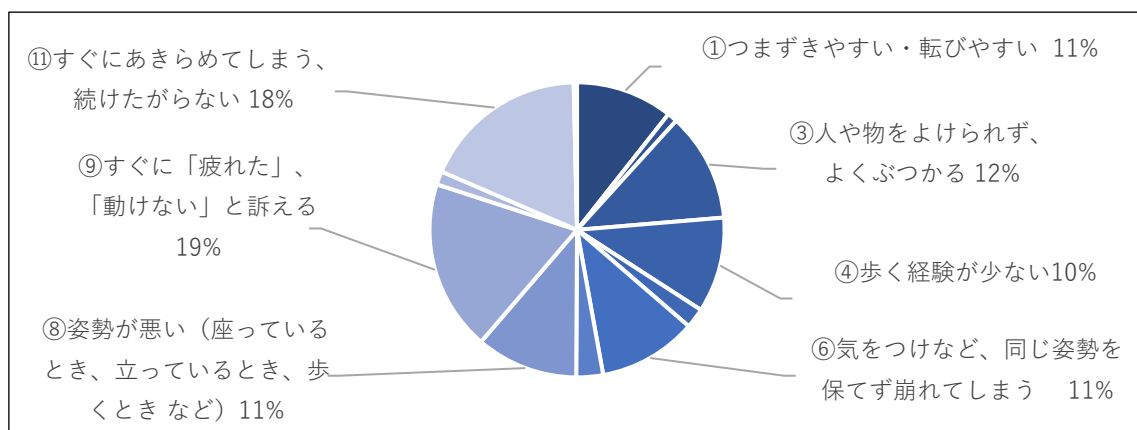


図 2-3-2 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、どんなことが気になりますか（第3位）（担任）

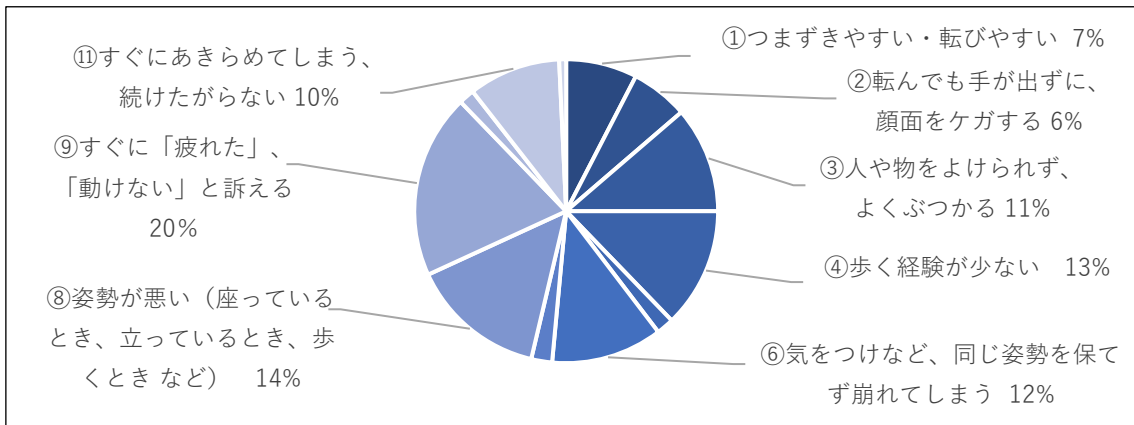


図 2-3-3 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 3 位）（副園長・主任）

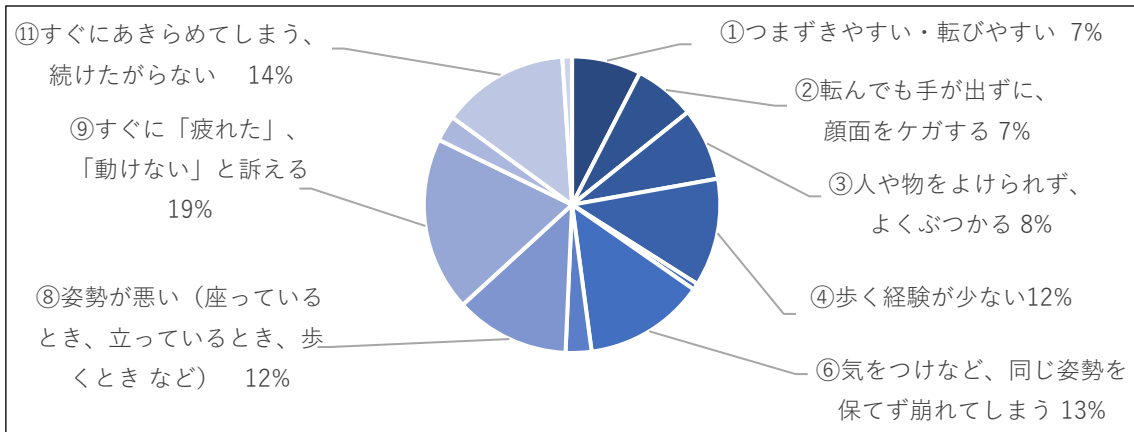


図 2-3-4 子ども（年長児）の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、
どんなことが気になりますか（第 3 位）（園長）

3.1.7 自分は（自分の園では）、保育に「運動遊び」を取り入れている

「①全くそう思わない」0人0%、「②あまりそう思わない」53人3%、「③どちらともいえない」204人12%、「④ややそう思う」1,074人64%、「⑤とてもそう思う」363人21%、計1,694人であった。（図3）

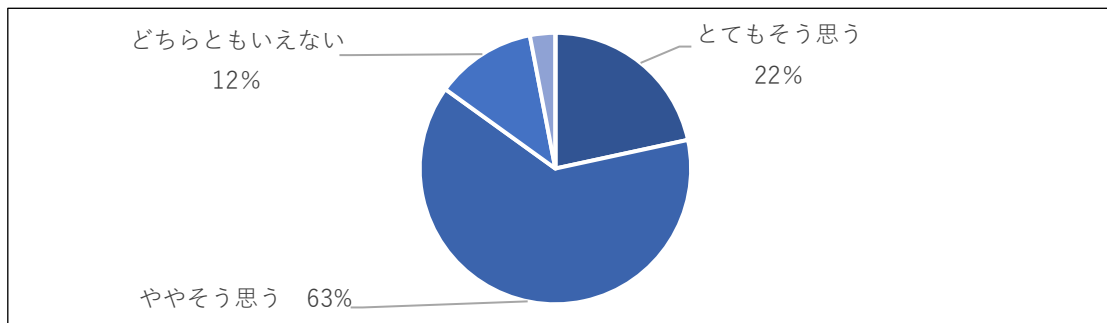


図 3-1 自分は（自分の園では）、保育に「運動遊び」を取り入れている（総計）

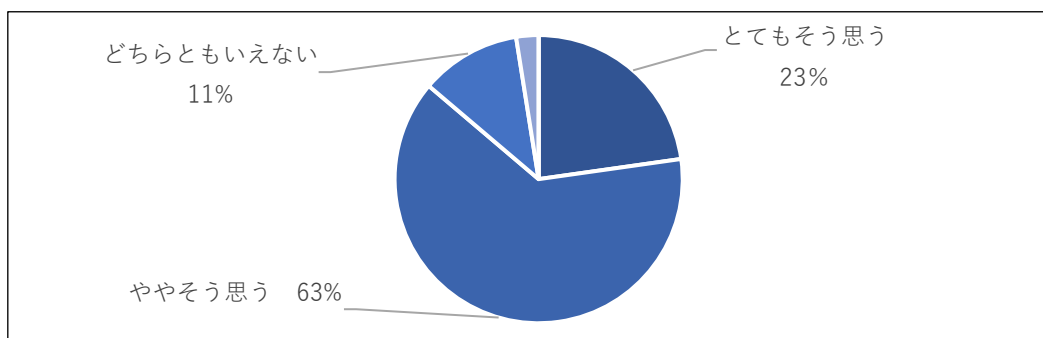


図 3-2 自分は（自分の園では），保育に「運動遊び」を取り入れている（担任）

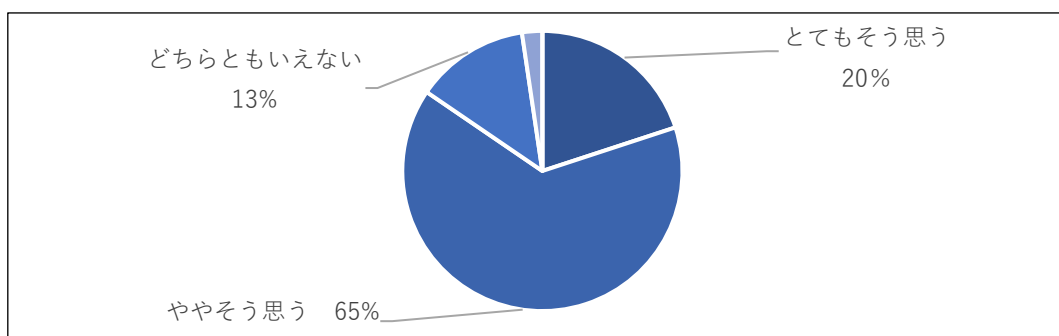


図 3-3 自分は（自分の園では），保育に「運動遊び」を取り入れている（副園長・主任）

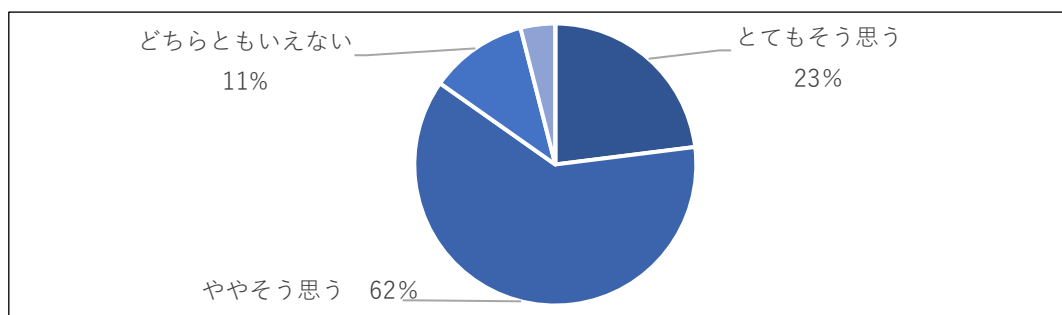


図 3-4 自分は（自分の園では），保育に「運動遊び」を取り入れている（園長）

「自分は（自分の園では），保育に『運動遊び』を取り入れている」の質問項目に、「ややそう思う」と回答した人が最も多かった。

3.1.8 質問 7 で「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答した方に質問です。それは、どのような理由からですか上位 3 つを順位の高い順に番号を記入してください

第 1 位に対するアンケート結果（図 4-1）は「①場所（スペース）がないため」21 人 8%，「②用具（道具）がないため」9 人 4%，「③時間の確保が難しいため」48 人 19%，「④やり方（取り入れ方）が分からないため」25 人 10%，「⑤遊びのレパートリー・バリエーシ

ョンが少ないため」47人19%、「⑥子供が興味を持たないため」2人1%、「⑦（自分が）体を動かすのが嫌い、苦手なため」1人0%、「⑧子どもの安全確保が難しいため」14人6%、「⑨過去に怪我をさせてしまったことがあるため」4人2%、「⑩他に優先してやるべきことがあるため」46人19%、「⑪なんとなく（特に理由はない）」5人2%、「⑫その他」26人10%、計248人であった。

第2位に対するアンケート結果（図4-2）は「①場所（スペース）がないため」9人4%、「②用具（道具）がないため」10人4%、「③時間の確保が難しいため」55人23%、「④やり方（取り入れ方）が分からないため」27人11%、「⑤遊びのレパートリー・バリエーションが少ないため」43人18%、「⑥子供が興味を持たないため」4人2%、「⑦（自分が）体を動かすのが嫌い、苦手なため」1人0%、「⑧子どもの安全確保が難しいため」22人9%、「⑨過去に怪我をさせてしまったことがあるため」1人0%、「⑩他に優先してやるべきことがあるため」57人25%、「⑪なんとなく（特に理由はない）」6人2%、「⑫その他」6人2%、計241人であった。

第3位に対するアンケート結果（図4-3）は「①場所（スペース）がないため」21人9%、「②用具（道具）がないため」10人4%、「③時間の確保が難しいため」29人13%、「④やり方（取り入れ方）が分からないため」29人13%、「⑤遊びのレパートリー・バリエーションが少ないため」35人16%、「⑥子供が興味を持たないため」6人3%、「⑦（自分が）体を動かすのが嫌い、苦手なため」5人2%、「⑧子どもの安全確保が難しいため」24人11%、「⑨過去に怪我をさせてしまったことがあるため」2人1%、「⑩他に優先してやるべきことがあるため」27人12%、「⑪なんとなく（特に理由はない）」27人12%、「⑫その他」9人4%、計224人であった。

保育者は、「他に優先してやるべきことがあるため20%」、「時間の確保が難しいため18%」（計38%）の方が、「遊びのレパートリー・バリエーションが少ないため19%」、「やり方（取り入れ方）が分からないため11%」（計30%）よりも多く、運動遊びに関する知識や技術の獲得の前に、保育者は業務負担の実態が明らかになった。日本保育協会（平成27年）の調査において、保育者の過重な労働と業務の負担感を軽減し、長期勤続していくために有効な提言を行っており、保育者の業務負担感になっている主なものとして書き物業務をあげて、解決の糸口としての保育所業務のICT化を推奨し、保育者が長く働き続ける環境整備は、保育者不足の解消に繋がるとしている。

本県においても、保育者業務の正しいバランス調整が幼児の運動習慣アップ、運動能力の基盤づくりに寄与するものと考えられる。

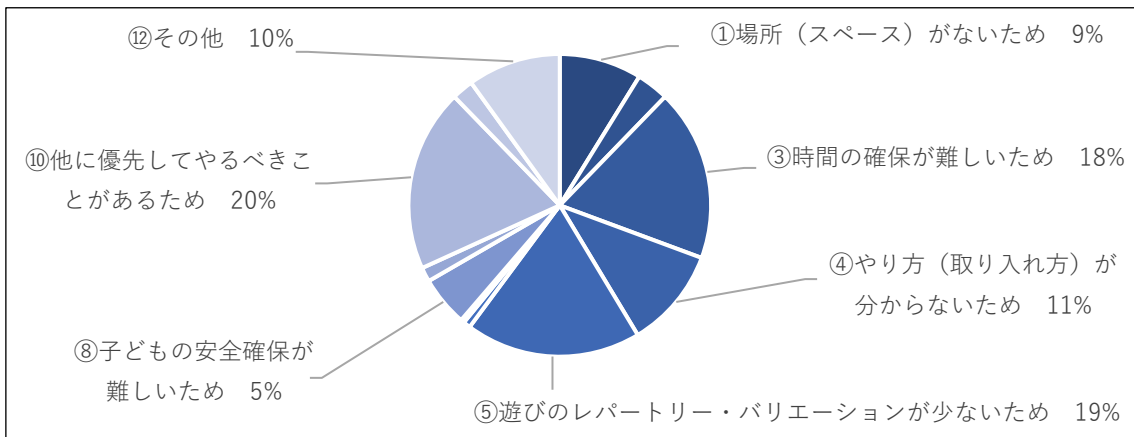


図 4-1-1 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第 1 位）（総計）

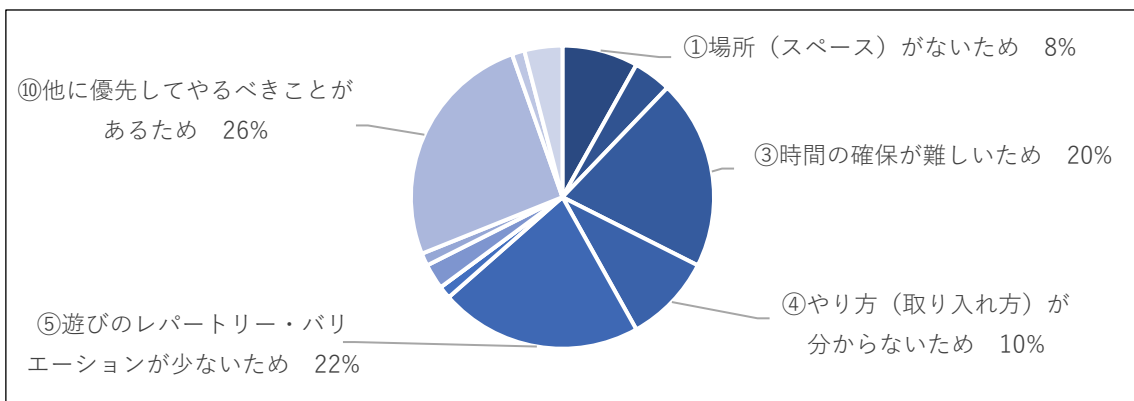


図 4-1-2 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第 1 位）（担任）

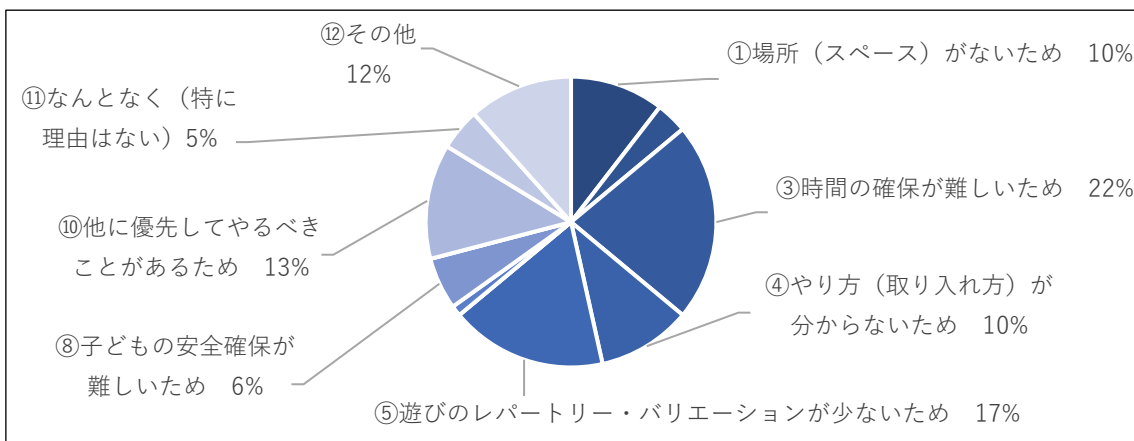


図 4-1-3 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第 1 位）（副園長・主任）

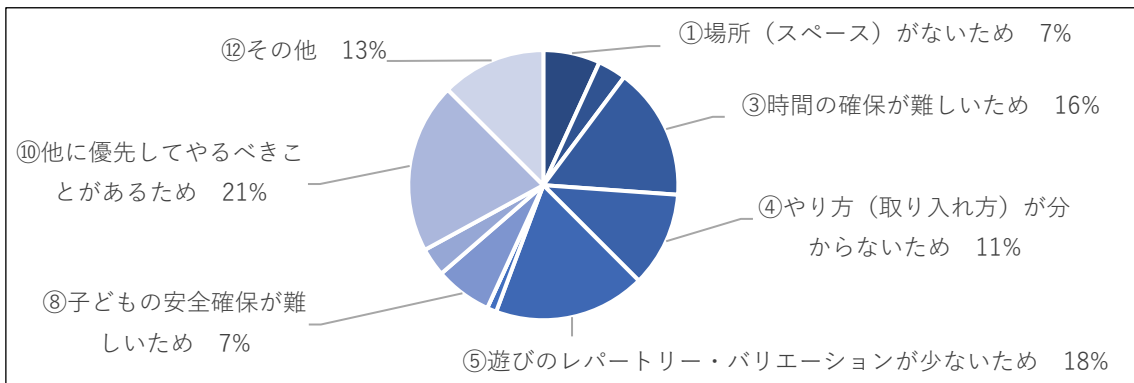


図 4-1-4 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第1位）（園長）

第1位は「他に優先してやるべきことがあるため」、「遊びのレパートリー・バリエーションが少ないため」、「時間の確保が難しいため」が、ほぼ同じ割合であった。運動遊びに関して積極的に取り組んでいる園もあるが、全体としては優先順位が低いことが伺える。

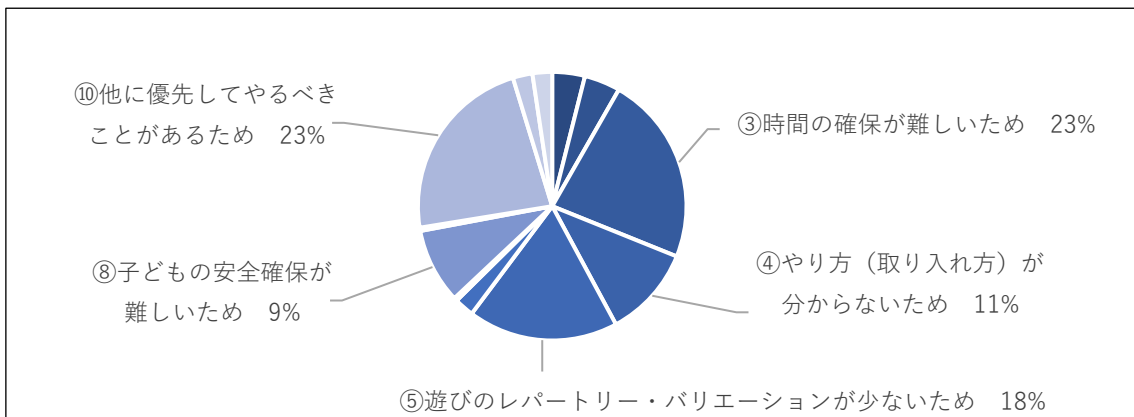


図 4-2-1 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第2位）（総計）

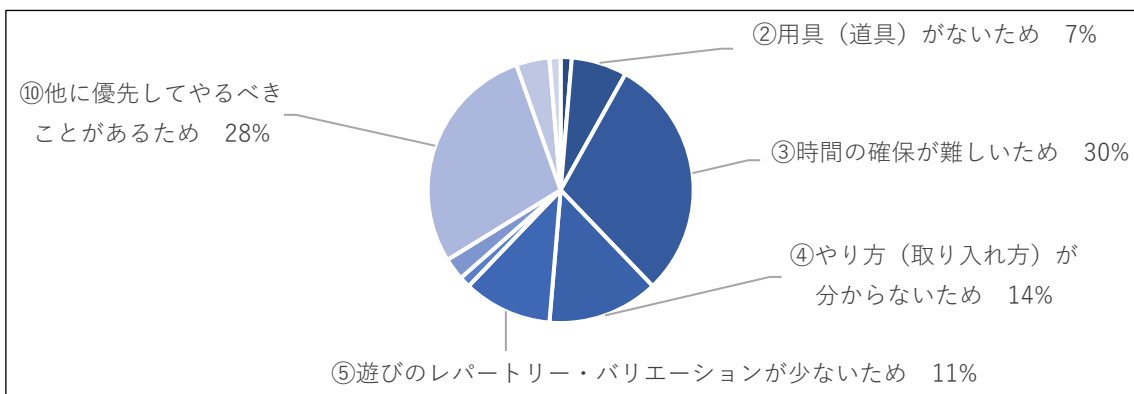


図 4-2-2 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第2位）（担任）

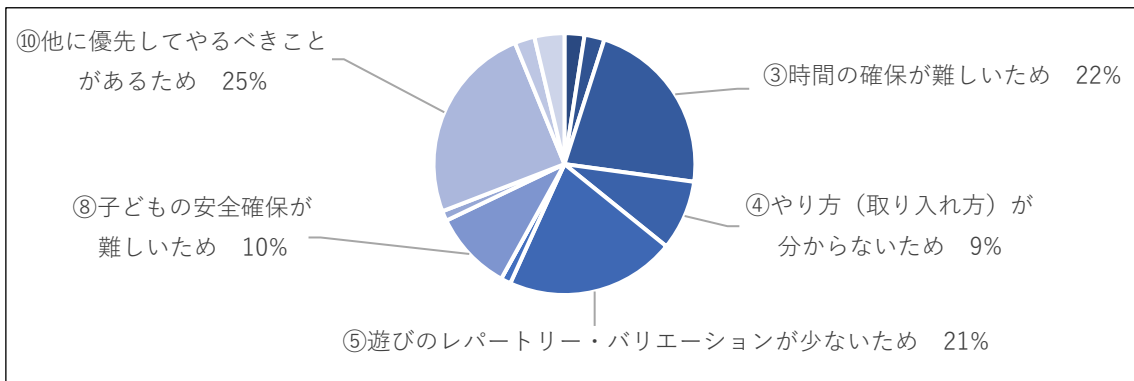


図 4-2-3 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第 2 位）（副園長・主任）

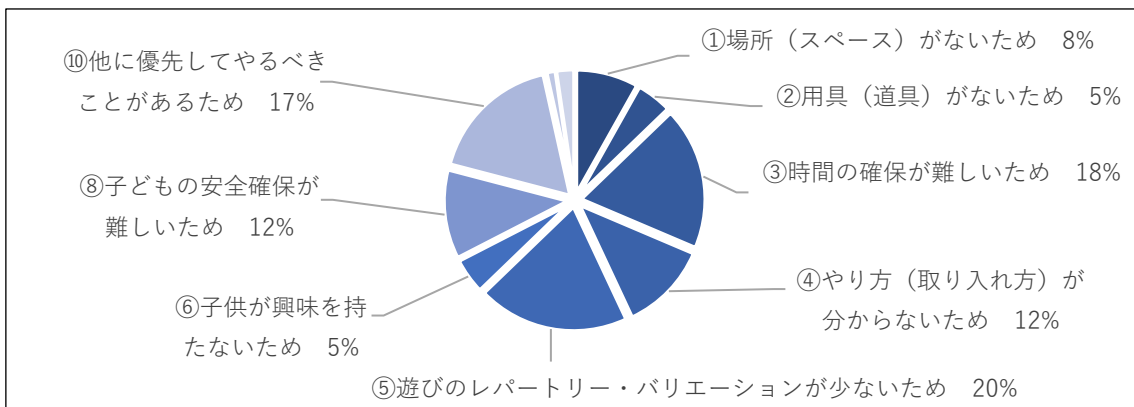


図 4-2-4 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第 2 位）（園長）

第 2 位は同じく「他に優先してやるべきことがあるため」が多かった。「時間の確保が難しいため」も同様に多かったが、特に、担任の回答数が他の役職に比べて高かった。

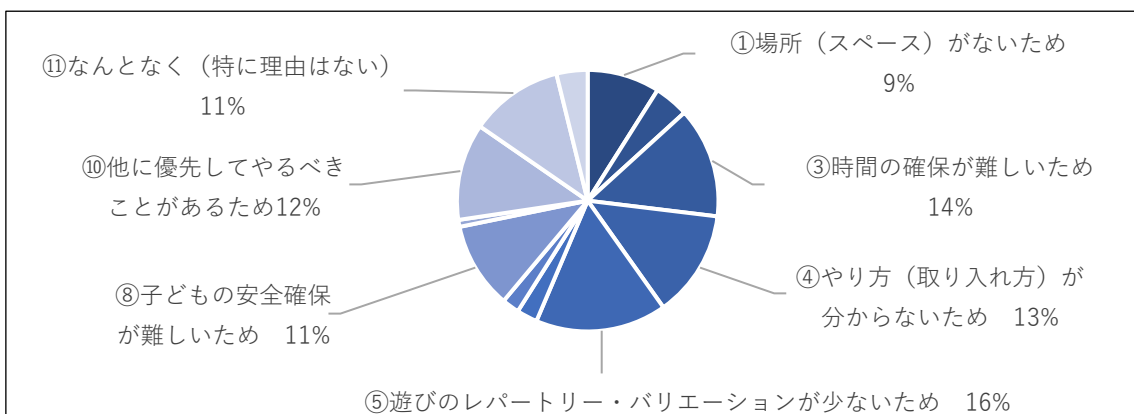


図 4-3-1 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第 3 位）（総計）

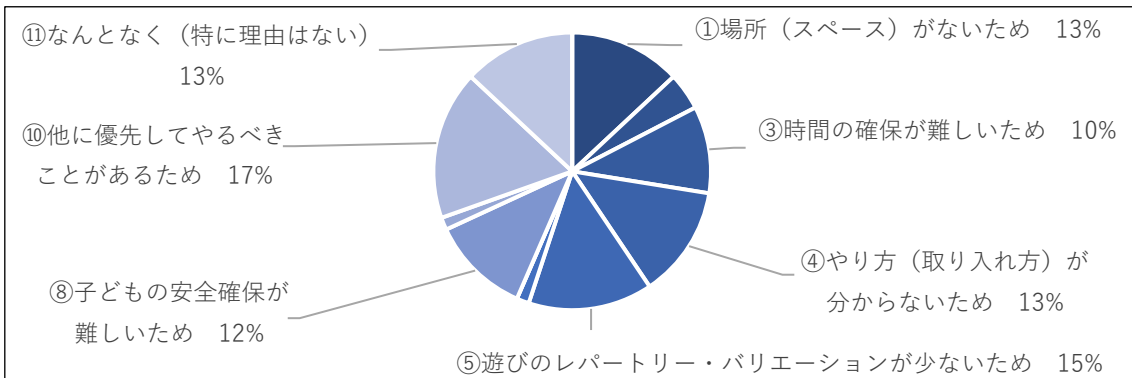


図 4-3-2 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第3位）（担任）

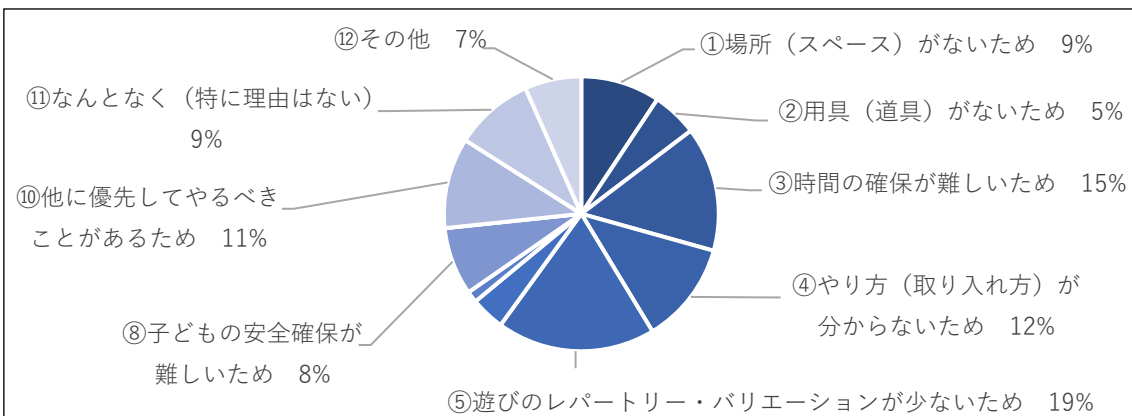


図 4-3-3 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第3位）（副園長・主任）

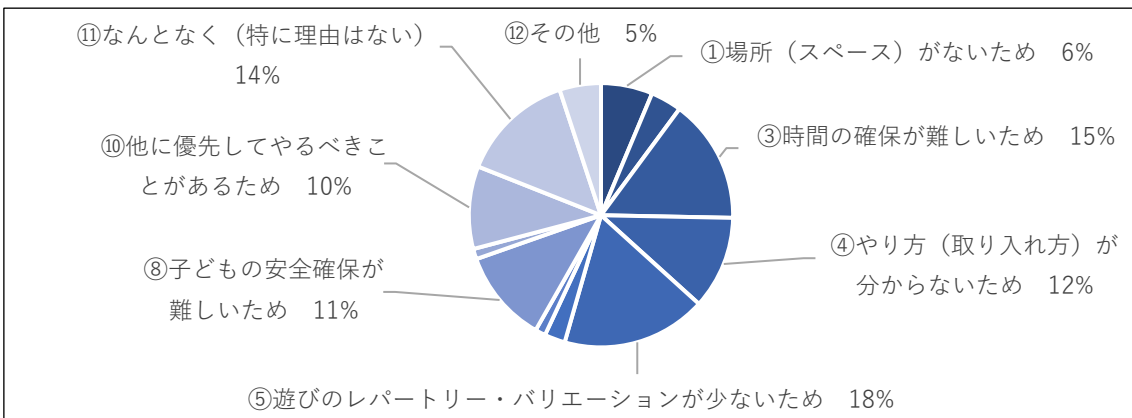


図 4-3-4 保育に「運動遊び」を取り入れにくい要因（第3位）（園長）

第3位は、第1位・第2位で高かった項目以外にも、「やり方（取り入れ方）がわからない」、「なんとなく（特に理由はない）」といった回答が増加した。「場所がない」という回答が下位であることが分かった。

3.1.9 あなたにとって、保育に「運動遊び」を取り入れる目的（ねらい）は何ですか。上位3つを順位の高い順に番号を記入してください

第1位に対するアンケート結果（図5-1）は、「①運動量の確保」49人3%、「②体力の向上」250人15%、「③多様な動き（動作）の経験」209人12%、「④巧みな動き（動作）の獲得」10人1%、「⑤体を動かす楽しさ、心地よさの実感」964人57%、「⑥有能感の実感」7人0%、「⑦集中力の向上」12人1%、「⑧ルール・決まりを守る重要性」30人2%、「⑨仲間との協力や競争」36人2%、「⑩スポーツ（運動）の基礎作り」23人1%、「⑪運動習慣の獲得」10人1%、「⑫大きな怪我の予防」59人3%、「⑬肥満の予防」0人0%、「⑭生活リズムの改善」5人0%、「⑮園の方針や目標、指導計画の達成、実現のため」17人1%、「⑯なんとなく（特に理由はない）」0人0%、「⑰その他」10人1%、計1691人であった。

第2位に対するアンケート結果（図5-2）は、「①運動量の確保」50人3%、「②体力の向上」264人16%、「③多様な動き（動作）の経験」403人24%、「④巧みな動き（動作）の獲得」44人3%、「⑤体を動かす楽しさ、心地よさの実感」271人16%、「⑥有能感の実感」14人1%、「⑦集中力の向上」47人3%、「⑧ルール・決まりを守る重要性」207人12%、「⑨仲間との協力や競争」150人9%、「⑩スポーツ（運動）の基礎作り」55人3%、「⑪運動習慣の獲得」50人3%、「⑫大きな怪我の予防」100人6%、「⑬肥満の予防」1人0%、「⑭生活リズムの改善」18人1%、「⑮園の方針や目標、指導計画の達成、実現のため」8人0%、「⑯なんとなく（特に理由はない）」0人0%、「⑰その他」8人0%、計1690人であった。

第3位に対するアンケート結果（図5-3）は、「①運動量の確保」55人3%、「②体力の向上」212人13%、「③多様な動き（動作）の経験」214人13%、「④巧みな動き（動作）の獲得」42人2%、「⑤体を動かす楽しさ、心地よさの実感」143人9%、「⑥有能感の実感」20人1%、「⑦集中力の向上」68人4%、「⑧ルール・決まりを守る重要性」290人17%、「⑨仲間との協力や競争」231人14%、「⑩スポーツ（運動）の基礎作り」75人4%、「⑪運動習慣の獲得」67人4%、「⑫大きな怪我の予防」174人10%、「⑬肥満の予防」3人0%、「⑭生活リズムの改善」36人2%、「⑮園の方針や目標、指導計画の達成、実現のため」46人3%、「⑯なんとなく（特に理由はない）」0人0%、「⑰その他」6人0%、計1682人であった。

保育者は、運動遊びの目的（第1位）を、「体を動かす楽しさ、心地よさの実感58%」、「多様な動き（動作）の経験14%」、「体力の向上14%」として、役職間においても同様の回答となった。第2位、第3位以降からは、「ルール・決まりを守る重要性」、「仲間との協力や競争」が挙げられ、運動やスポーツの価値が見受けられた。

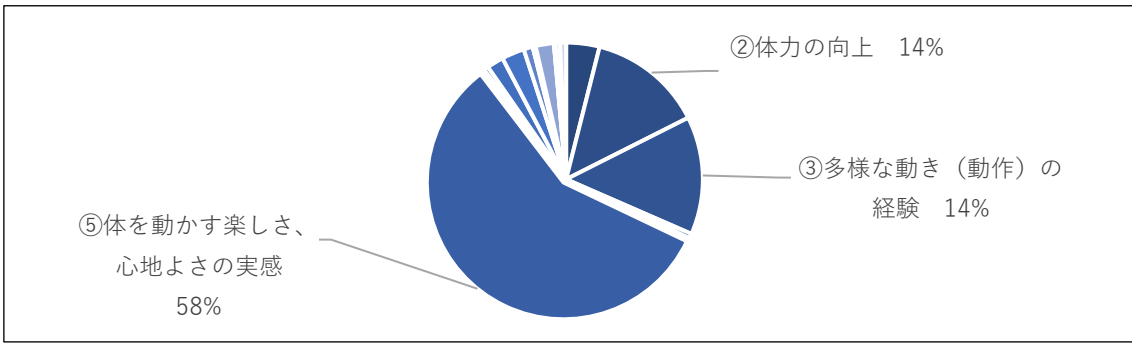


図 5-1-1 保育に「運動遊び」を取り入れる目的 (ねらい) (第 1 位) (総計)

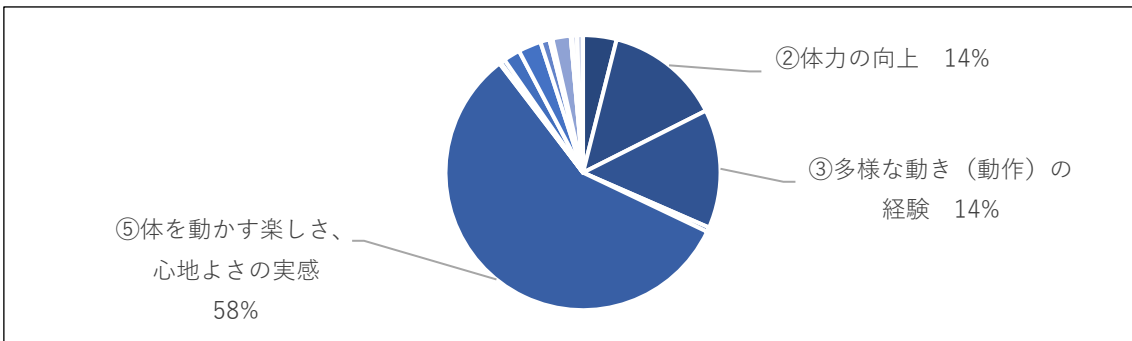


図 5-1-2 保育に「運動遊び」を取り入れる目的 (ねらい) (第 1 位) (担任)

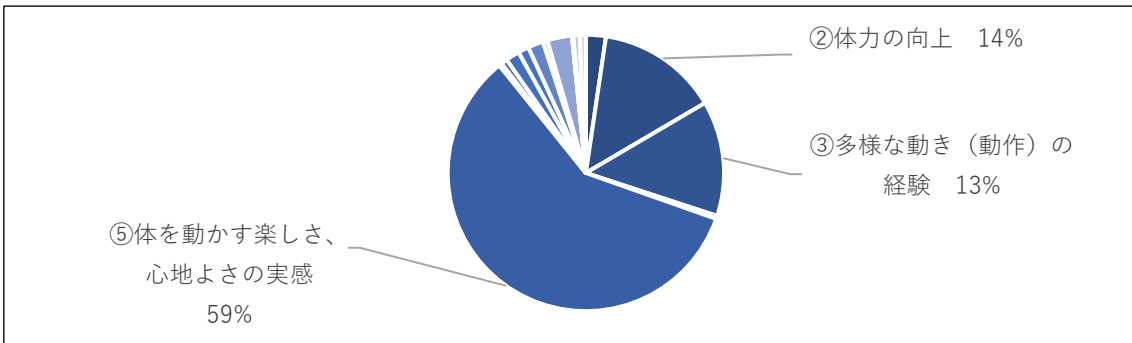


図 5-1-3 保育に「運動遊び」を取り入れる目的 (ねらい) (第 1 位) (副園長・主任)

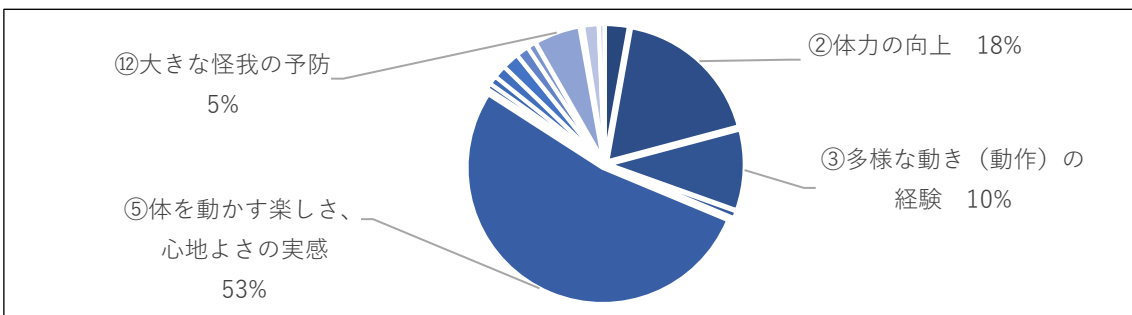


図 5-1-4 保育に「運動遊び」を取り入れる目的 (ねらい) (第 1 位) (園長)

第1位は、半数以上の割合で「体を動かす楽しさ、心地よさの実感」と回答した人が多かった。次いで「体力の向上」、「多様な動き（動作）の経験」という結果であった。

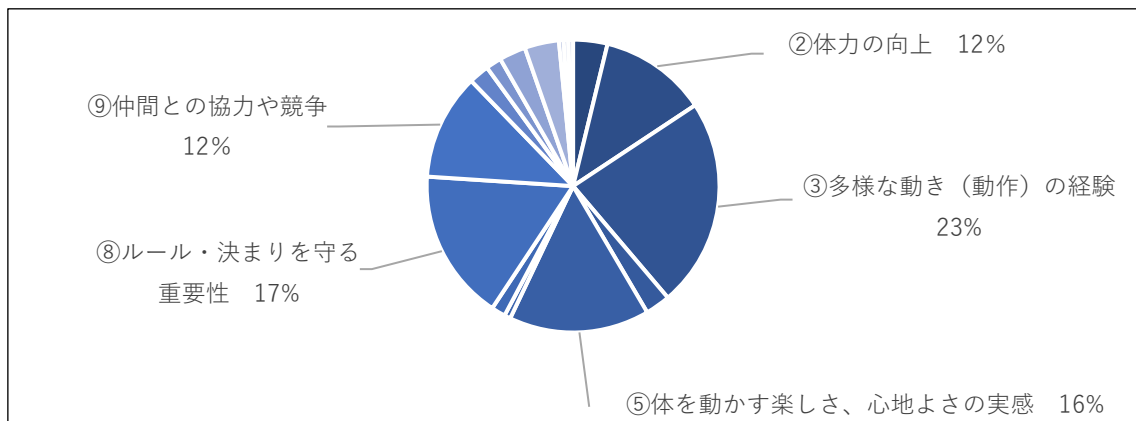


図 5-2-1 保育に「運動遊び」を取り入れる目的（ねらい）（第2位）（総計）

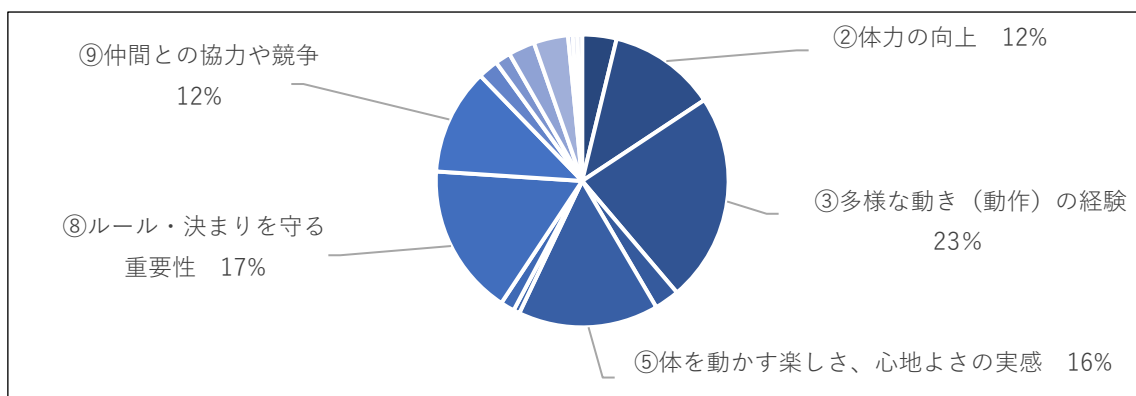


図 5-2-2 保育に「運動遊び」を取り入れる目的（ねらい）（第2位）（担任）

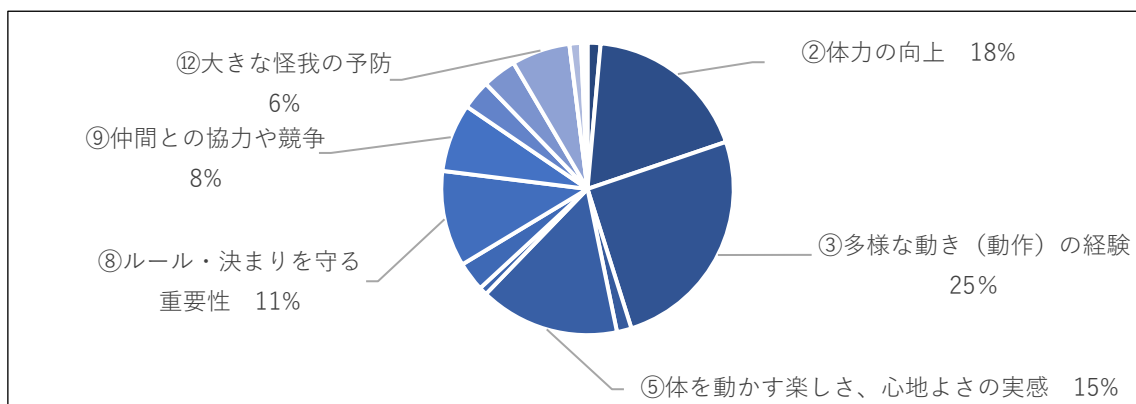


図 5-2-3 保育に「運動遊び」を取り入れる目的（ねらい）（第2位）（副園長・主任）

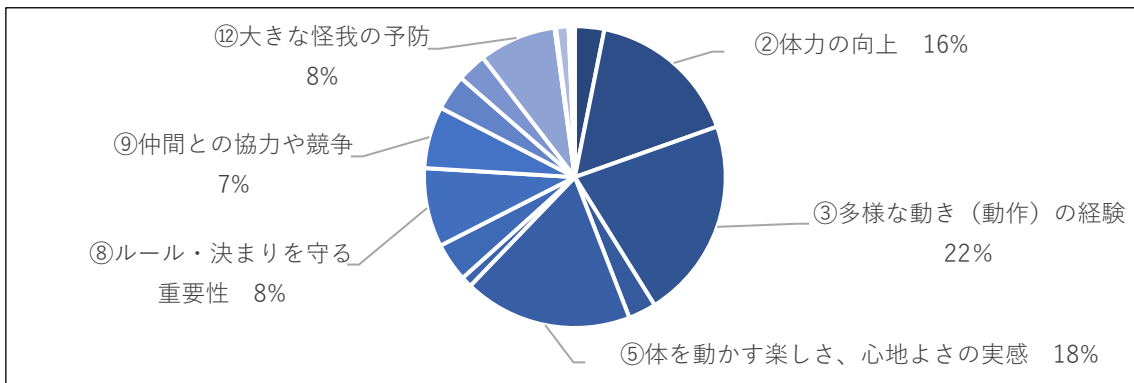


図 5-2-4 保育に「運動遊び」を取り入れる目的（ねらい）（第 2 位）（園長）

第 2 位は、第 1 位の項目に加え「体力の向上」と回答した人が多かった。また、担任は、「ルール・決まりを守る重要性」、「仲間との協力や競争」と回答した人が増加した。担任は運動遊びを通じて子どもたちの社交性を育て、我慢をさせるなど運動遊びの価値を見出している。

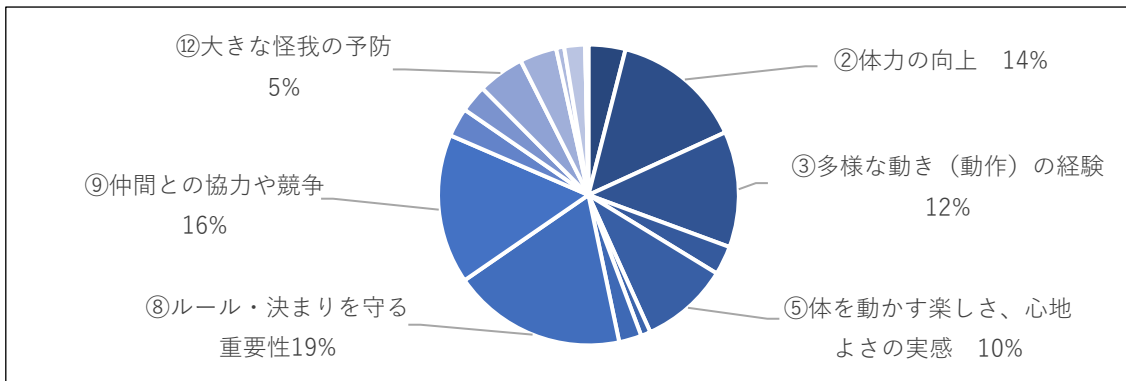


図 5-3-1 保育に「運動遊び」を取り入れる目的（ねらい）（第 3 位）（総計）

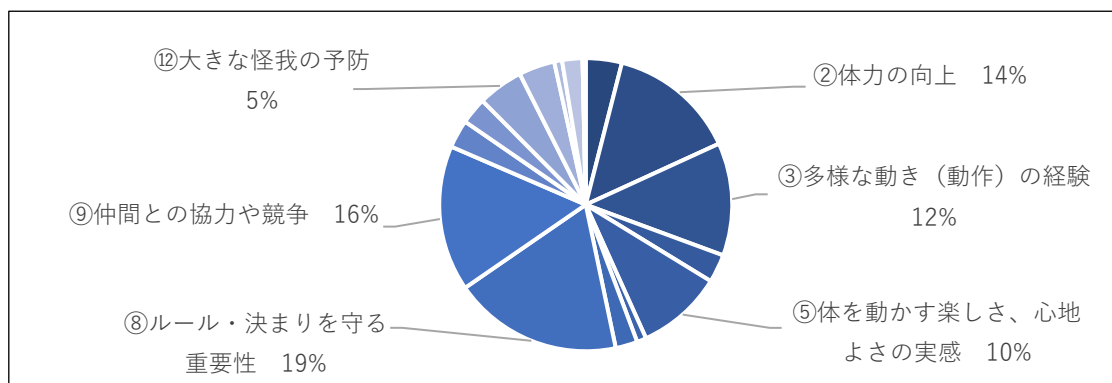


図 5-3-2 保育に「運動遊び」を取り入れる目的（ねらい）（第 3 位）（担任）

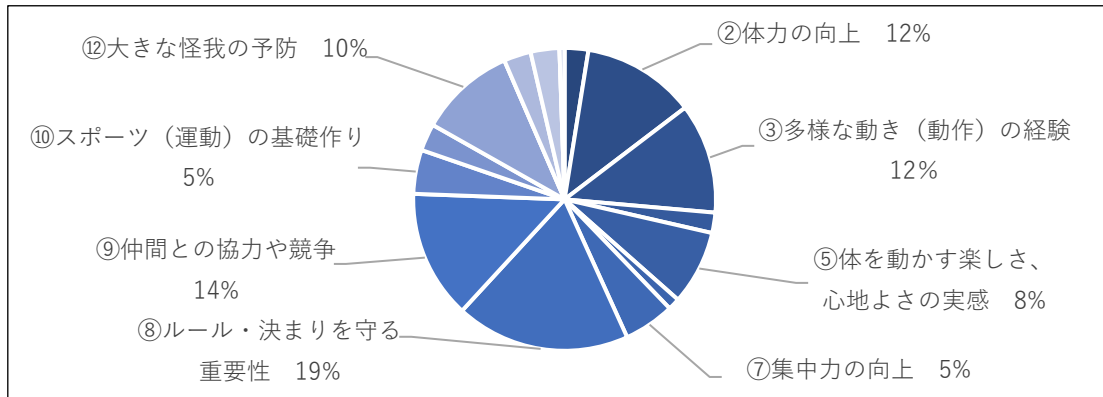


図 5-3-3 保育に「運動遊び」を取り入れる目的（ねらい）（第 3 位）（副園長・主任）

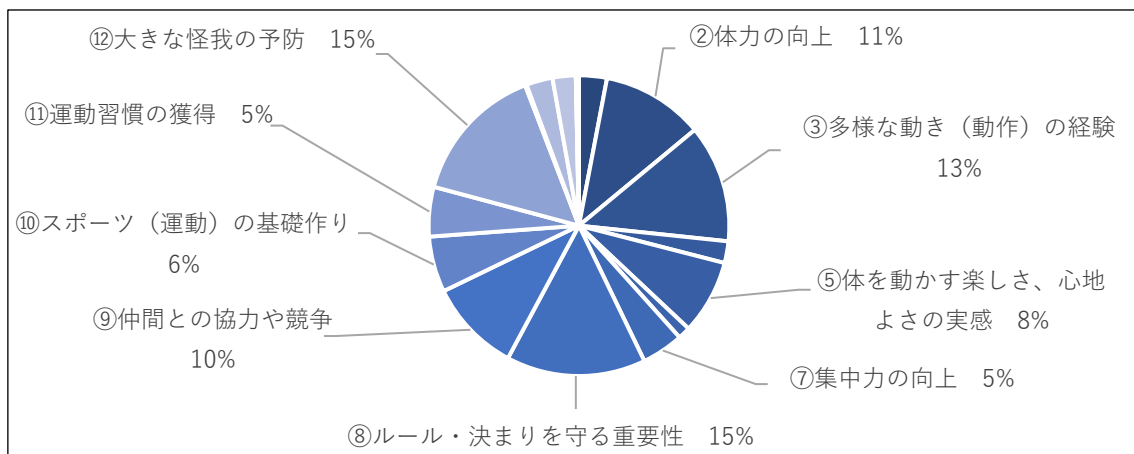


図 5-3-4 保育に「運動遊び」を取り入れる目的（ねらい）（第 3 位）（園長）

第 3 位は、第 1 位・第 2 位の項目に加え「大きな怪我の予防」の割合が増加したが、役職別に見ると、担任は「ルール・決まりを守る重要性」、「仲間との協力や競争」の回答がさらに増加した。

3.1.10 保育に「運動遊び」を取り入れる上で、あなたはどのようなことを課題に感じていますか。上位 3 つを順位の高い順に番号を記入してください

第 1 位に対するアンケート結果（図 6-1）は「①発達の特徴に応じた遊びの内容」284 人 17%、「②発達の特徴に応じた援助の仕方」117 人 7%、「③遊びのレパートリー・バリエーションの少なさ」208 人 12%、「④一人一人の個人差，発達に応じた援助」251 人 15%、「⑤動き（動作）の見方，観察の仕方」27 人 2%、「⑥スポーツや学校体育へのつながりに関する知識」22 人 1%、「⑦保育者として一緒に楽しめないこと」5 人 0%、「⑧嫌がる子や苦手意識を持った子への援助方法」151 人 9%、「⑨思わず体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方」254 人 15%、「⑩子ども意欲を引き出すための方法」85 人 5%、「⑪お手本と

して自分がやって見せること」10人1%、「⑫用具、固定遊具の操作・使い方やそのねらい」7人0%、「⑬保育活動での取り入れ方」84人5%、「⑭相談できる人がいないこと」1人0%、「⑮特定の種目（跳び箱、鉄棒、体操等）の指導」48人3%、「⑯見よう見まねで、漠然とやっていること」6人0%、「⑰自分自身が不得意、又は嫌いなこと」5人0%、「⑱学ぶ機会が不足していること」18人1%、「⑲時間の確保が難しいこと」50人3%、「⑳安全対策や危険防止策の実施が難しいこと」33人2%、「㉑その他」17人1%、計1683人であった。

第2位に対するアンケート結果（図6-2）は「①発達の特徴に応じた遊びの内容」141人8%、「②発達の特徴に応じた援助の仕方」138人8%、「③遊びのレパートリー・バリエーションの少なさ」141人8%、「④一人一人の個人差、発達に応じた援助」239人14%、「⑤動き（動作）の見方、観察の仕方」40人2%、「⑥スポーツや学校体育へのつながりに関する知識」20人1%、「⑦保育者として一緒に楽しめないこと」10人1%、「⑧嫌がる子や苦手意識を持った子への援助方法」240人14%、「⑨思わず体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方」239人14%、「⑩子ども意欲を引き出すための方法」168人10%、「⑪お手本として自分がやって見せること」12人1%、「⑫用具、固定遊具の操作・使い方やそのねらい」22人1%、「⑬保育活動での取り入れ方」72人4%、「⑭相談できる人がいないこと」2人0%、「⑮特定の種目（跳び箱、鉄棒、体操等）の指導」57人3%、「⑯見よう見まねで、漠然とやっていること」19人1%、「⑰自分自身が不得意、又は嫌いなこと」9人1%、「⑱学ぶ機会が不足していること」23人1%、「⑲時間の確保が難しいこと」46人3%、「⑳安全対策や危険防止策の実施が難しいこと」29人1%、「㉑その他」9人1%、計1676人であった。

第3位に対するアンケート結果（図6-3）は「①発達の特徴に応じた遊びの内容」105人6%、「②発達の特徴に応じた援助の仕方」121人7%、「③遊びのレパートリー・バリエーションの少なさ」145人9%、「④一人一人の個人差、発達に応じた援助」146人9%、「⑤動き（動作）の見方、観察の仕方」39人2%、「⑥スポーツや学校体育へのつながりに関する知識」45人3%、「⑦保育者として一緒に楽しめないこと」6人0%、「⑧嫌がる子や苦手意識を持った子への援助方法」201人12%、「⑨思わず体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方」181人11%、「⑩子ども意欲を引き出すための方法」145人9%、「⑪お手本として自分がやって見せること」13人1%、「⑫用具、固定遊具の操作・使い方やそのねらい」37人2%、「⑬保育活動での取り入れ方」114人7%、「⑭相談できる人がいないこと」6人0%、「⑮特定の種目（跳び箱、鉄棒、体操等）の指導」86人5%、「⑯見よう見まねで、漠然とやっていること」30人2%、「⑰自分自身が不得意、又は嫌いなこと」15人1%、「⑱学ぶ機会が不足していること」77人5%、「⑲時間の確保が難しいこと」73人4%、「⑳安全対策や危険防止策の実施が難しいこと」62人4%、「㉑その他」9人1%、計1656人であった。

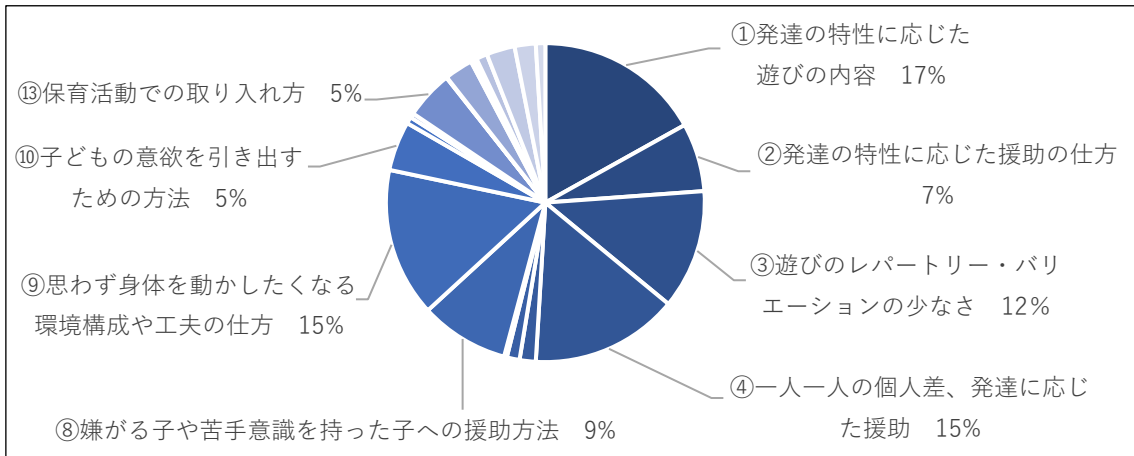


図 6-1-1 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第1位）（総計）

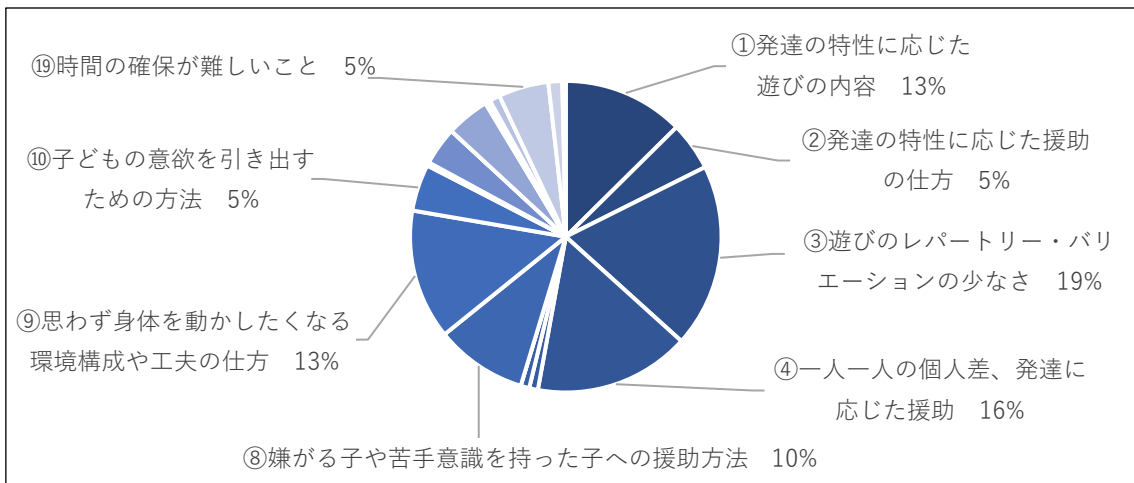


図 6-1-2 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第1位）（担任）

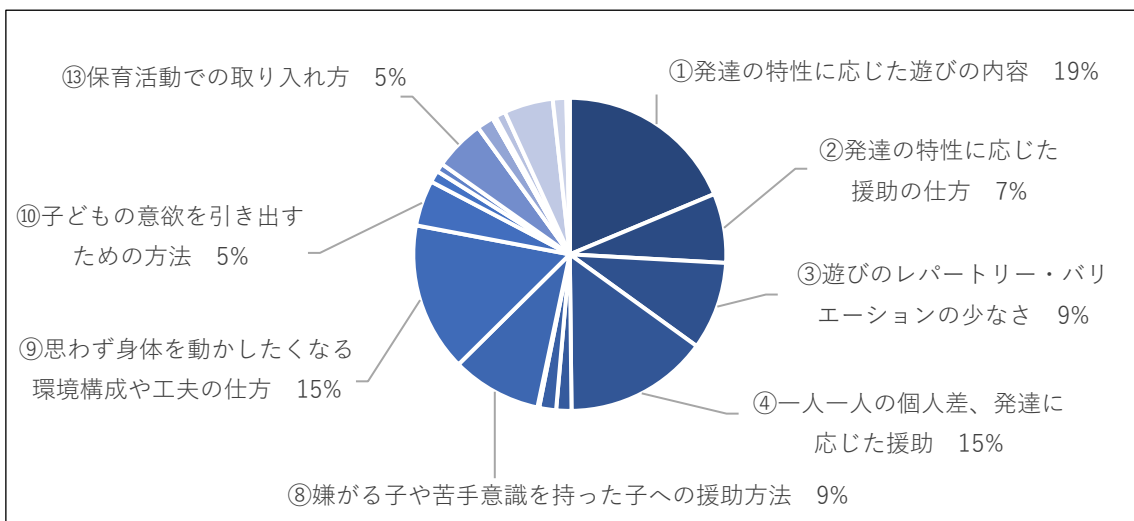


図 6-1-3 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第1位）（副園長・主任）

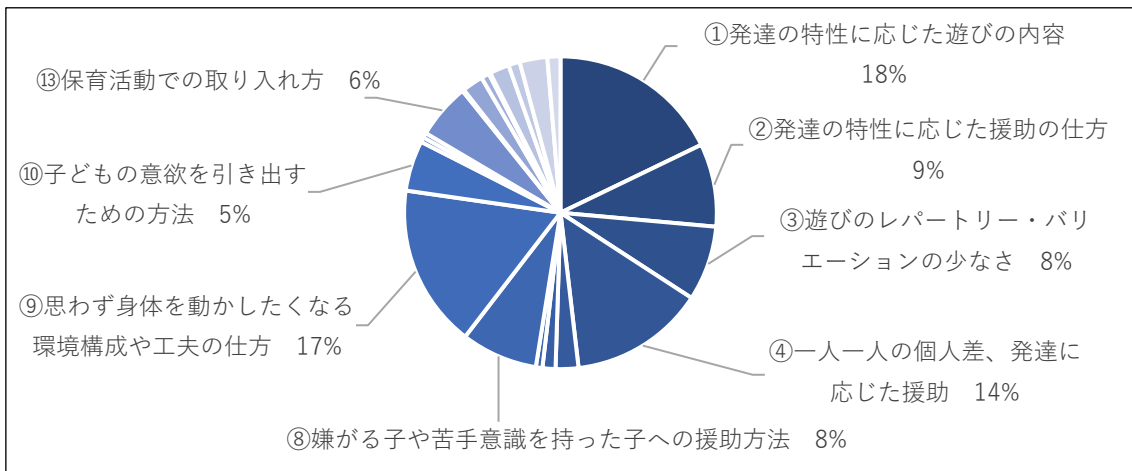


図 6-1-4 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第1位）（園長）

保育者は「発達の特徴に応じた遊びの内容 17%」、「一人一人の個人差、発達に応じた援助 15%」（計 32%）の発達に応じた指導援助方法、「思わず身体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方 15%」の幼児の主体性を引き出す援助方法が上位を占め、「遊びのレパートリー・バリエーションの少なさ 12%」を上回った。保育者は、根拠のある運動遊び・体育の知識と技術を求めていることが伺えた。

第1位で最も多かった回答は「発達の特徴に応じた遊びの内容」であった。担任は、遊びのレパートリー・バリエーションの少なさを課題に感じている人も多かった。

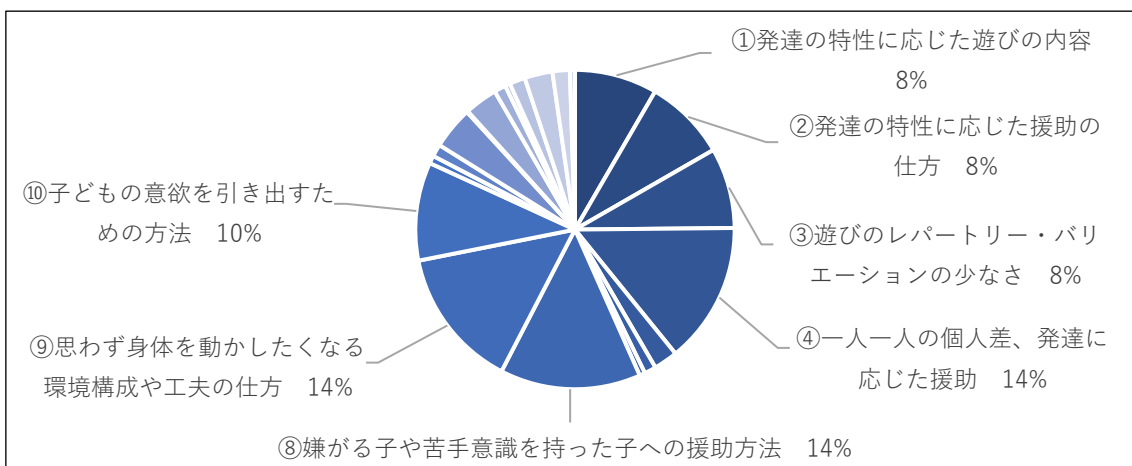


図 6-2-1 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第2位）（総計）

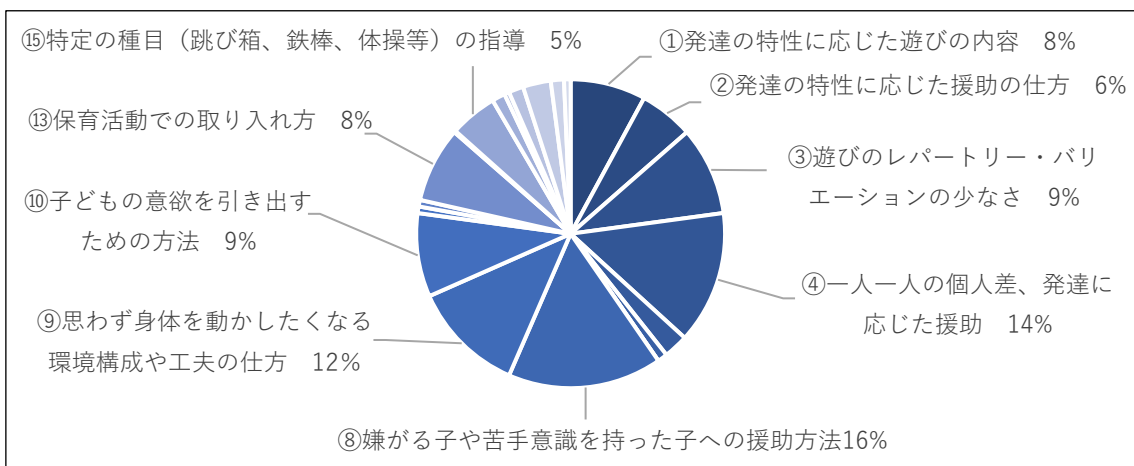


図 6-2-2 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第2位）（担任）

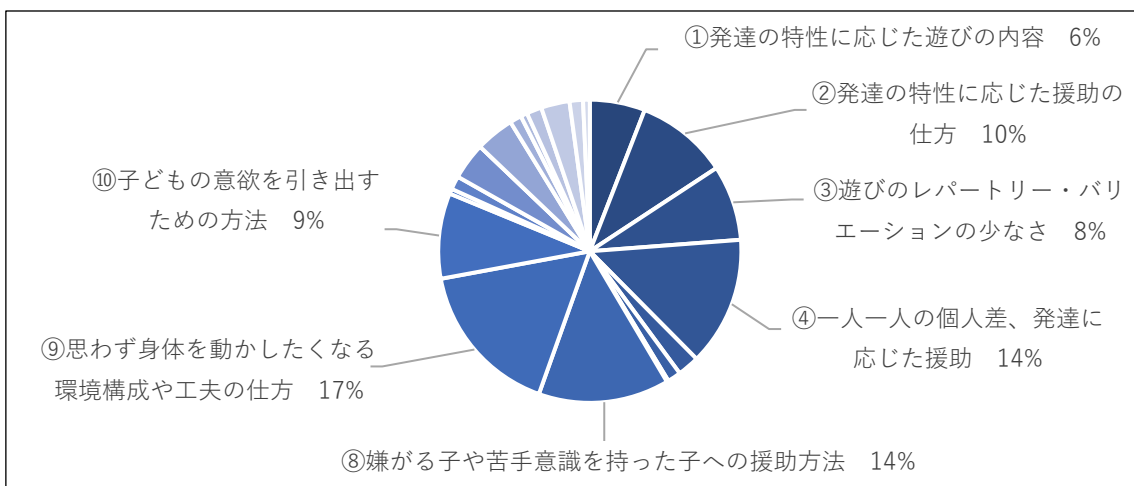


図 6-2-3 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第2位）（副園長・主任）

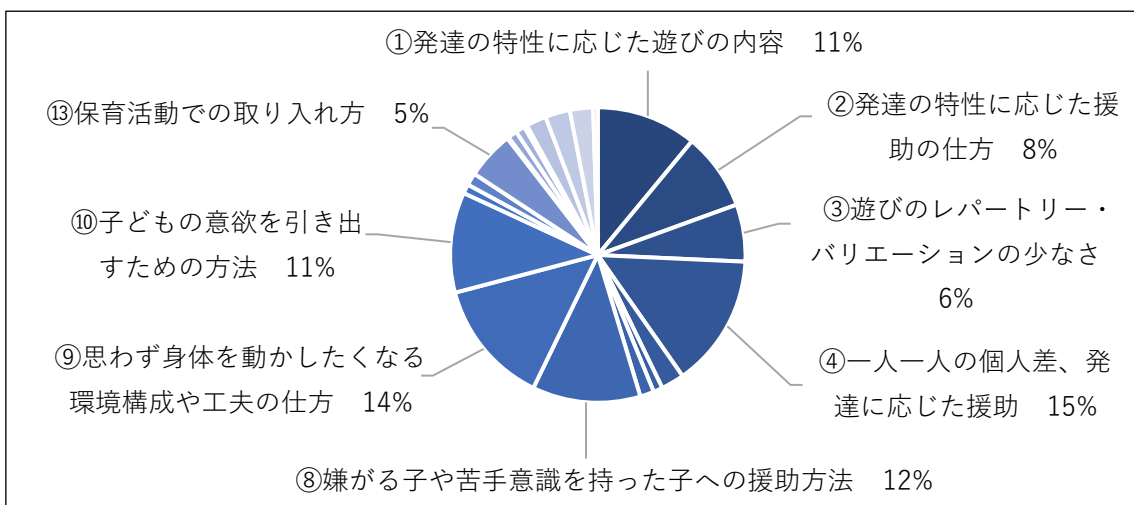


図 6-2-4 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第2位）（園長）

第2位は、「一人一人の個人差，発達に応じた援助」，「嫌がる子どもや苦手意識を持った子への援助方法」，「思わず身体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方」の項目が多かった。

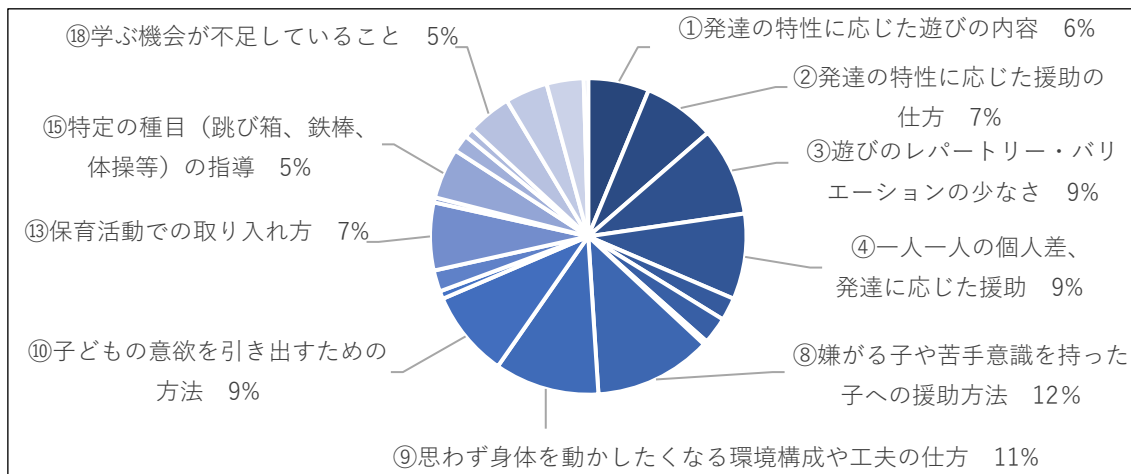


図 6-3-1 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第3位）（総計）

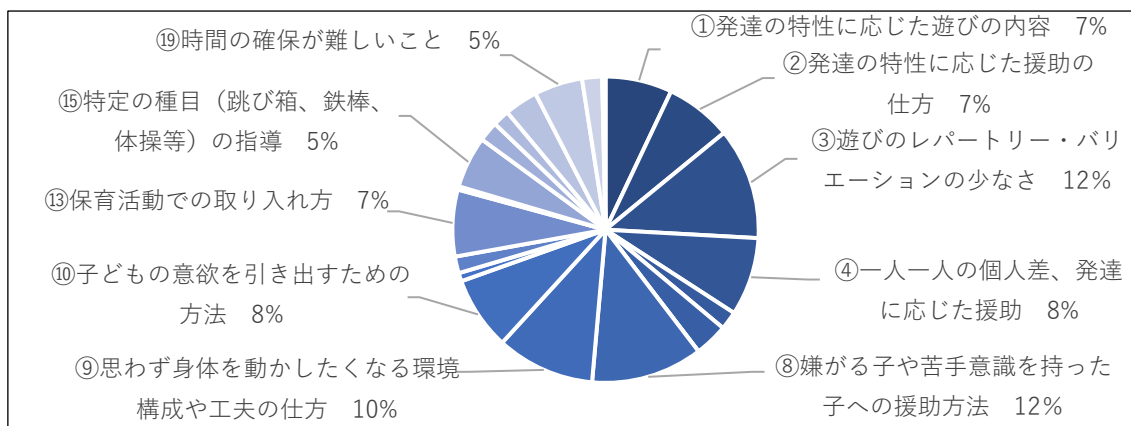


図 6-3-2 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第3位）（担任）

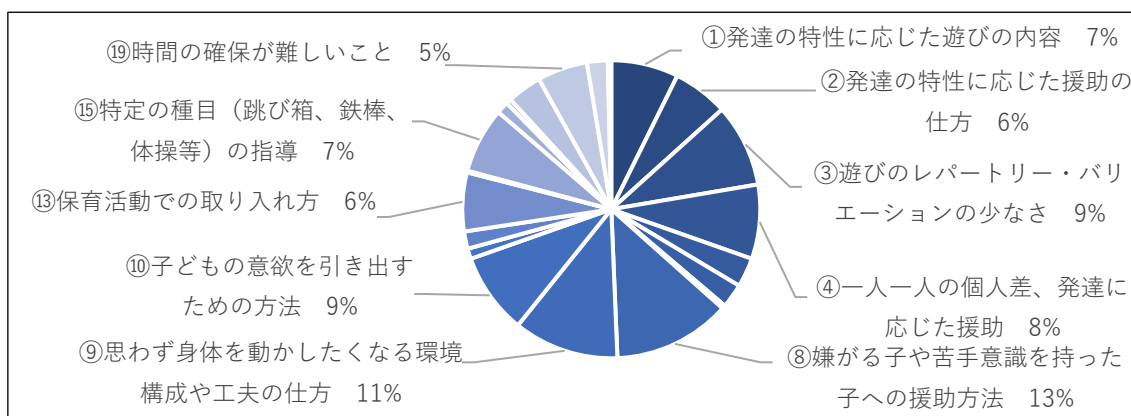


図 6-3-3 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第3位）（副園長・主任）

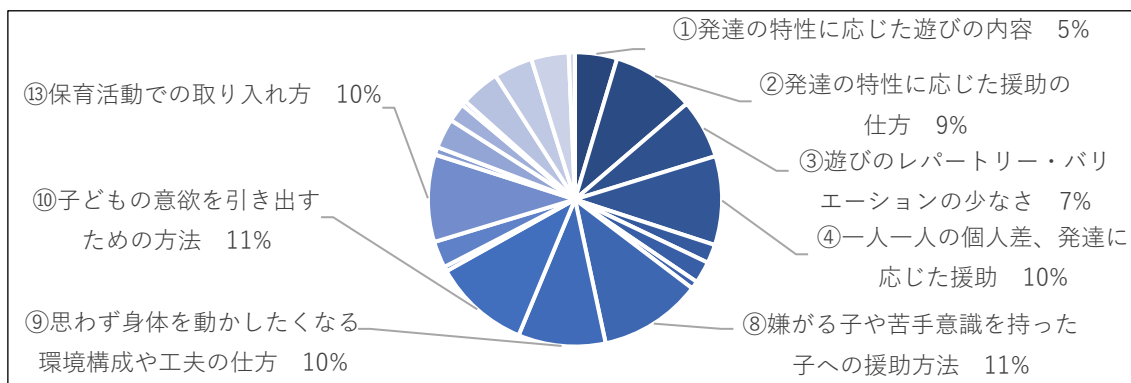


図 6-3-4 保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題（第3位）（園長）

第3位は、多様な課題を抱えていることが伺える結果となった。「発達の特徴に応じた遊びの内容や援助方法」、「遊びのバリエーション」、「個人差」、「嫌がる子どもや苦手意識を持った子への援助方法」、「思わず身体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方」が保育に「運動遊び」を取り入れる上での課題として挙げている（第1, 2位）、第3位は、各園の個々の課題が影響している。

3.1.11 あなたの園では、運動を担当する専門の外部講師を導入していますか

「①導入している」853人53%、「②導入していない」763人47%、計1,616人であった。

「外部講師の導入」に関して、約半分の園が外部講師を導入していることが分かった。

3.1.12 質問11で「導入している」と回答した方に質問します。あなたの園では、外部講師による内容は、どのようにして決めていますか

「①外部講師と相談し、一緒に内容を決めている」238人29%、「②外部講師が決めた内容をそのまましている」433人53%、「③外部講師に要望を提示し、その通りにしてもらっている」119人14%、「④その他」36人4%、計826人であった。

3.1.13 積極的に体を動かす（運動する）子とそうでない子と二極化している

「とてもそう思う」185人（11%）、「ややそう思う」904人（53%）、「どちらともいえない」323人（19%）、「あまりそう思わない」280人（16%）、「全くそう思わない」19人（1%）、計1,711人であった。（図7）

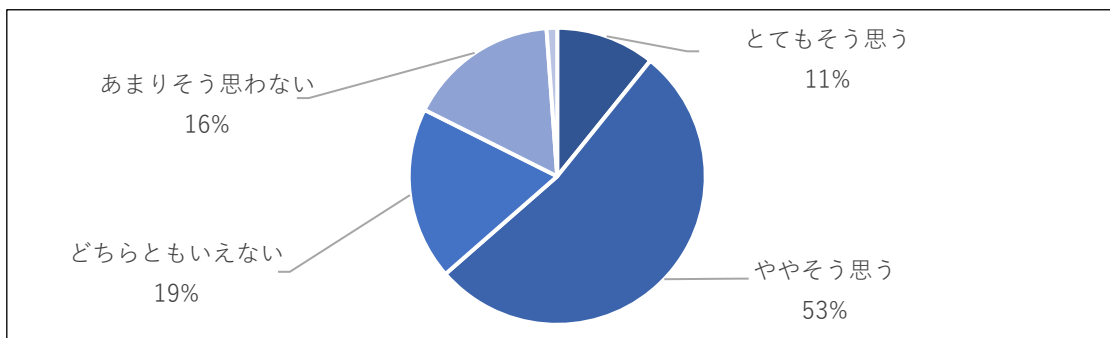


図 7-1 積極的に体を動かす（運動する）子とそうでない子の二極化（総計）

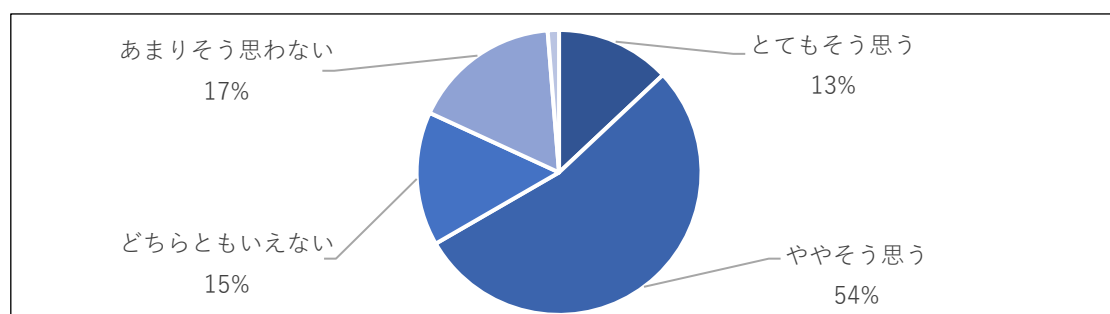


図 7-2 積極的に体を動かす（運動する）子とそうでない子の二極化（担任）

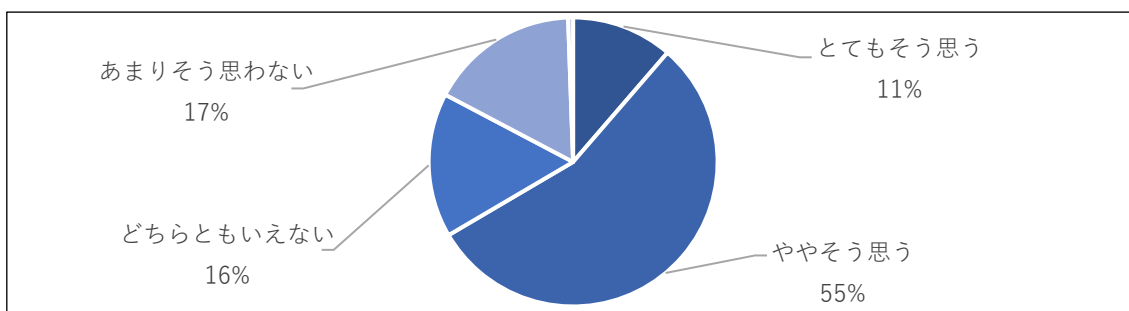


図 7-3 積極的に体を動かす（運動する）子とそうでない子の二極化（副園長・主任）

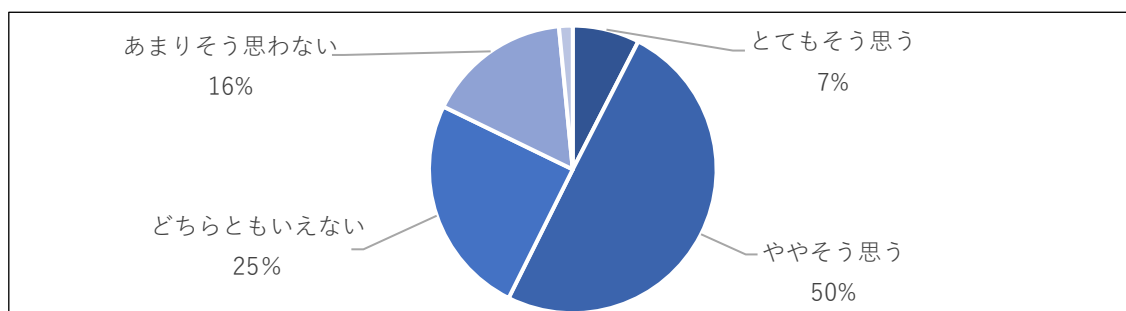


図 7-4 積極的に体を動かす（運動する）子とそうでない子の二極化（園長）

「積極的に体を動かす（運動する）子とそうでない子と二極化している」は、全体の約6割が「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した。園長は、「どちらともいえない」が25%と、他よりも約10%高い回答結果となった。

3.1.14 運動や体の操作が上手な子どもは親子での「運動遊び」が影響している

「とてもそう思う」168人（10%）、「ややそう思う」723人（42%）、「どちらともいえない」675人（39%）、「あまりそう思わない」154人（9%）、「全くそう思わない」4人（0%）、計1724人であった。（図8）

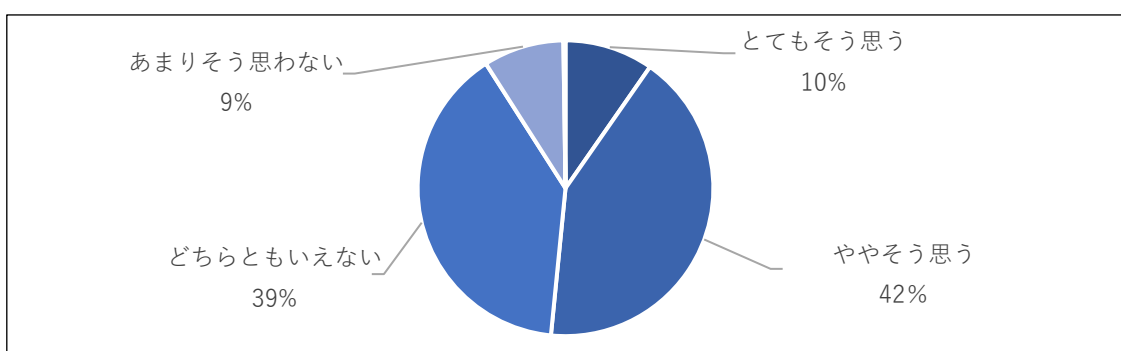


図 8-1 運動や体の操作が上手な子どもは親子での「運動遊び」が影響している（総計）

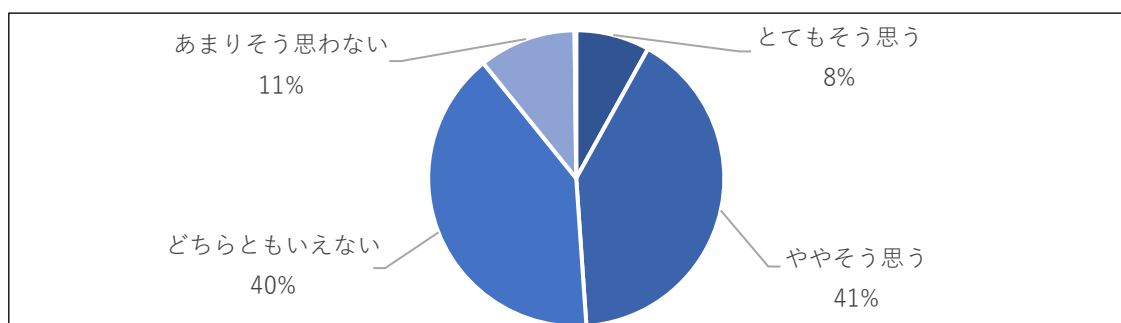


図 8-2 運動や体の操作が上手な子どもは親子での「運動遊び」が影響（担任）

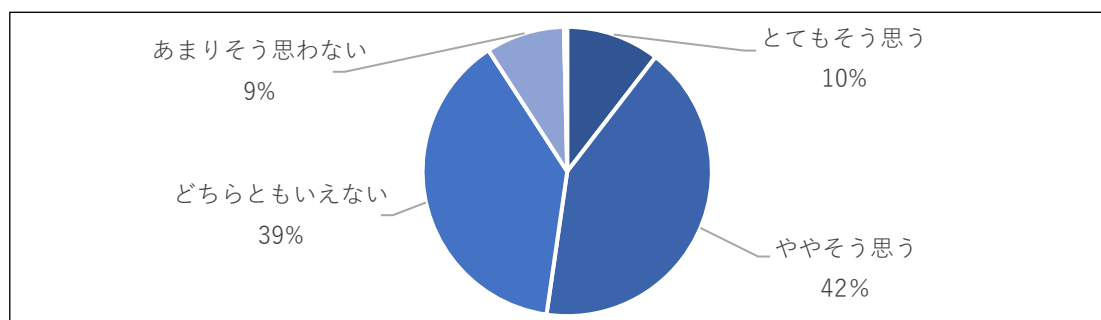


図 8-3 運動や体の操作が上手な子どもは親子での「運動遊び」が影響（副園長・主任）

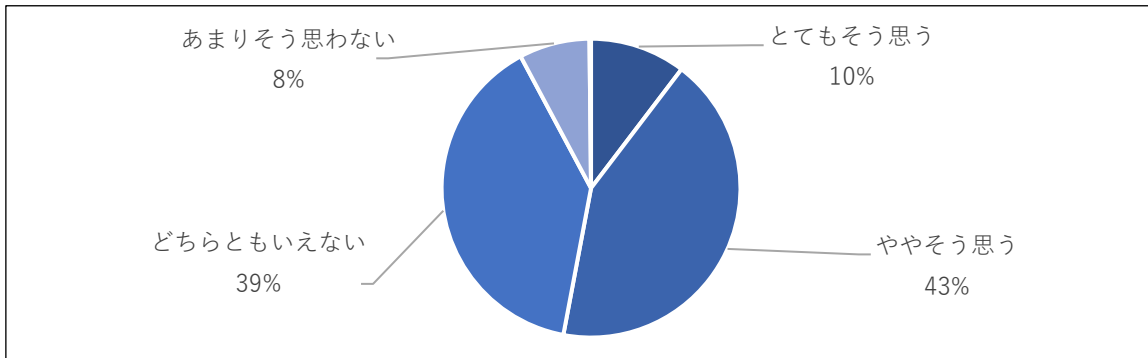


図 8-4 運動や体の操作が上手な子どもは親子での「運動遊び」が影響している（園長）

「運動や体の操作が上手な子どもは親子での『運動遊び』が影響している」の質問項目に、大きな差はなく、全体の約半数が「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した。

3.1.15 運動や体の操作が上手な子どもは、兄、姉との「運動遊び」が影響している

「とてもそう思う」198人（12%）、「ややそう思う」824人（48%）、「どちらともいえない」573人（33%）、「あまりそう思わない」124人（7%）、「全くそう思わない」4人（0%）、計1745人であった。（図9）

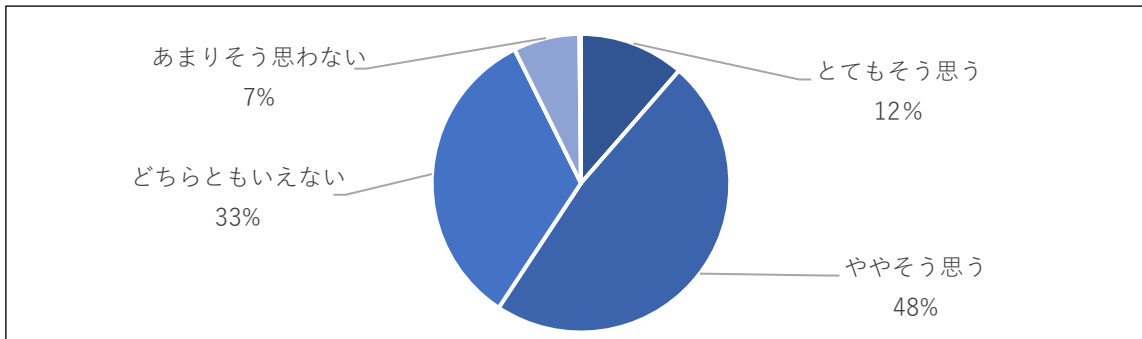


図 9-1 運動や体の操作が上手な子どもは兄姉との「運動遊び」が影響している（総計）

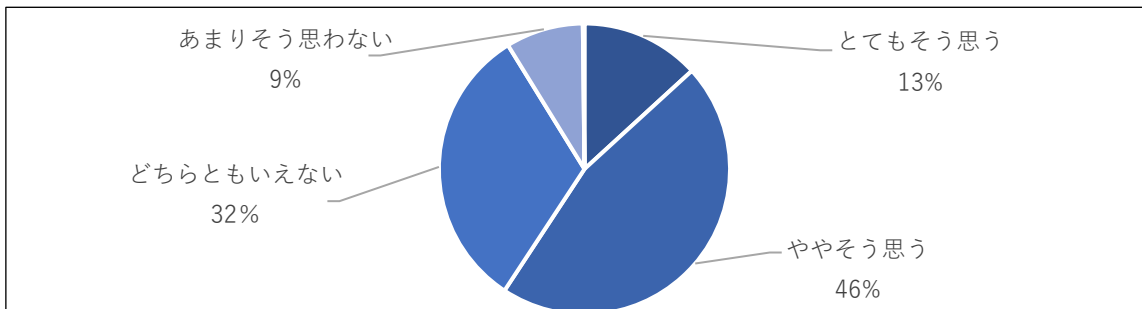


図 9-2 運動や体の操作が上手な子どもは兄姉との「運動遊び」が影響している（担任）

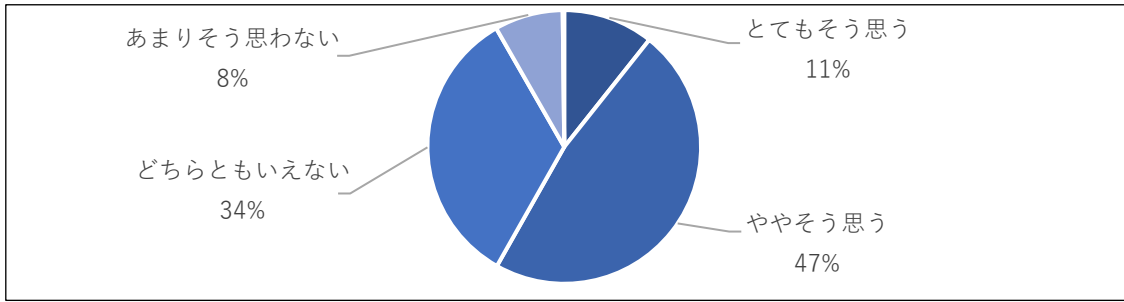


図 9-3 運動や体の操作が上手な子どもは兄弟との「運動遊び」が影響している（副園長・主任）

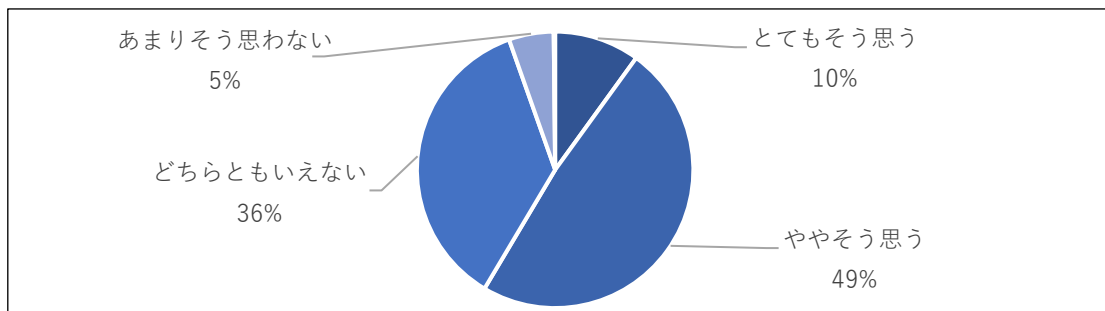


図 9-4 運動や体の操作が上手な子どもは兄弟との「運動遊び」が影響している（園長）

「運動や体の操作が上手な子どもは，兄，姉との『運動遊び』が影響している」の質問項目に大きな差はなく，全体の約 6 割が「とてもそう思う」，「ややそう思う」と回答した．遊ぶ環境を制限されている現代の子どもにとって，兄，姉などの家庭での遊び相手の影響があると考えている．

3.1.16 「『幼児期運動指針』（文部科学省）の内容を理解している」（存在を知らない場合は「1」を選択）

「とてもそう思う」42 人（2%），「ややそう思う」443 人（26%），「どちらともいえない」504 人（29%），「あまりそう思わない」358 人（21%），「全くそう思わない」369 人（22%），計 1716 人であった．（図 10）

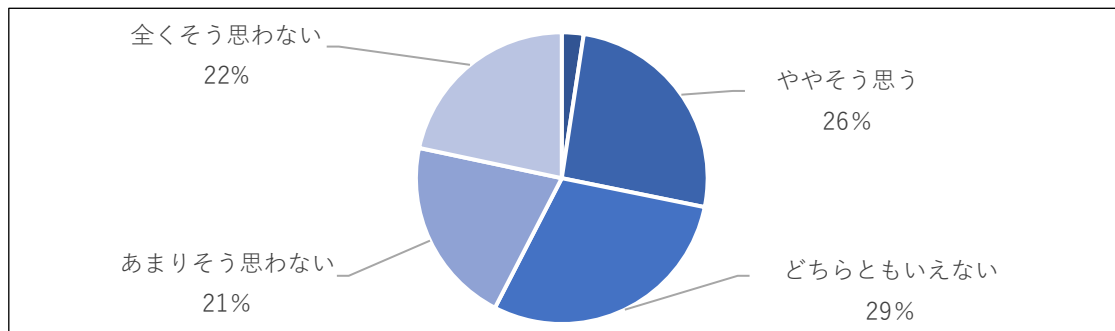


図 10-1 「幼児期運動指針」（文部科学省）の内容を理解している（総計）

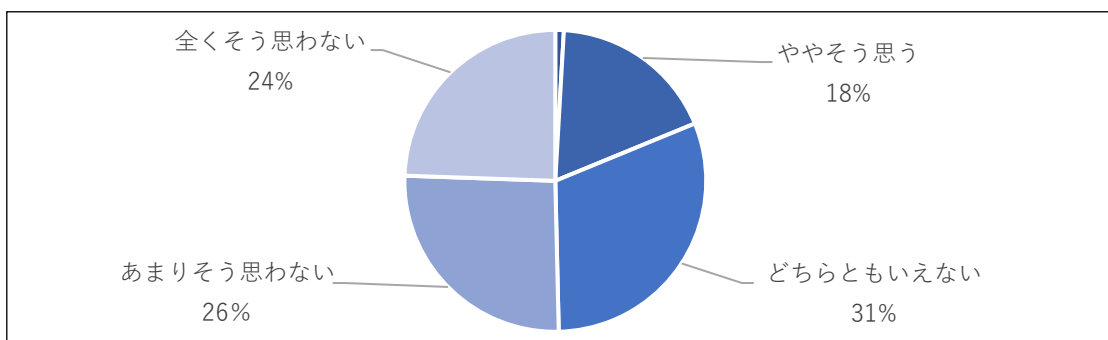


図 10-2 「幼児期運動指針」(文部科学省)の内容を理解している(担任)

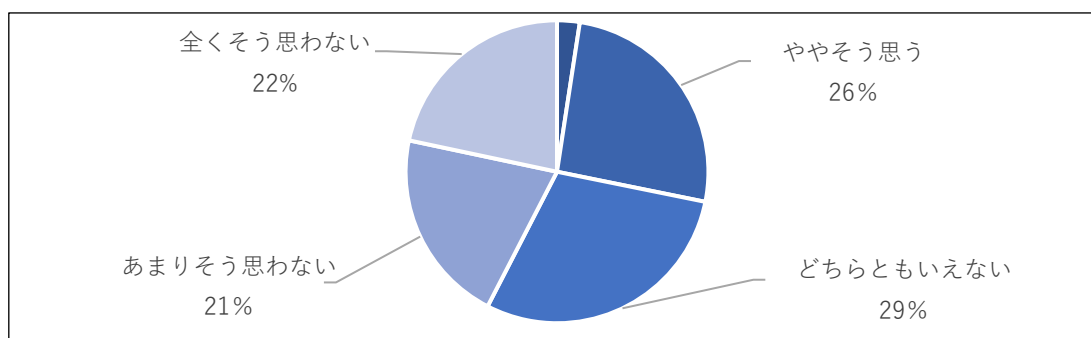


図 10-3 「幼児期運動指針」(文部科学省)の内容を理解している(副園長・主任)

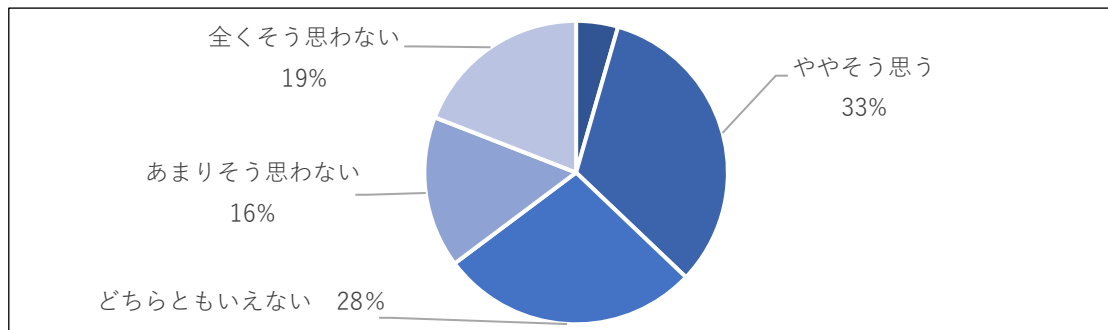


図 10-4 「幼児期運動指針」(文部科学省)の内容を理解している(園長)

『幼児期運動指針』(文部科学省)の内容を理解している」の質問項目に、「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した人は全体の3割に満たなかった。担任は、半数が「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答した。

「幼児期運動指針」に関して、幼稚園は文部科学省から配布されている可能性があるが、保育園には配布されていない場合もあり、普及が課題となっている。一方、市町村独自の判断で幼稚園だけではなく全ての幼児関連施設に配布している事例もある。

3.1.17 子どもの頃(小学生の頃まで)、「外遊び」をしていた

「とてもそう思う」1317人（75%）、「ややそう思う」386人（22%）、「どちらともいえない」45人（3%）、「あまりそう思わない」10人（1%）、「全くそう思わない」1人（0%）、計1759人であった。（図11）

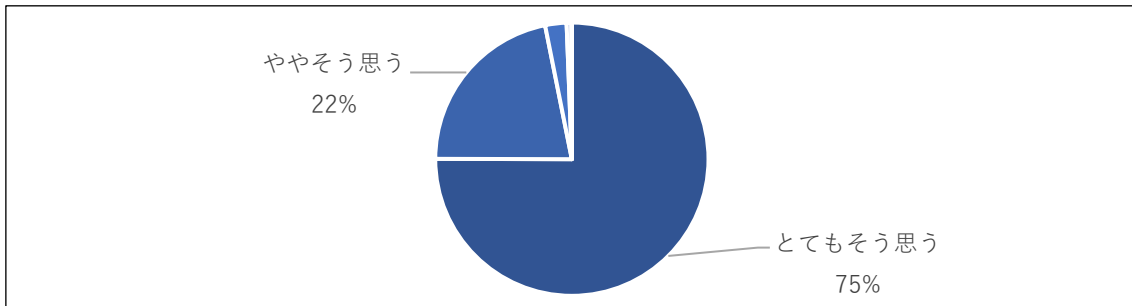


図 11-1 子どもの頃（小学生の頃まで）「外遊び」をしていた（総計）

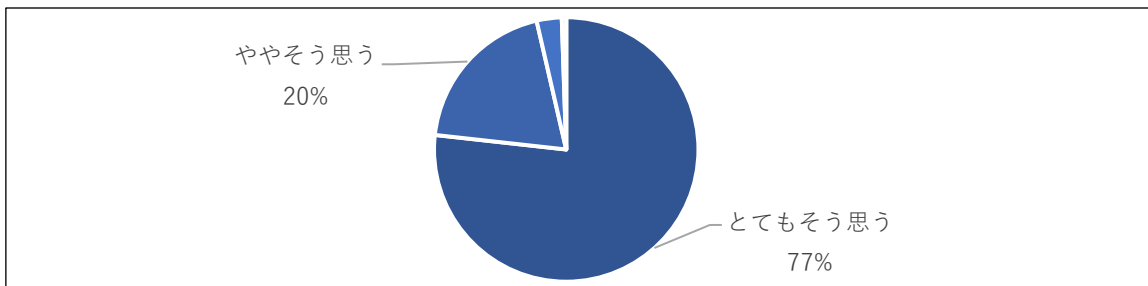


図 11-2 子どもの頃（小学生の頃まで）「外遊び」をしていた（担任）

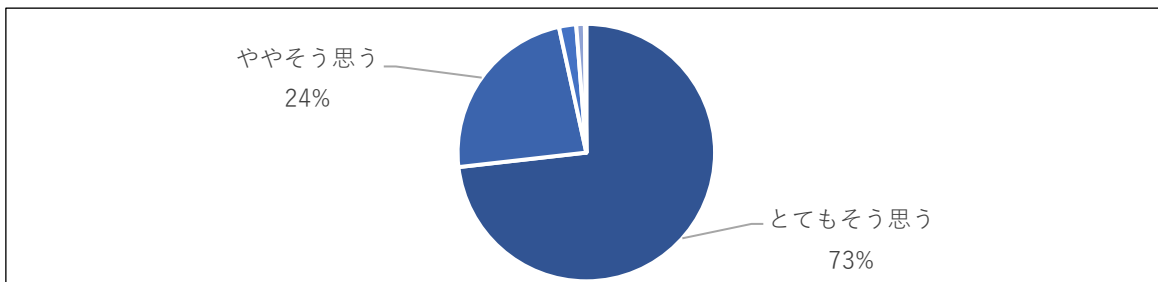


図 11-3 子どもの頃（小学生の頃まで）「外遊び」をしていた（副園長・主任）

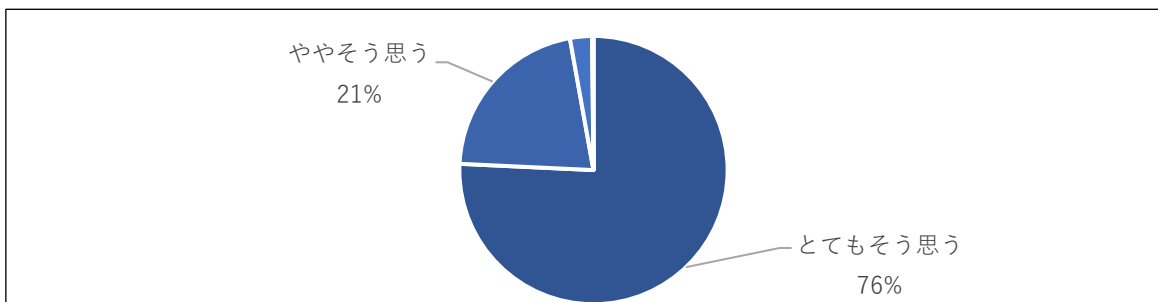


図 11-4 子どもの頃（小学生の頃まで）「外遊び」をしていた（園長）

子どもの頃（小学生の頃まで）外遊びをしていたと回答した人は、知識・技能の有無に関わらず、全体の97%の保育者が外遊びをしていたと回答した。保育者自身が子どもの頃は外遊びが主であった。主な場所はグラウンド、校庭、公園、空き地、神社・お寺の境内、道ばた、川、池、林、田畑と自然の中が多く、遊ぶ内容は鬼ごっこや遊具を使った遊びが多い傾向にあった。

近年では事件事故防止のため、これらの場所は保護者の監視下が条件であることや、ルールが厳格化していることに加えて、屋内ゲーム機器の充実等の要因により子どもが外で遊ぶ機会が減少している。経験年数の多い保育者から見て、若い保育者は遊びの経験が無いと感じているが、今の子どもはさらに体を動かす機会がなく、保育園での「運動遊び」の役割は大きい。保育者もこれに危機感や焦りを感じているが、解決の手立てが分からない様子が伺える。

3.1.18 運動（スポーツ）や体を動かすのが好きだ

「とてもそう思う」638人（36%）、「ややそう思う」642人（37%）、「どちらともいえない」376人（21%）、「あまりそう思わない」92人（5%）、「全くそう思わない」13人（1%）、計1,761人であった。（図12）

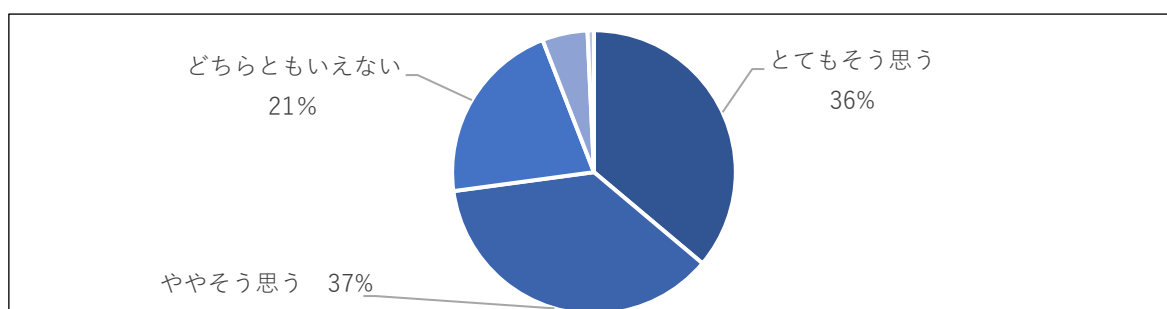


図12-1 運動（スポーツ）や体を動かすのが好き（総計）

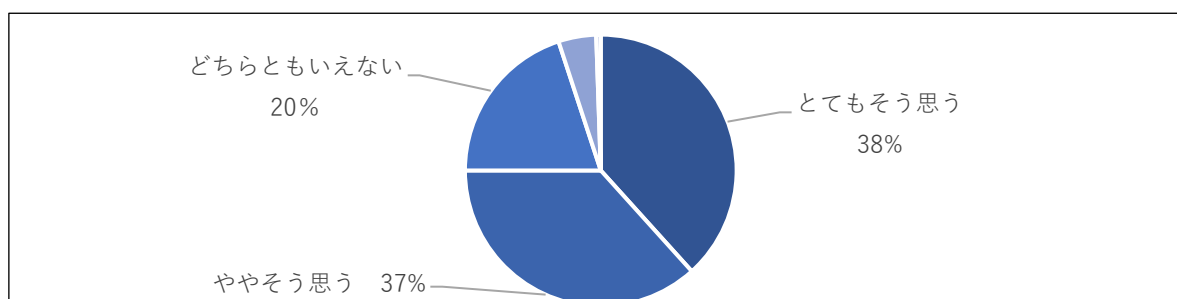


図12-2 運動（スポーツ）や体を動かすのが好き（担任）

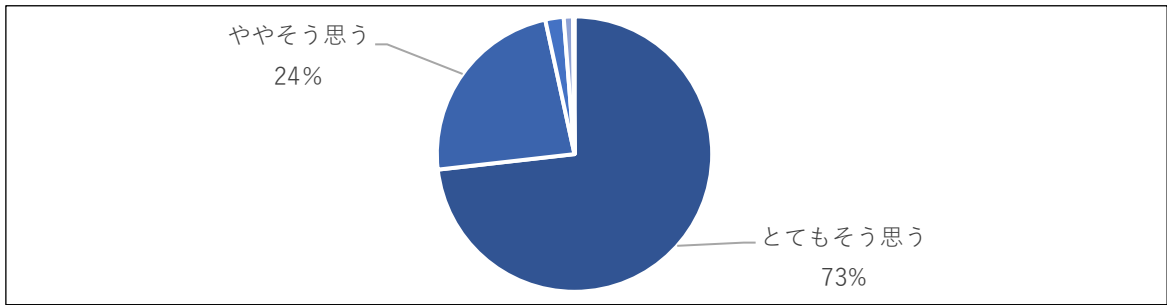


図 12-4 運動（スポーツ）や体を動かすのが好き（副園長・主任）

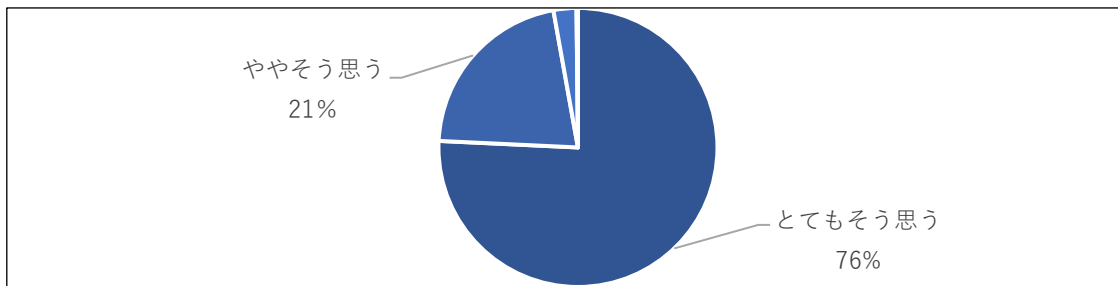


図 12-4 運動（スポーツ）や体を動かすのが好き（園長）

「運動（スポーツ）や体を動かすのが好きだ」の質問項目に、「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した人は全体の 7 割を超えた。担任は、他と比べ、「とてもそう思う」が約半分、「どちらともいえない」が 20%であり、園長、副園長・主任に比べ運動有能感に差が見られた。しかし、「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」と回答した人は全体の 6%と少なかった。外遊びをしてきた保育者は多く、体を動かす事は好きだが、それを子どもにどのようにして指導・支援するかを課題に感じていることが伺える。

3.1.19 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊んでいる

「とてもそう思う」251人（14%）、「ややそう思う」642人（37%）、「どちらともいえない」488人（28%）、「あまりそう思わない」299人（17%）、「全くそう思わない」79人（4%）、計1,759人であった。（図 13）

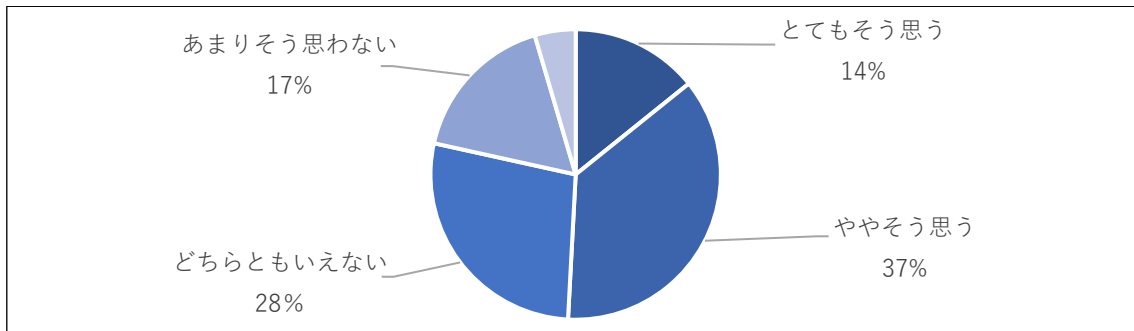


図 13-1 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊んでいる（総計）

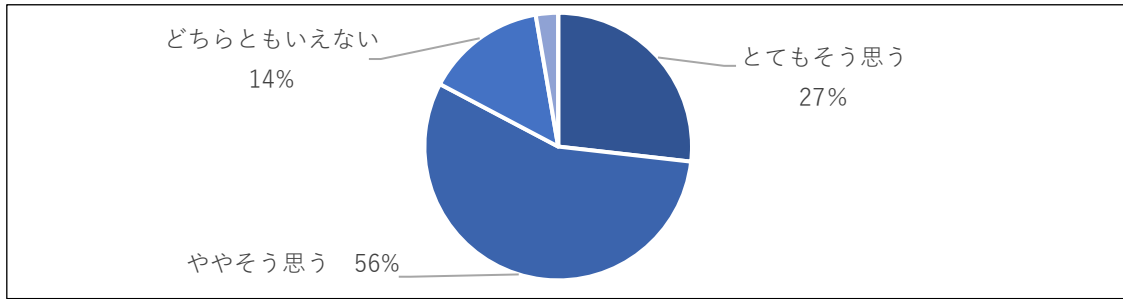


図 13-2 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊んでいる（担任）

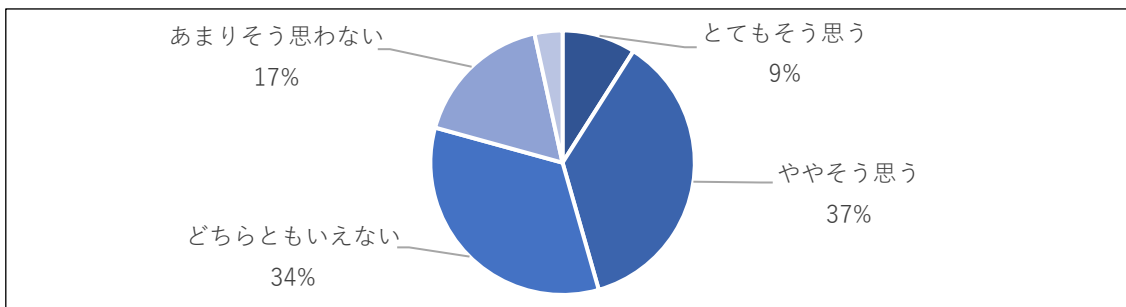


図 13-3 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊んでいる（副園長・主任）

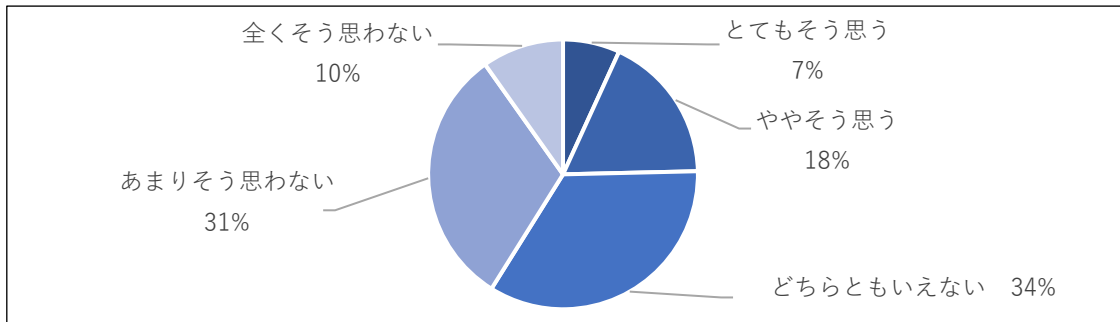


図 13-4 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊んでいる（園長）

「日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊んでいる」の質問項目に、「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した人は全体の約半数であったが、園長と担任とで大きな差があった。自身が体を動かすことが好きではなくとも、保育では子どもと一緒に体を動かしており、保育者としてのポリシーが垣間見える。

日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊んでいるという質問項目に関して、全体的に高くはないように見て取れるが、保育者の役職によって大きく二極化している。園長又は副園長・主任等の管理的（指導的）立場にある保育者は業務が異なるため、子どもと一緒に体を動かす機会も自ずと減少してくる。一方、クラス担任を受け持つ保育者は常に子どもの側で保育をし、運動遊びの時間もクラス担任の保育者が実施している園が多いため、子

子どもと一緒に体を動かして遊んでいると回答した人も多かった。しかし、自由記述から園長、副園長・主任等は、もっと一緒に体を動かして遊びたいと考えている人もいれば、体力的な面から子どもに合わせて遊ぶことに限界を感じる保育者も見受けられた。

3.1.20 「運動遊び」の知識や技能がある

「とてもそう思う」26人(1%)、「ややそう思う」488人(28%)、「どちらともいえない」786人(45%)、「あまりそう思わない」422人(24%)、「全くそう思わない」39人(2%)、計1761人であった。(図14)

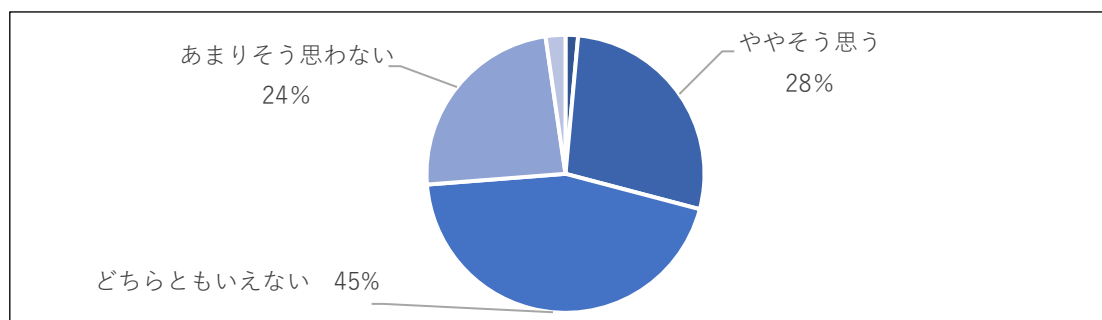


図 14-1 「運動遊び」の知識や技能がある（総計）

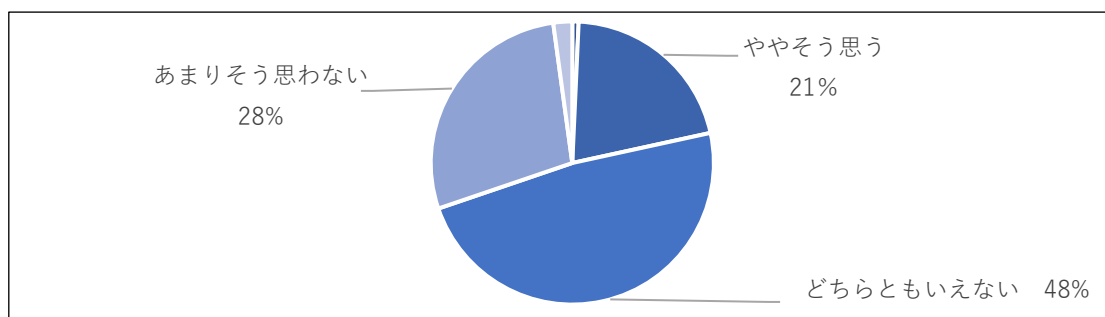


図 14-2 「運動遊び」の知識や技能がある（担任）

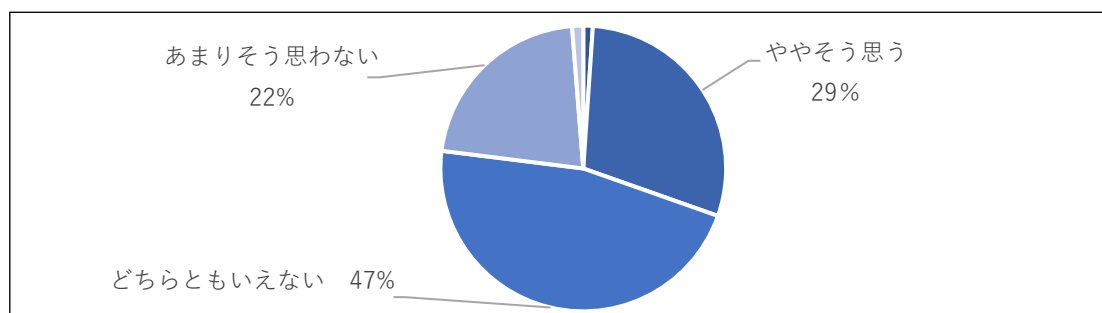


図 14-3 「運動遊び」の知識や技能がある（副園長・主任）

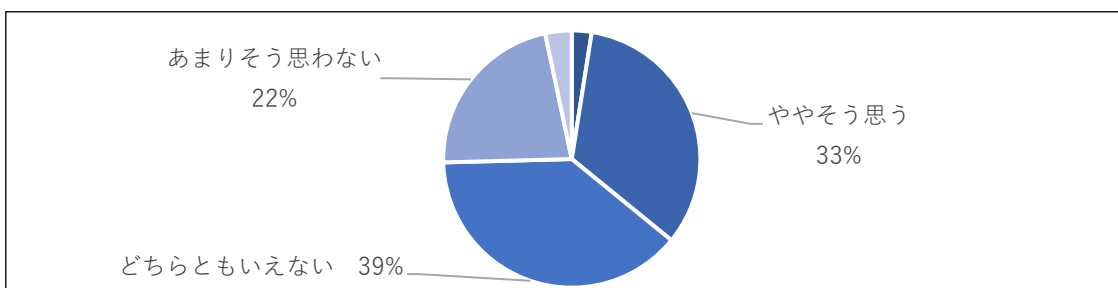


図 14-4 「運動遊び」の知識や技能がある（園長）

『運動遊び』の知識や技能がある」の質問項目に「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した人は全体の3割にも満たず、担任が最も少ない結果となった。

3.2.21 日々の保育の中で子どもに「運動遊び」を働きかける（「いざなう」）のは得意だ
「とてもそう思う」81人（5%），「ややそう思う」631人（36%），「どちらともいえない」784人（45%），「あまりそう思わない」235人（13%），「全くそう思わない」22人（1%），計1753人であった。（図15）

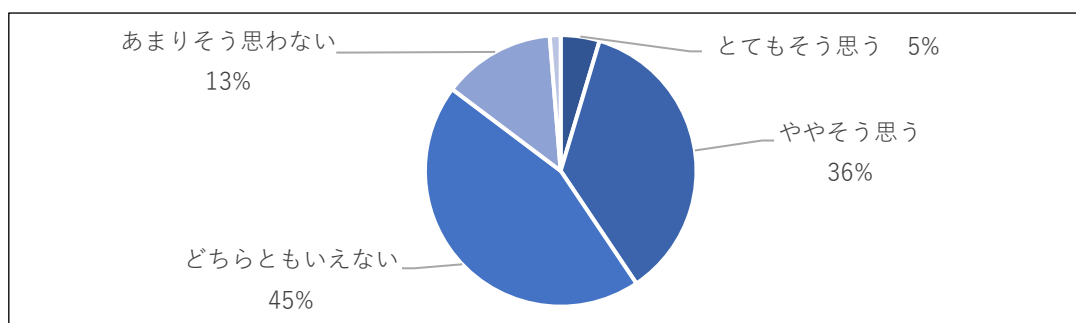


図 15-1 日々の保育の中で、子どもに「運動遊び」を働きかける（「いざなう」）のは得意（総計）

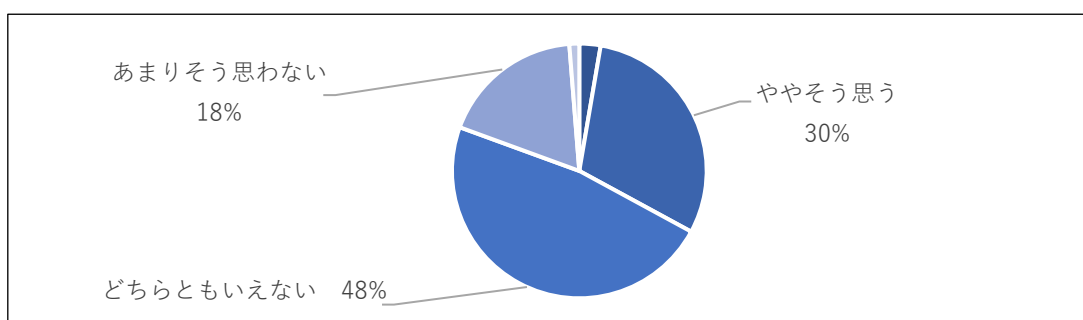


図 15-2 日々の保育の中で、子どもに「運動遊び」を働きかける（「いざなう」）のは得意（担任）

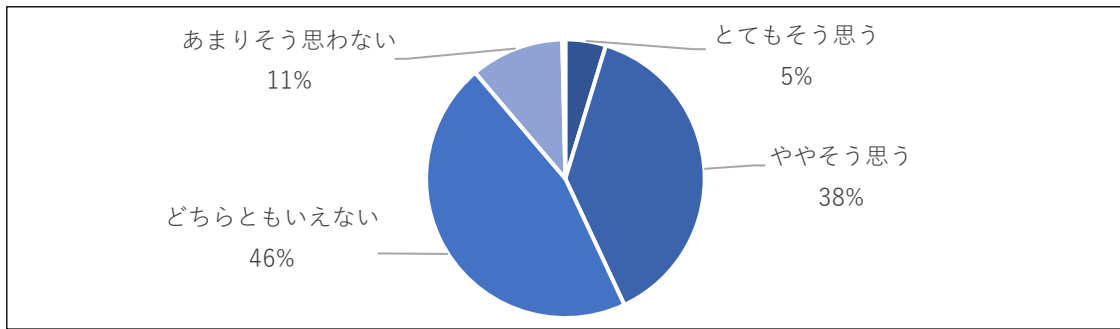


図 15-3 日々の保育の中で、子どもに「運動遊び」を働きかける（「いざなう」）のは得意（副園長・主任）

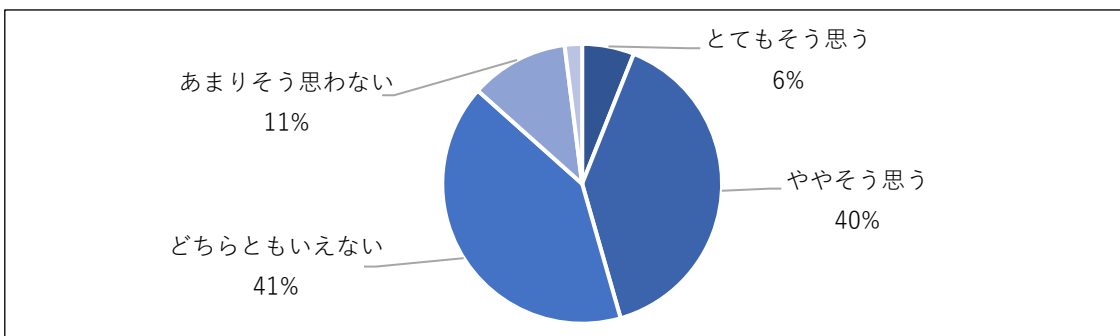


図 15-4 日々の保育の中で、子どもに「運動遊び」を働きかける（「いざなう」）のは得意（園長）

「日々の保育の中で、子どもに『運動遊び』を働きかける（『いざなう』）のは得意だ」の質問項目に大きな差は見られなかったが、他の役職に比べて、担任が若干低い結果となった。担任の運動指導力の形成が幼児の運動能力向上に役立つものと考えられる。

「日々の保育の中で、子どもに『運動遊び』を働きかける（『いざなう』）のは得意だ」という質問項目に関して、有意差が見られた。かつ有能感の有無にかかわらず平均値がどちらも4に満たなかった。これには、いくつか要因があると考えられる。まず、保育者の「運動遊び」のレパートリーが少ないことである。保育者の年齢が下がるにつれ、保育者自身の運動遊びの経験も減少し、保育室での遊びがマンネリ化しやすい状況にある。しかし、新しい「運動遊び」を身近な場所で学ぶ機会も時間もなく、変わらない現状にある。また、子どもたちにも年々変化があり、保育者が働きかけないと体を動かしたとらない、動かしてもすぐに飽きてしまうなど、「運動遊び」を継続して行えない子どもが増加している。

保育者は、子どもに体を動かして楽しんでもらいたい、日々の業務に追われてできないと悩んでいる保育者が多く見受けられた。

3.1.22 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊ぶのが好きだ

「とてもそう思う」475 (27%)，「ややそう思う」926人 (53%)，「どちらともいえない」299人 (17%)，「あまりそう思わない」48人 (3%)，「全くそう思わない」5人 (0%)，計1753人であった。(図16)

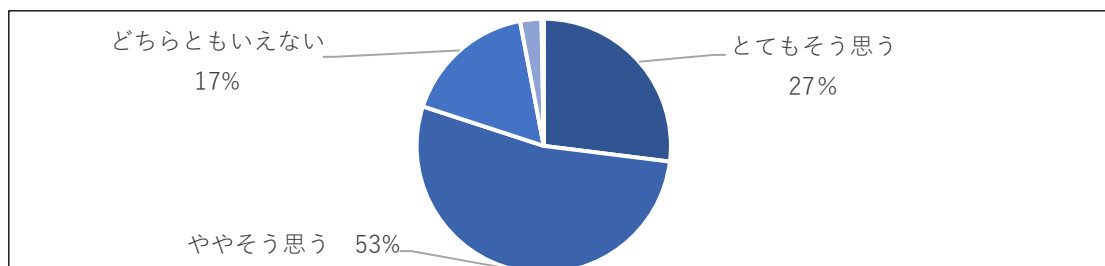


図16-1 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊ぶのが好き (総計)

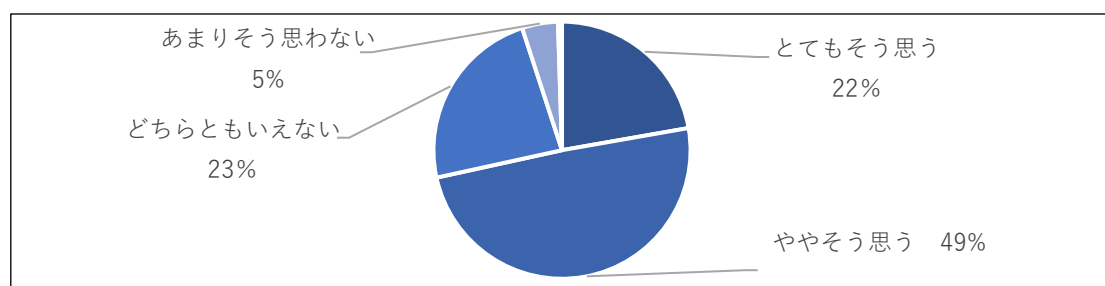


図16-2 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊ぶのが好き (担任)

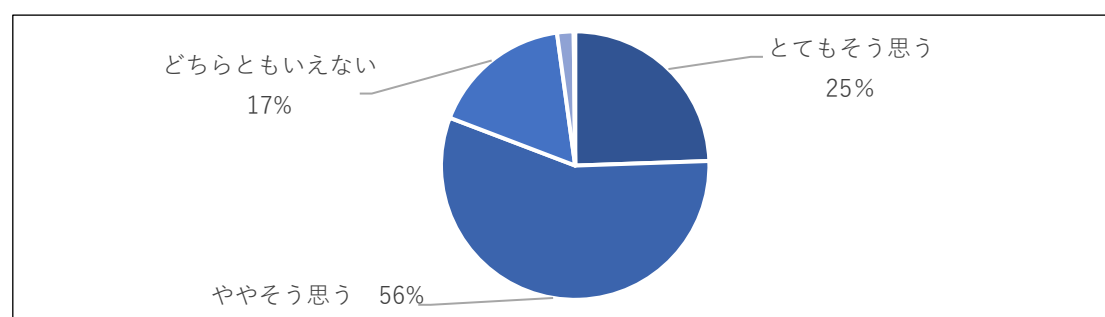


図16-3 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊ぶのが好き (副園長・主任)

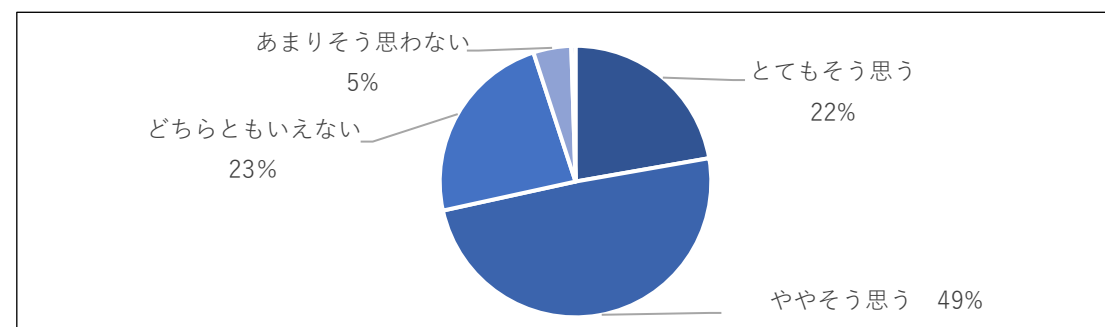


図16-4 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊ぶのが好き (園長)

「日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊ぶのが好きだ」の質問項目に、「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した人は全体の約8割であった。

3.1.23 日々の保育の中で、「運動遊び」をする時に、子どもに手本を見せるのは得意だ

「とてもそう思う」120人（7%）、「ややそう思う」484人（27%）、「どちらともいえない」789人（45%）、「あまりそう思わない」315人（18%）、「全くそう思わない」47人（3%）、計1,755人であった。（図17）

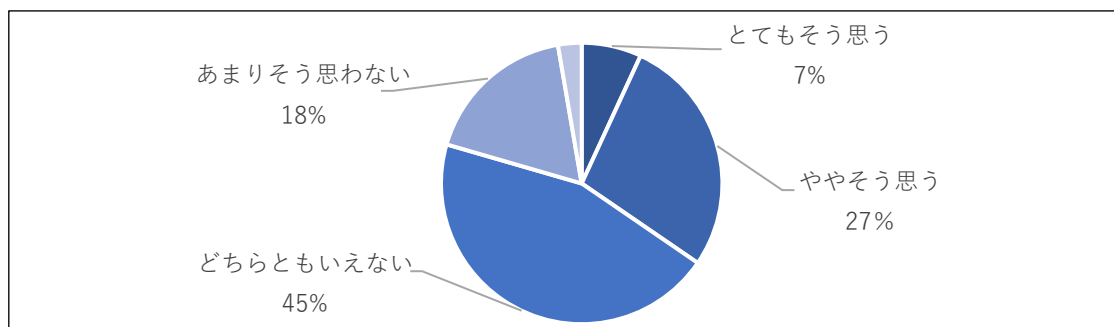


図17-1 日々の保育の中で「運動遊び」をする時に子どもに手本を見せるのは得意（総計）

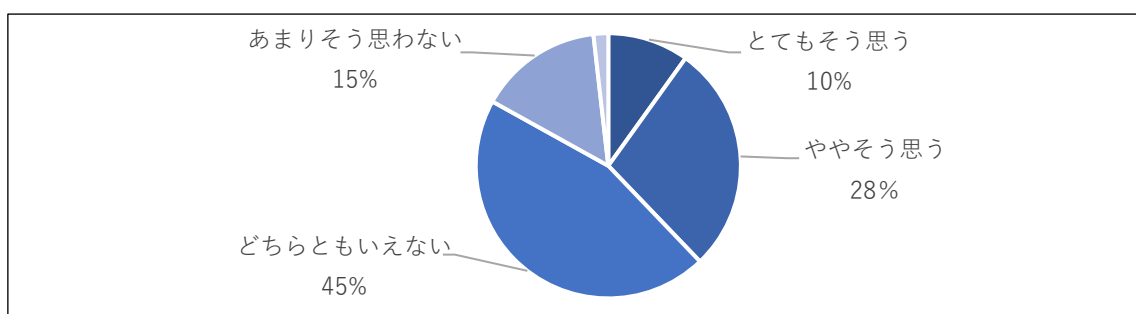


図17-2 日々の保育の中で「運動遊び」をする時に子どもに手本を見せるのは得意（担任）

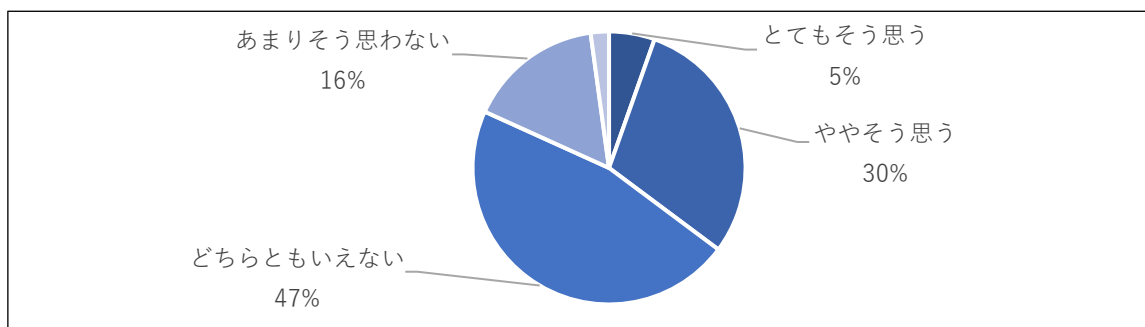


図17-3 日々の保育の中で「運動遊び」をする時に子どもに手本を見せるのは得意（副園長・主任）

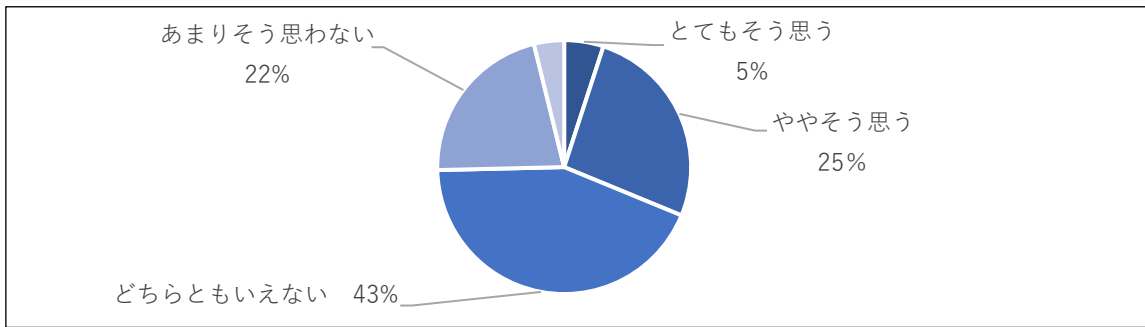


図 17-4 日々の保育の中で「運動遊び」をする時に子どもに手本を見せるのは得意（園長）

「日々の保育の中で、『運動遊び』をする時に、子どもに手本を見せるのは得意だ」の質問項目に、得意だと思う人と得意ではないと思う人とで二極化した。担任は得意だと思う人がやや多かった。

3.1.24 「運動遊び」は、運動を担当する専門の外部講師に任せるよりも、自分が行いたい

「とてもそう思う」45人（3%）、「ややそう思う」181人（10%）、「どちらともいえない」932人（53%）、「あまりそう思わない」480人（27%）、「全くそう思わない」118人（7%）、計1,756人であった。（図18）

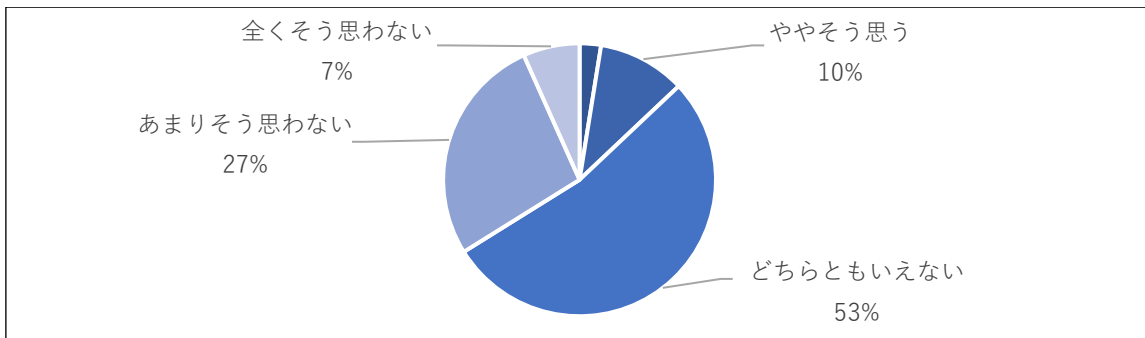


図 18-1 「運動遊び」は専門の外部講師に任せるよりも自分が行いたい（総計）

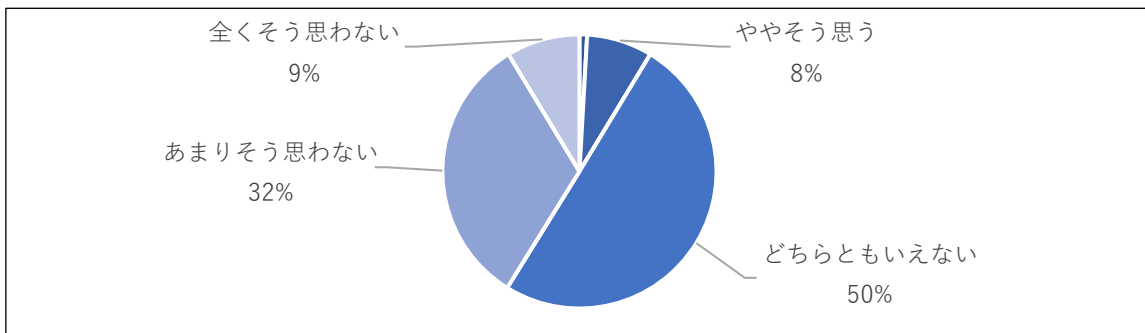


図 18-2 「運動遊び」は専門の外部講師に任せるよりも自分が行いたい（担任）

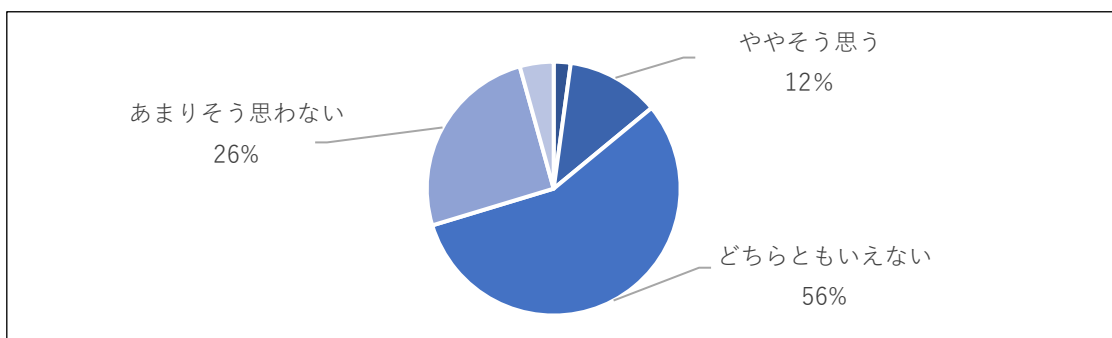


図 18-3 「運動遊び」は専門の外部講師に任せるよりも自分が行いたい（副園長・主任）

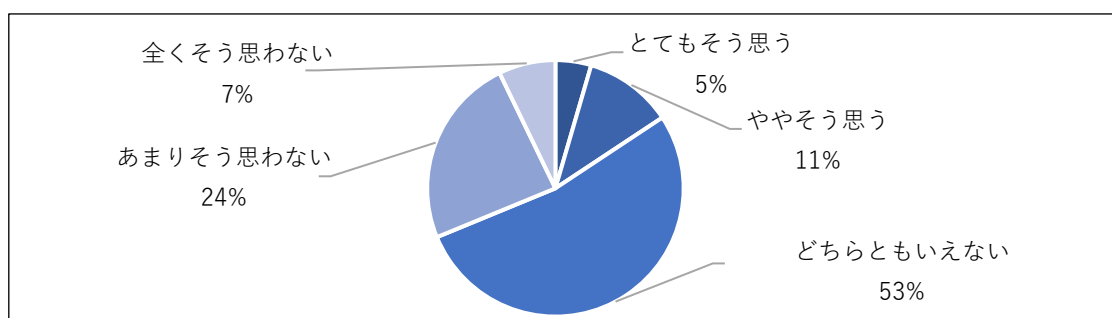


図 18-4 「運動遊び」は専門の外部講師に任せるよりも自分が行いたい（園長）

『運動遊び』は、運動を担当する専門の外部講師に任せるよりも、自分が行いたい」の質問項目に、役職ごとに大きな差は見られなかったが、担任は「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答する人がやや多かった。

日常、保育者が行っている「運動遊び」は小学校以降の発育発達、体の動きづくりに繋がっている。改めて保育者が行う運動遊びの重要性を啓発する必要がある。

3.1.25 「運動遊び」は、自分が行うよりも、運動を担当する専門の外部講師に任せたい

「とてもそう思う」126（7%）、「ややそう思う」398人（23%）、「どちらともいえない」895人（51%）、「あまりそう思わない」267人（15%）、「全くそう思わない」70人（4%）、計1,753人であった。（図 19）

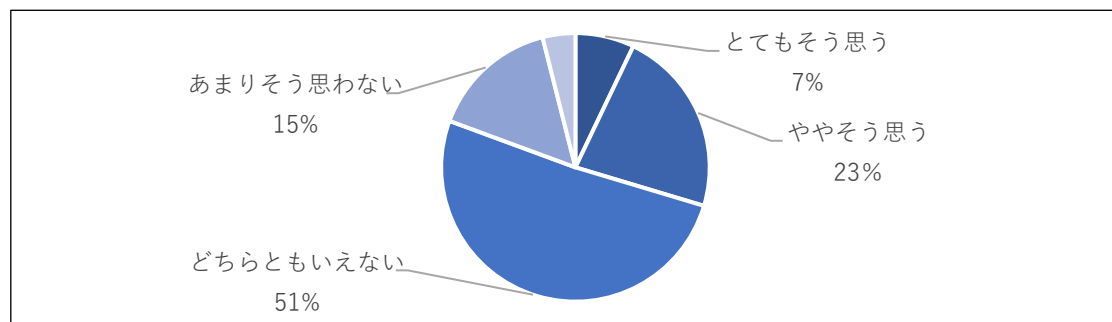


図 19-1 「運動遊び」は自分が行うよりも専門の外部講師に任せたい（総計）

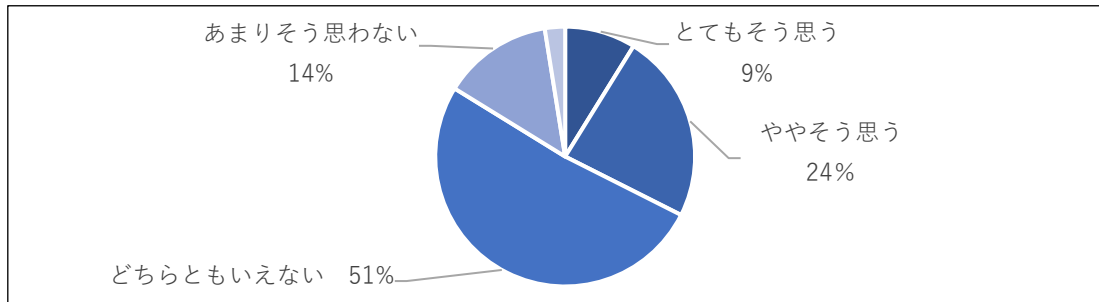


図 19-2 「運動遊び」は自分が行うよりも専門の外部講師に任せたい（担任）

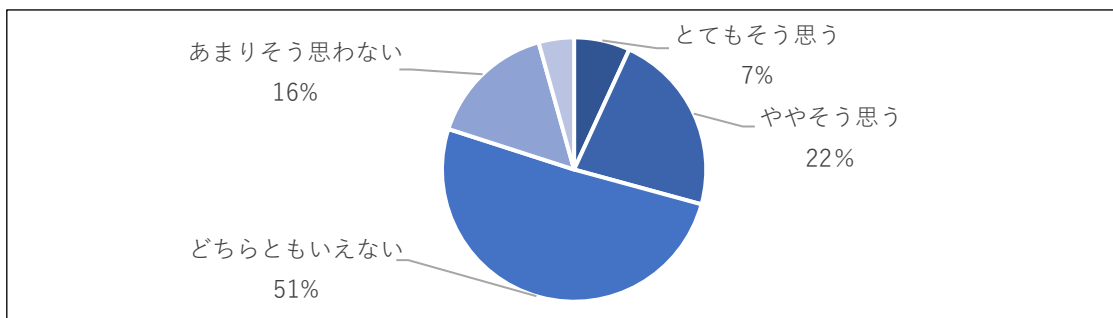


図 19-3 「運動遊び」は自分が行うよりも専門の外部講師に任せたい（副園長・主任）

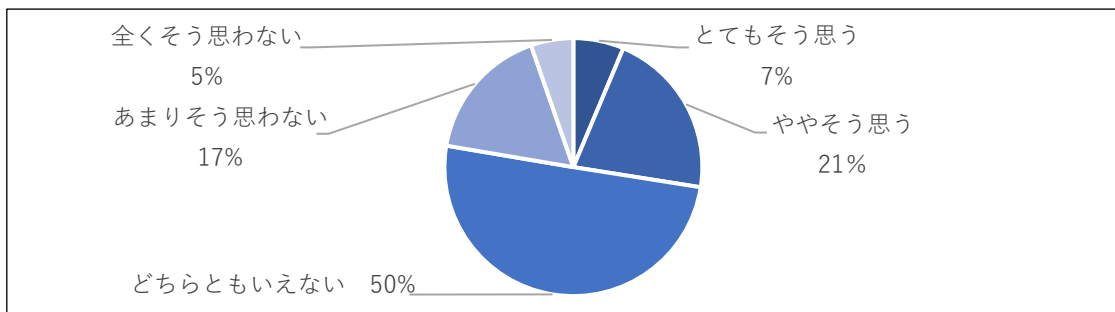


図 19-4 「運動遊び」は自分が行うよりも専門の外部講師に任せたい（園長）

『運動遊び』は、自分が行うよりも、運動を担当する専門の外部講師に任せたい」の質問項目で、役職ごとに大きな差は見られず、任せたいと思う人がやや多かった。

『運動遊び』は、自分が行うよりも、運動を担当する専門の外部講師に任せたい」の質問項目で、役職ごとに大きな差は見られず、任せたいと思う人がやや多かった。

『運動遊び』は、自分が行うよりも、運動を担当する専門の外部講師に任せたい」に関して、⑭の項目と同様「どちらともいえない」が 51%と半数を超える結果となった。自由記述では、鬼ごっこや遊具を使用した遊びはクラス担任が行うが、跳び箱、鉄棒、泳ぐ、マット等は専門の知識を持った外部講師に任せの方が怪我の心配もなく子どもたちも安心して楽しめる」と専門性を求める声もあった。

多くの保育者は外部講師に依頼するのではなく、連携しながら子どもたちに体を楽しく動かしてもらいたいと考えている。また、外部講師の声掛けや指導方法を見て日々の保育に落とし込む保育者も多く、保育者の運動指導力形成に影響していると考えられる。

3.1.26 「運動遊び」について、他の保育者の保育の様子を見る機会がある

「とてもそう思う」177人（10%）、「ややそう思う」730人（42%）、「どちらともいえない」369人（21%）、「あまりそう思わない」394人（22%）、「全くそう思わない」83人（5%）、計1,753人であった。（図20）

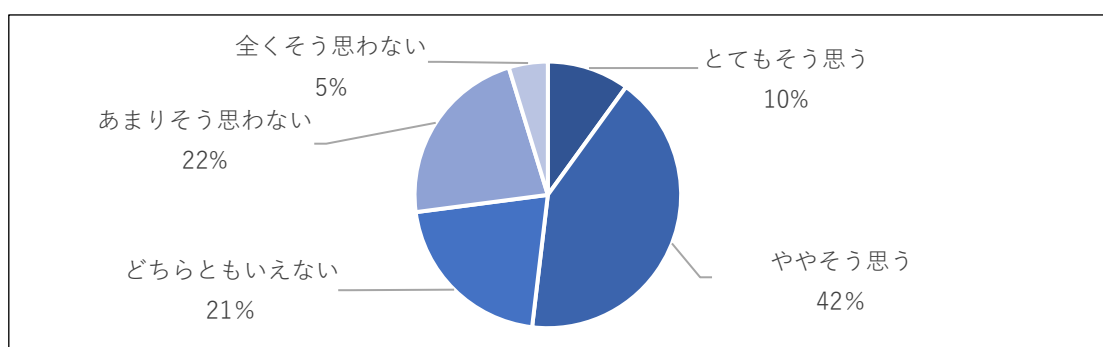


図20-1 「運動遊び」について、他の保育者の保育の様子を見る機会がある（総計）

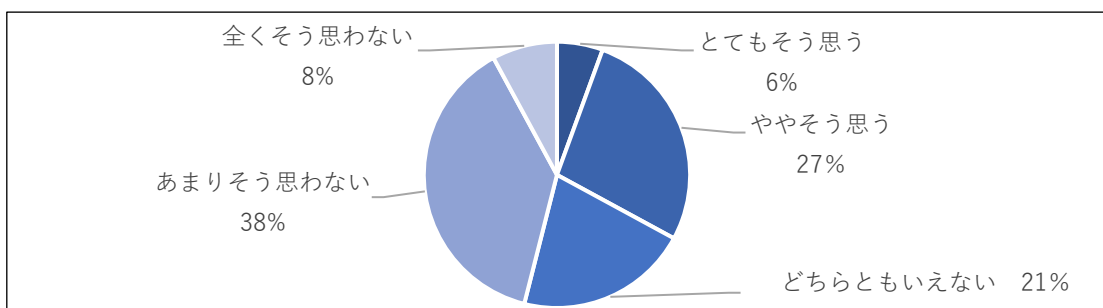


図20-2 「運動遊び」について、他の保育者の保育の様子を見る機会がある（担任）

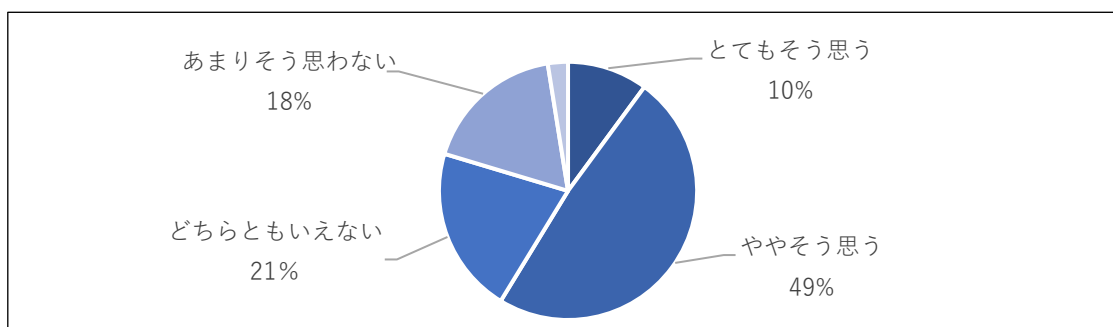


図20-3 「運動遊び」について他の保育者の保育の様子を見る機会がある（副園長・主任）

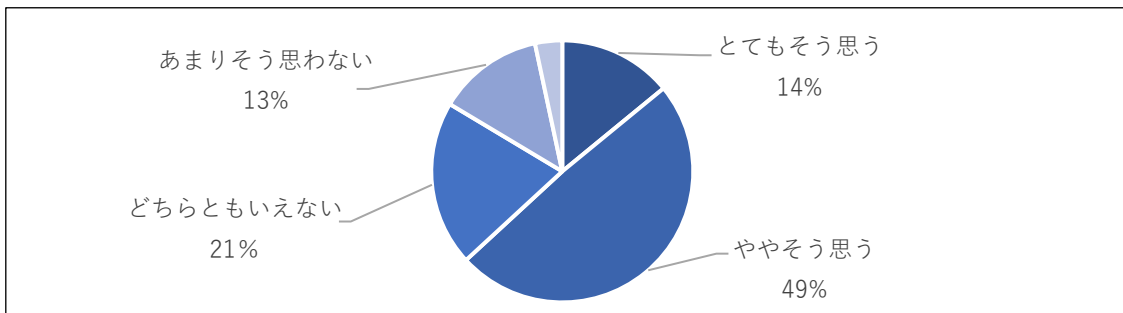


図 20-4 「運動遊び」について、他の保育者の保育の様子を見る機会がある（園長）

『運動遊び』について、「他の保育者の保育の様子を見る機会がある」の質問項目に、「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した人は全体の約半数であった。しかし、園長、副園長・主任に比べて、担任が様子を見る機会が少ない様子が伺える。

3.1.27 「運動遊び」について、身近な場所で学ぶ機会がある

「とてもそう思う」82人（5%）、「ややそう思う」537人（31%）、「どちらともいえない」500人（28%）、「あまりそう思わない」517人（29%）、「全くそう思わない」116人（7%）、計1,752人であった。（図 21）

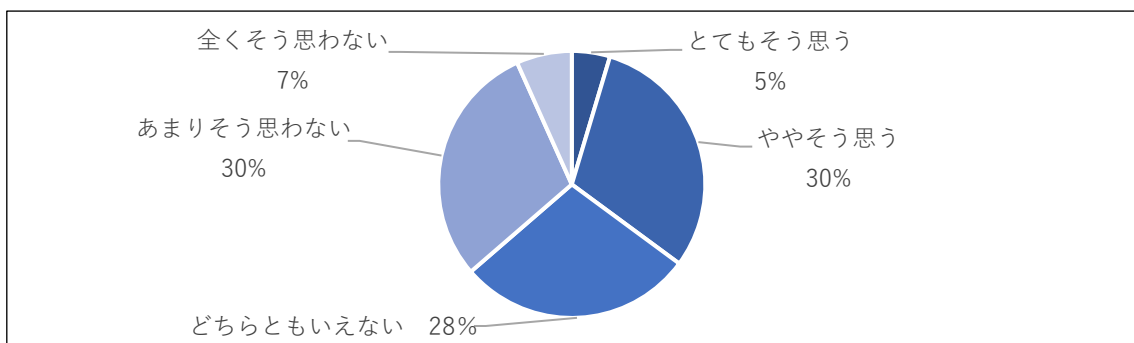


図 21-1 「運動遊び」について、身近な場所で学ぶ機会がある（総計）

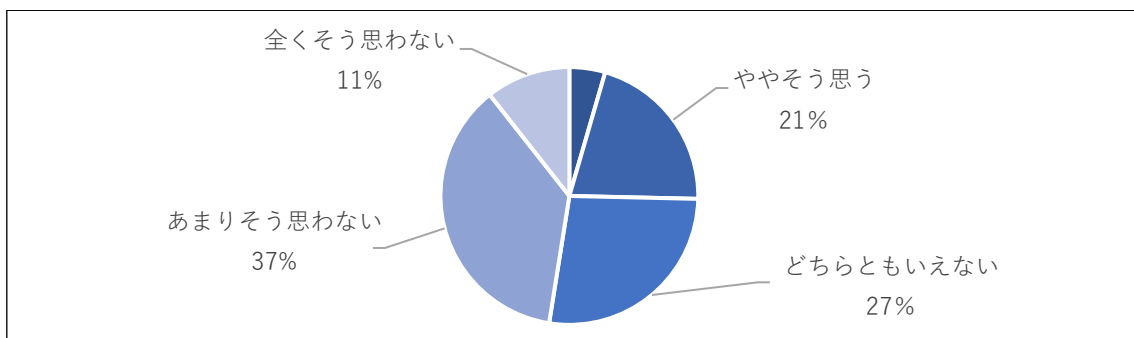


図 21-2 「運動遊び」について、身近な場所で学ぶ機会がある（担任）

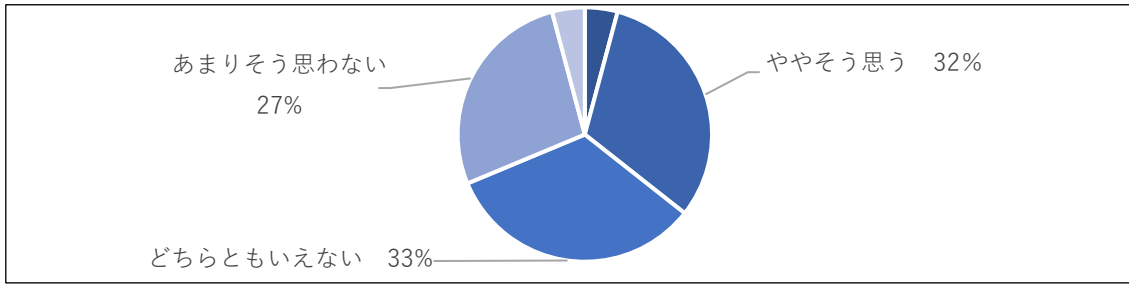


図 21-3 「運動遊び」について、身近な場所で学ぶ機会がある（副園長・主任）

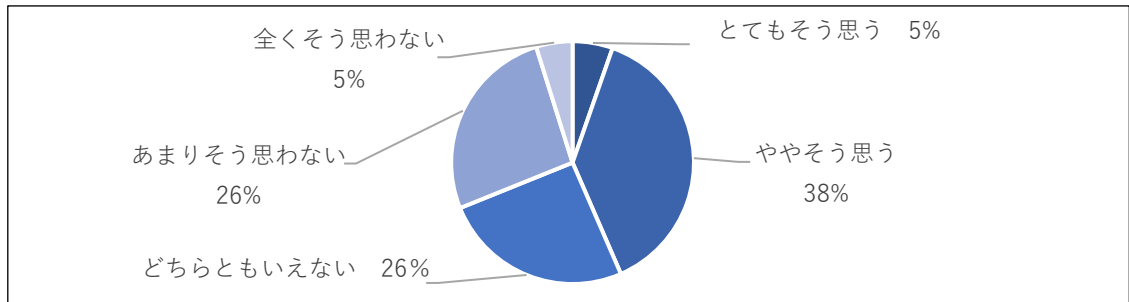


図 21-4 「運動遊び」について、身近な場所で学ぶ機会がある（園長）

『運動遊び』について、「身近な場所で学ぶ機会がある」の質問項目に、48%の担任が「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答した。園長、副園長・主任に比べて担任は「機会がない」と感じている。

「運動遊び」について、機会があれば学んでみたいに関して、79%の保育者が「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した。自由記述の中でも、多くの保育者が学ぶ機会が欲しい、あれば参加したいという声が多数あった。学ぶ意欲はあるが学ぶ機会（時間的余裕も含めて）が少ないように見受けられる。

3.1.28 「運動遊び」について、機会があれば学んでみたい

「とてもそう思う」512人（29%）、「ややそう思う」884人（50%）、「どちらともいえない」312人（18%）、「あまりそう思わない」38人（2%）、「全くそう思わない」9人（1%）、計1,755人であった。（図 22）

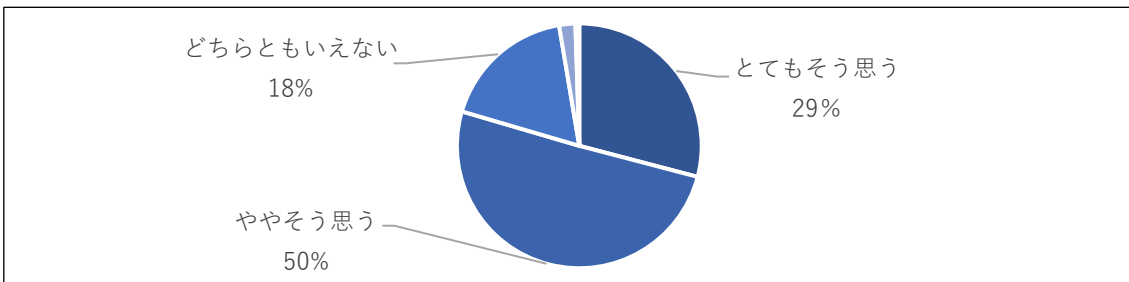


図 22-1 「運動遊び」について、機会があれば学んでみたい（総計）

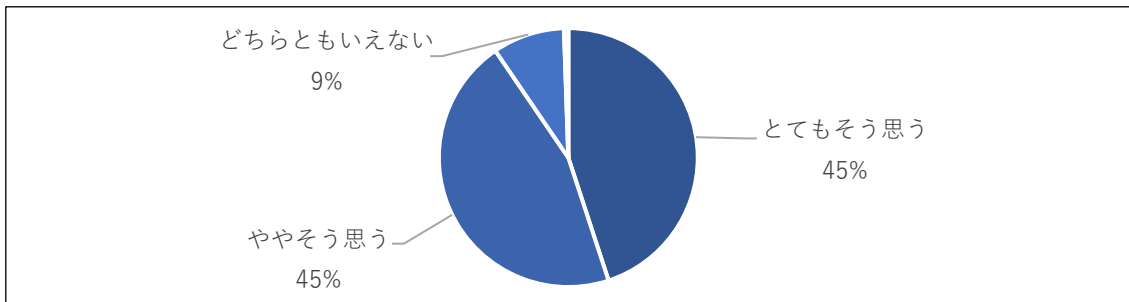


図 22-2 「運動遊び」について、機会があれば学んでみたい（担任）

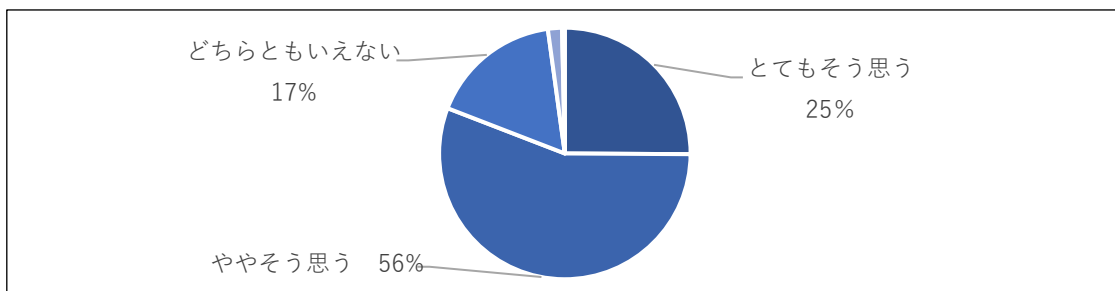


図 22-3 「運動遊び」について、機会があれば学んでみたい（副園長・主任）

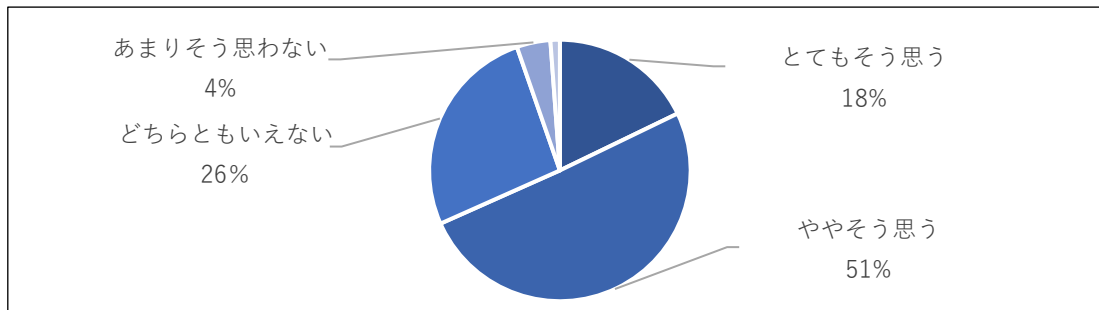


図 22-4 「運動遊び」について、機会があれば学んでみたい（園長）

『運動遊び』について、「機会があれば学んでみたい」の質問項目に、大半が学びたいという回答があった。

「自分の園での『運動遊び』の取組に満足している」に関して、「どちらともいえない」と回答した人が 45%で、満足している人は多くなかった。優先事項が他にあり、時間を費やせない様子が伺える。

3.1.29 自分の園での「運動遊び」の取組に満足している

「とてもそう思う人」79人(4%)，「ややそう思う」587人(33%)，「どちらともいえない」785人(45%)，「あまりそう思わない」278人(16%)，「全くそう思わない」31人(2%)，計1,760人であった。(図23)

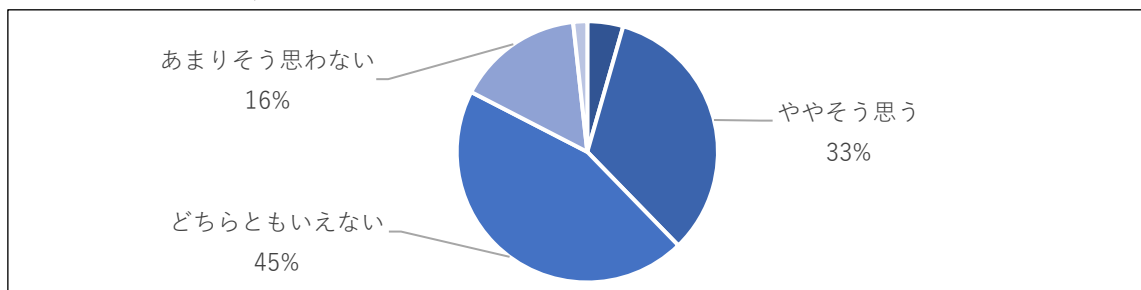


図23-1 自分の園での「運動遊び」の取組に満足している(総計)

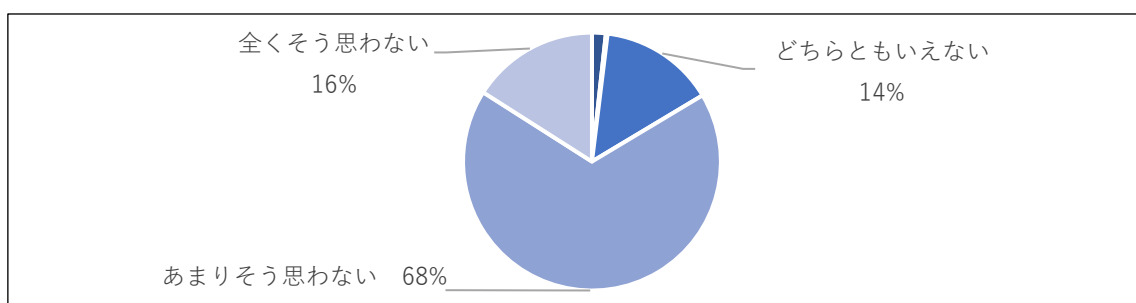


図23-2 自分の園での「運動遊び」の取組に満足している(担任)

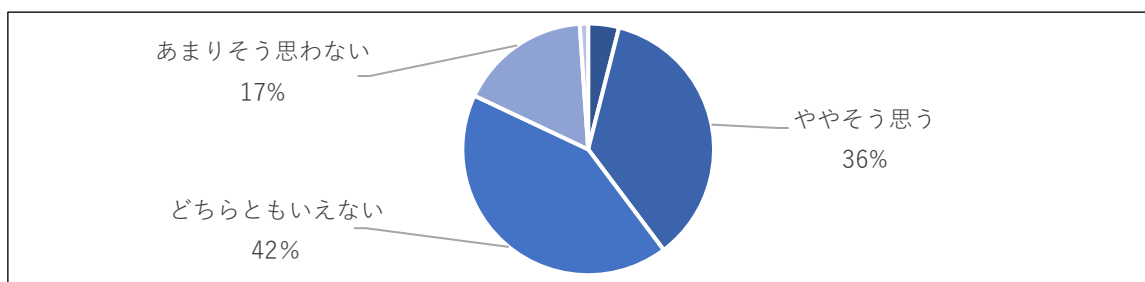


図23-3 自分の園での「運動遊び」の取組に満足している(副園長・主任)

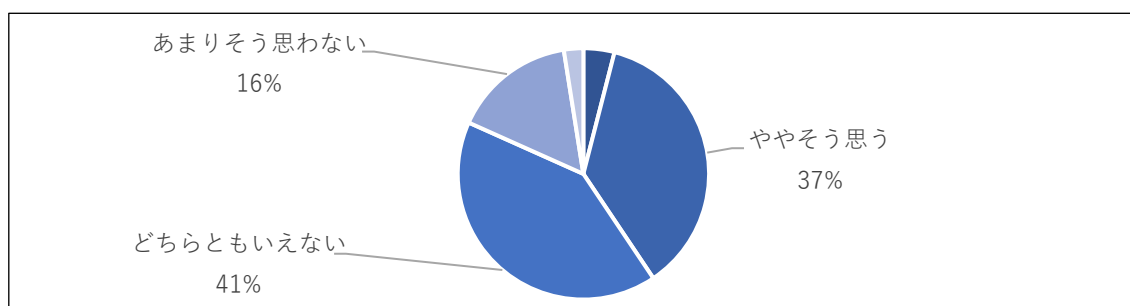


図23-4 自分の園での「運動遊び」の取組に満足している(園長)

「自分の園での『運動遊び』の取組に満足している」の質問項目で、担任と他の役職で大きな差が見られた。担任で、取組に満足していると回答したのは僅か2%であった。業務の中で運動遊びの優先度が下がってしまっている葛藤があるのではないかと考えられる。

3.1.30 あなたは、子どもの頃（小学生の頃まで）、放課後や休日に、どこでよく遊んでいましたか

第1位の結果（図24-1）は「グラウンド、校庭」216人（13%）、「公園、空き地、神社・お寺の境内」907人（54%）、「道ばた、川、池、林、田畑」290人（17%）、「ショッピングセンター、商店街」1人（0%）、「学校の教室、図書室、体育館」15人（1%）、「自分の家、友達の家」237人（14%）、「図書館、公民館」1人（0%）、「学童保育施設（児童クラブ、児童館等）」13人（1%）、「その他」7人（0%）、計1687人であった。

第2位（図24-2）は、「グラウンド、校庭」296人（18%）、「公園、空き地、神社・お寺の境内」458人（27%）、「道ばた、川、池、林、田畑」423人（25%）、「ショッピングセンター、商店街」5人（0%）、「学校の教室、図書室、体育館」25人（2%）、「自分の家、友達の家」445人（26%）、「図書館、公民館」8人（1%）、「学童保育施設（児童クラブ、児童館等）」23人（1%）、「その他」3人（0%）、計1686人であった。

第3位（図24-3）は、「グラウンド、校庭」306人（19%）、「公園、空き地、神社・お寺の境内」175人（11%）、「道ばた、川、池、林、田畑」332人（20%）、「ショッピングセンター、商店街」18人（1%）、「学校の教室、図書室、体育館」80人（5%）、「自分の家、友達の家」652人（40%）、「図書館、公民館」35人（2%）、「学童保育施設（児童クラブ、児童館等）」27人（1%）、「その他」13人（1%）、計1638人であった。

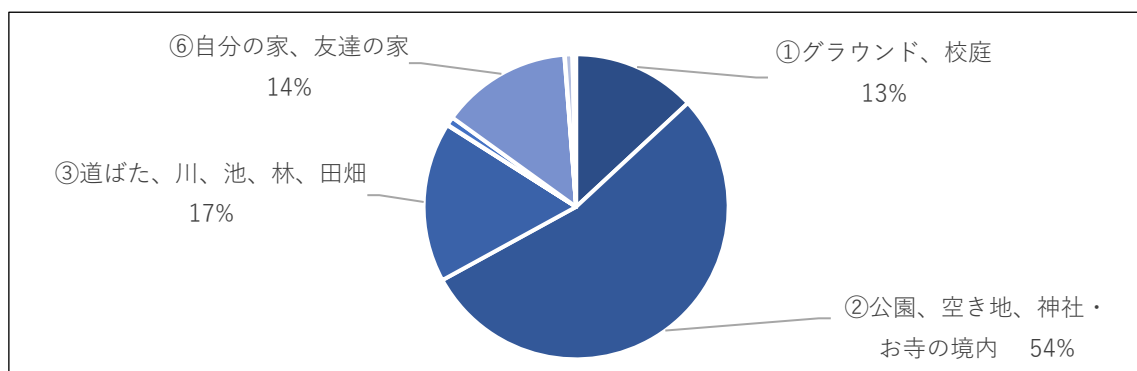


図24-1-1 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所（第1位）（総計）

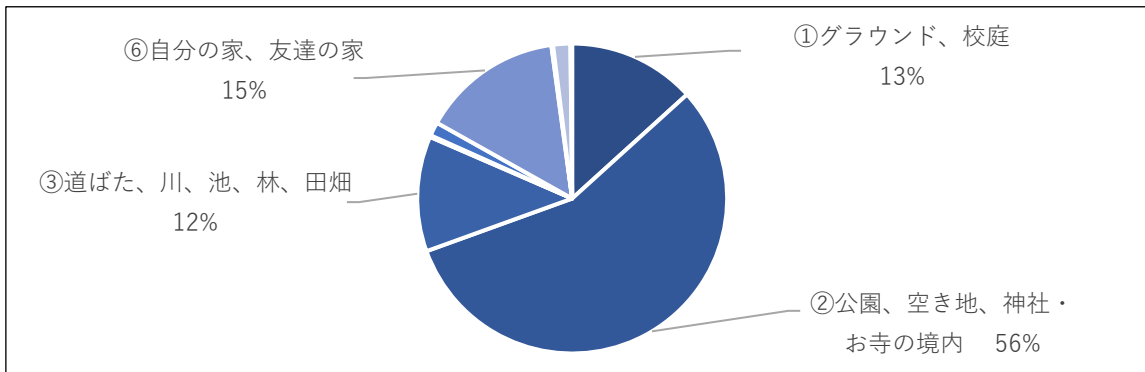


図 24-1-2 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所（第1位）（担任）

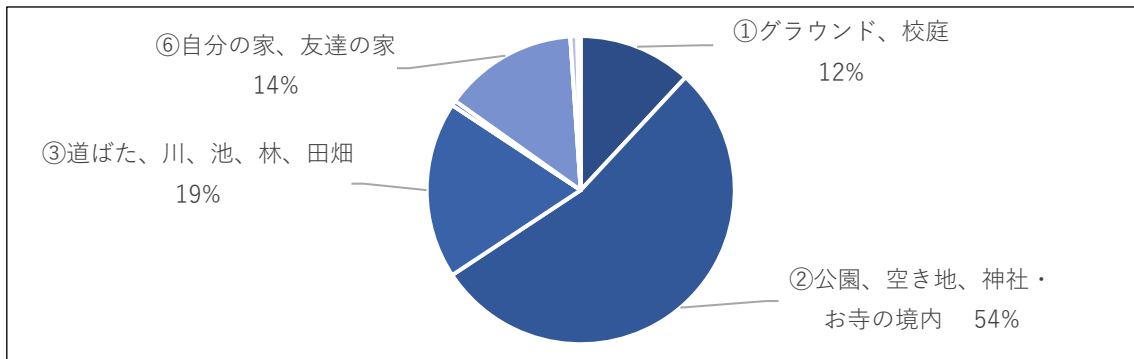


図 24-1-3 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所（第1位）（副園長・主任）

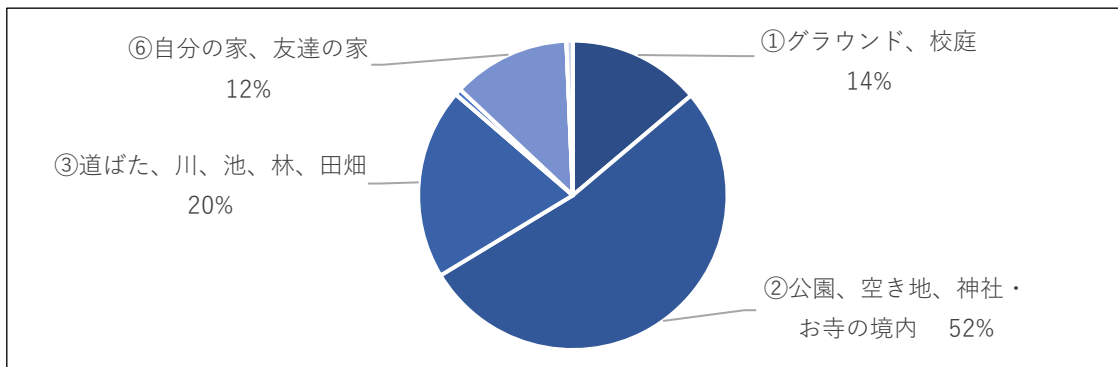


図 24-1-4 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所（第1位）（園長）

第1位は「公園、空き地、神社・お寺の境内」が最も多く、役職ごとに大きな差は見られなかった。次いで「道ばた、川、池、林、田畑」、担任は「自分の家、友達の家」という結果であった。保育者の役職間において差は見られなかった。

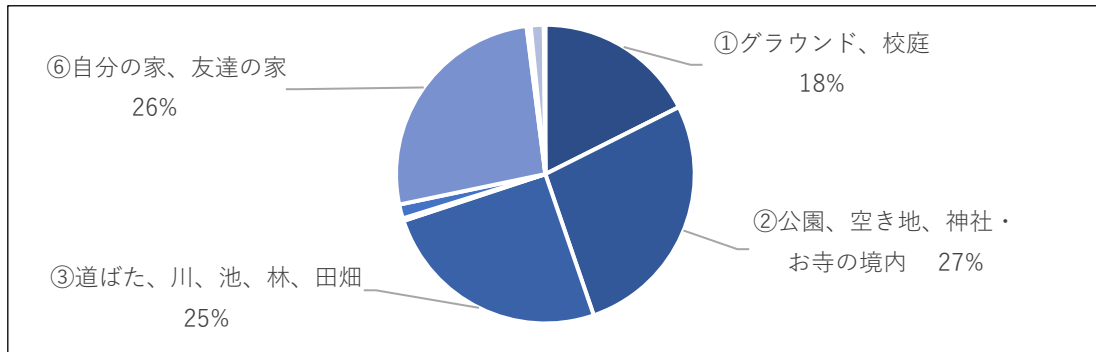


図 24-2-1 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所 (第 2 位) (総計)

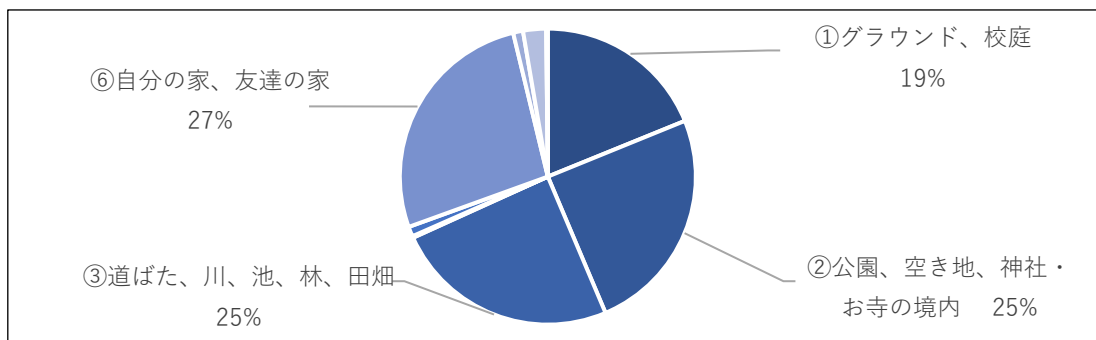


図 24-2-2 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所 (第 2 位) (担任)

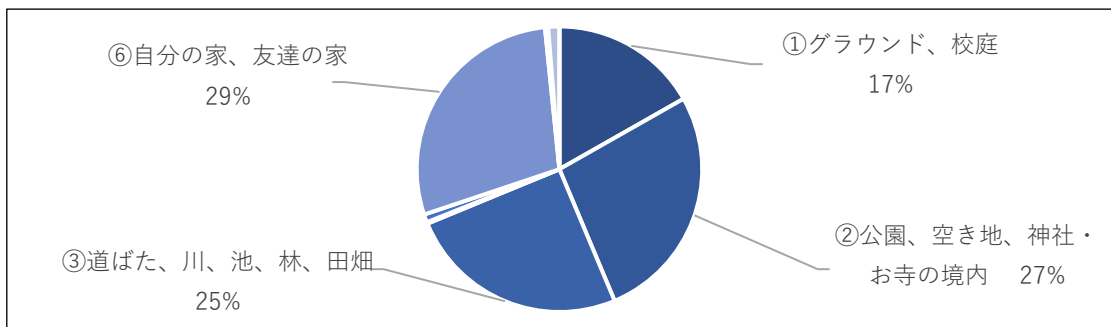


図 24-2-3 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所 (第 2 位) (副園長・主任)

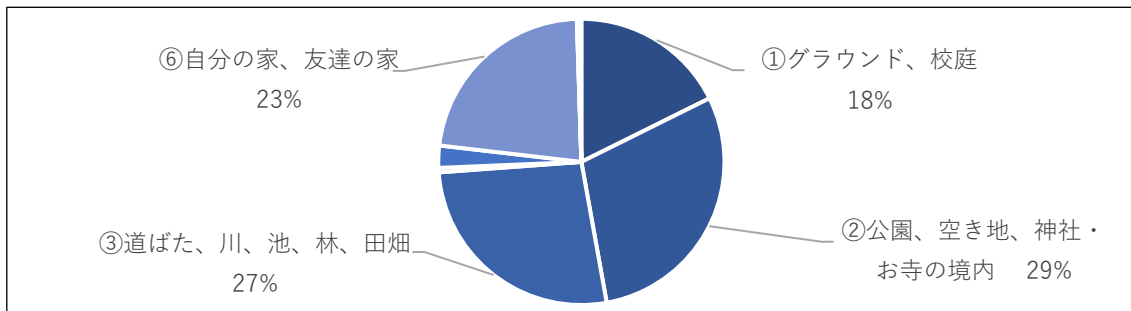


図 24-2-4 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所 (第 2 位) (園長)

第2位は第1位の項目に加え、「グラウンド、校庭」と回答した人が多かった。役職ごとに差はなかった。

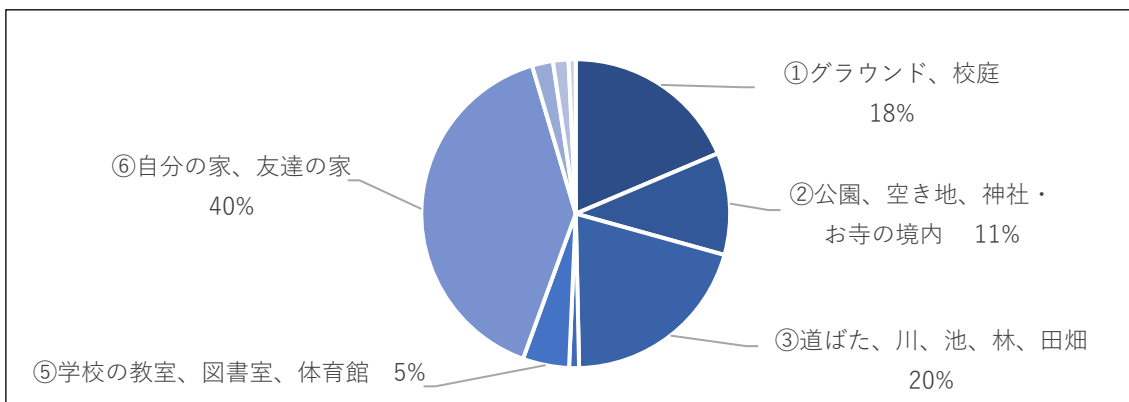


図 24-3-1 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所（第3位）（総計）

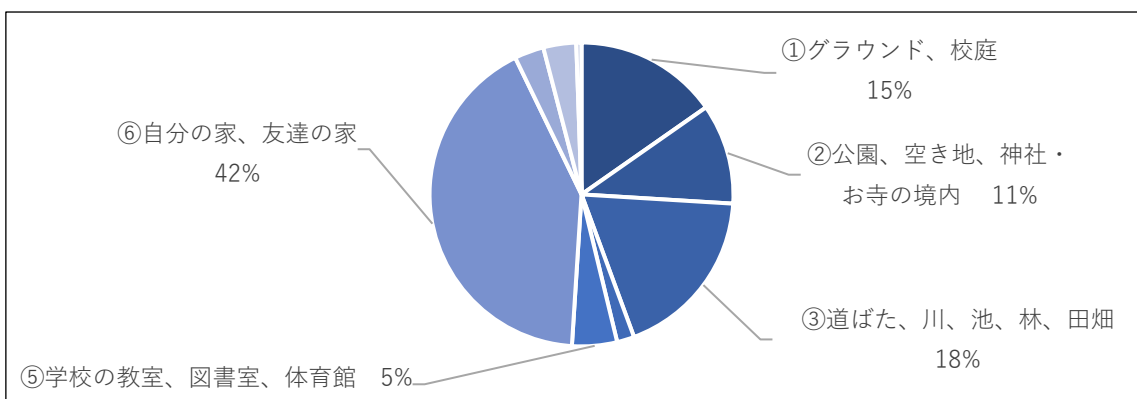


図 24-3-2 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所（第3位）（担任）

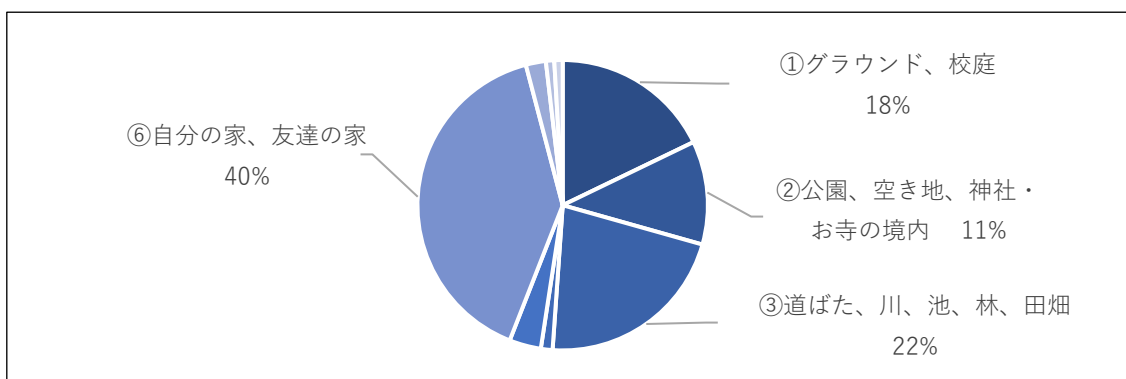


図 24-3-3 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所（第3位）（副園長・主任）

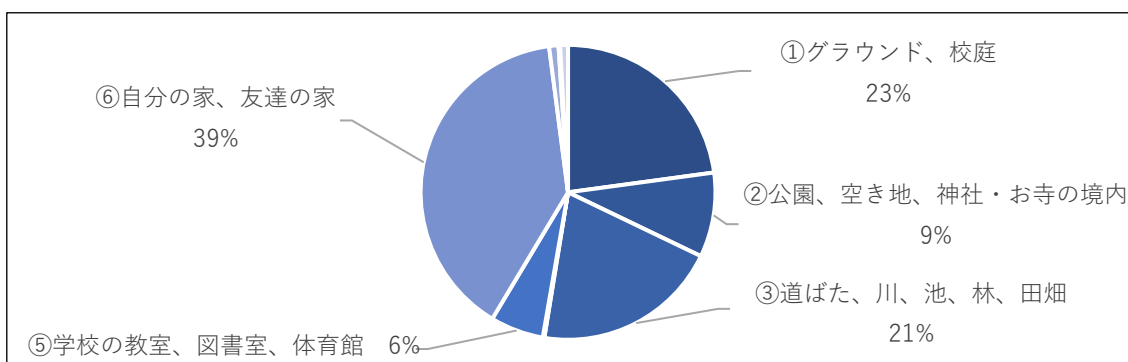


図 24-3-4 子どもの頃、放課後や休日どこでよく遊んでいた場所（第3位）（園長）

第3位は圧倒的に「自分の家、友達の家」という回答が多かった。ただ、遊びの内容に変化があるのではないかと推測される。遊びの内容については今後集計する。

3.1.31 あなたは、子どもの頃（小学生の頃まで）、放課後や休日に、どのような遊びをよくしていましたか

「遊具（ブランコ、すべり台等）を使った遊び」181人（11%）、「砂場等でのどろんこ遊び」22人（1%）、「ボールを使った遊び（野球、サッカー、ドッジボール等）」130人（8%）、「自転車、三輪車、一輪車、ローラースケート等」137人（8%）、「石ころや木の枝等、自然のものを使った遊び」135人（8%）、「おにごっこ、缶けり、かくれんぼ等の遊び」701人（42%）、「探検ごっこ、秘密基地づくり」77人（5%）、「なわとび、ゴム跳び」99人（6%）、「虫取り、魚とり、釣り」29人（2%）、「トランプ、かるた、ボードゲーム、カードゲーム等の遊び」7人（0%）、「人形遊び、お店屋さんごっこ、ままごと等のごっこ遊び」125人（7%）、「積み木、ブロック等のおもちゃを使った遊び」1人（0%）、「まりつき、あやとり、お手玉等を使った遊び」5人（0%）、「メンコ、ビー玉、おはじき等を使った遊び」3人（0%）、「絵やマンガを描く」11人（1%）、「ミニカー、プラモデル等のおもちゃを使った遊び」0人（0%）、「テレビ、ビデオ、DVD等を見る」6人（0%）、「絵本、本、マンガを読む」5人（0%）、「テレビゲーム、携帯ゲーム」7人（0%）、「その他」5人（0%）、計1686人であった。

「おにごっこ、缶けり、かくれんぼ等」の遊びの回答が1位を占めるが、担任は33%、副園長・主任は45%、園長は48%と差が見受けられた。

担任は、「自転車、三輪車、一輪車、ローラースケート等」、「遊具（ブランコ、すべり台等）を使った遊び」の道具を使った遊びの内容が園長・副園長・主任よりも多いが、園長・副園長・主任は道具を使わない「おにごっこ、缶けり、かくれんぼ等の遊び」、「石ころや木の枝等、自然のものを使った遊び」の回答が多かった。

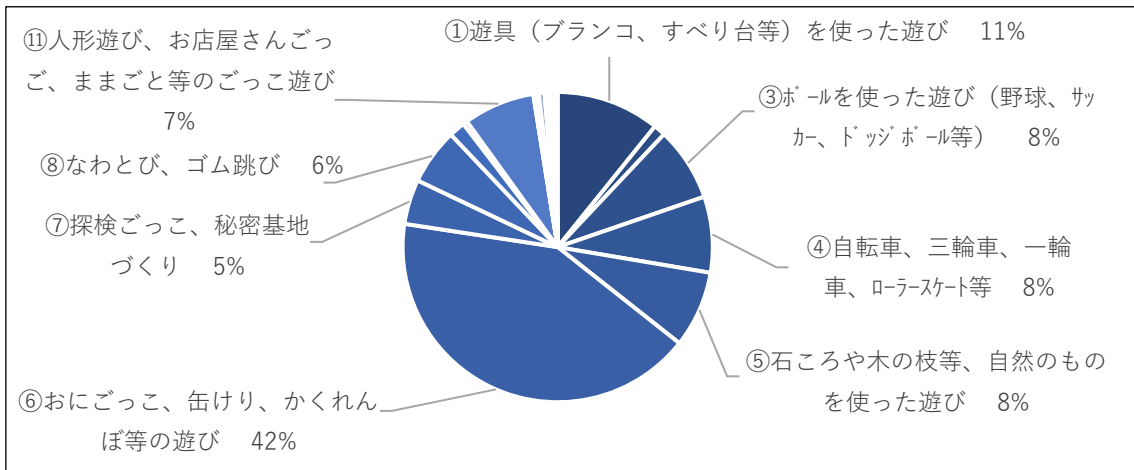


図 25-1 子どもの頃、放課後や休日によくしていた遊び（総計）

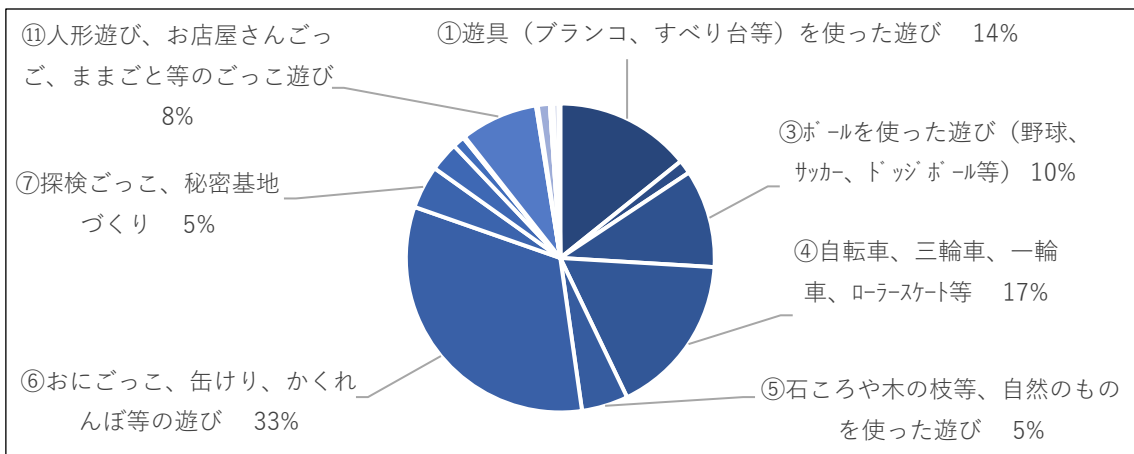


図 25-2 子どもの頃、放課後や休日によくしていた遊び（担任）

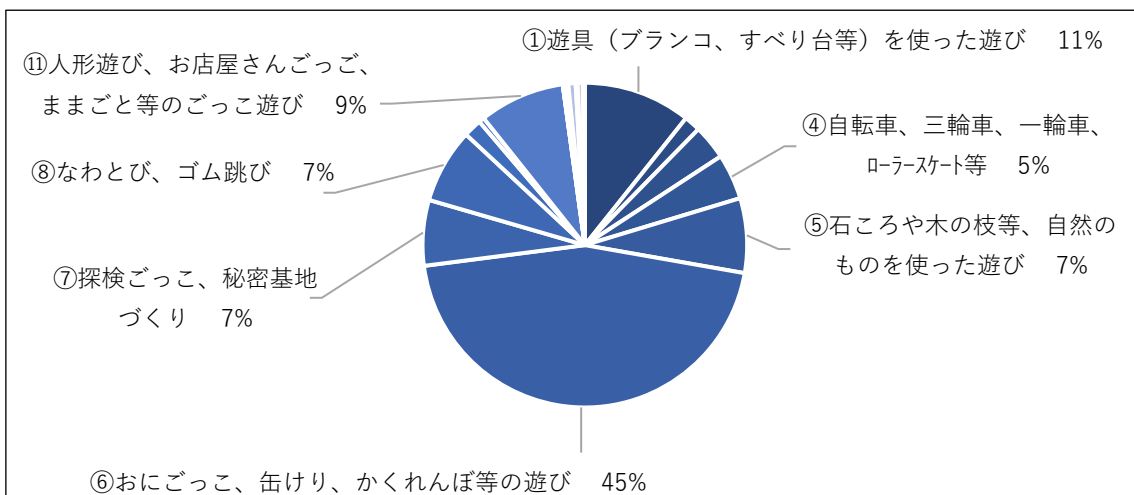


図 25-3 子どもの頃、放課後や休日によくしていた遊び（副園長・主任）

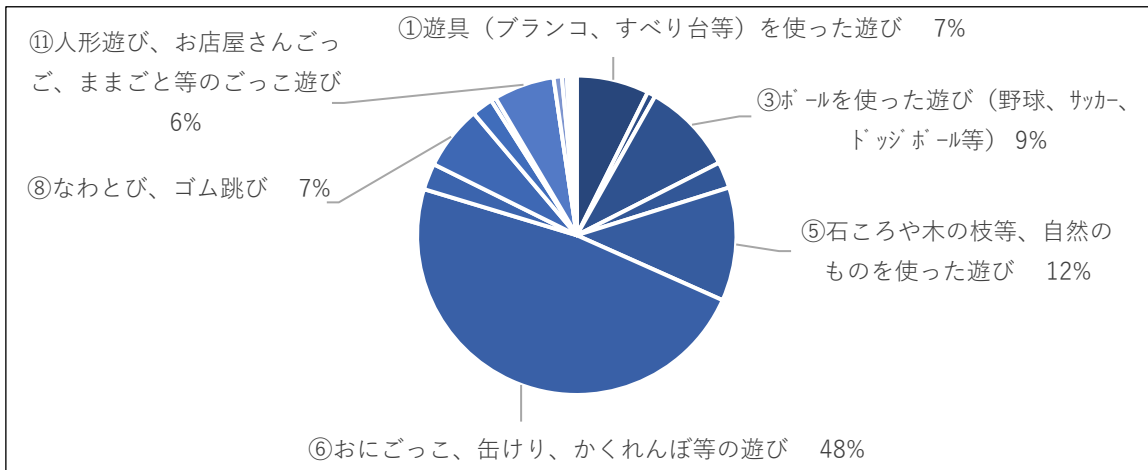


図 25-4 子どもの頃、放課後や休日によくしていた遊び（園長）

3.1.34 あなたは、県の「幼児期からの運動習慣アップ支援事業」のプレ研修会（H30：阿賀野市，加茂市，小千谷市，南魚沼市，糸魚川市）又はモデル研修会（R1：田上町，長岡市，刈羽村，上越市）に参加したことがありますか

「ある」112人（7%） 「ない」1,559人（93%），計1,671人であった。

3.1.35 姿勢が悪いと回答した保育者の運動遊びの回答

姿勢が悪いと回答した保育者の「運動遊びを取り入れていると言えない（第1位）」、「保育に『運動遊び』を取り入れる目的（ねらい）は何ですか（第1位）」、「保育に『運動遊び』を取り入れる上で、あなたは、どのようなことを課題に感じていますか（第1位）」を以下に示す。「運動遊びを取り入れていると言えない（第1位）」は、「ほかに優先してやるべきことがあるため25%」，「遊びのレパートリー・バリエーションが少ないため19%」，「時間の確保が難しいため16%」であった。

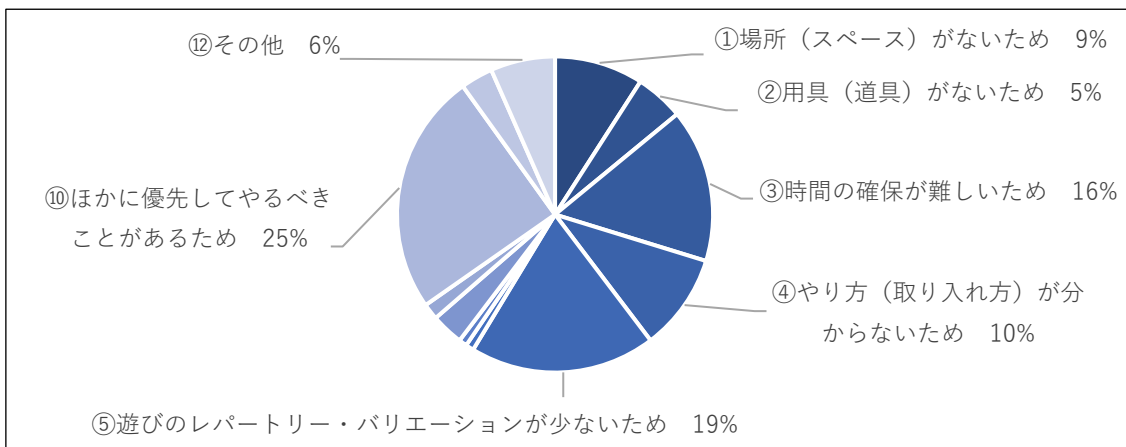


図 26 【姿勢が悪い】回答群の運動遊びを取り入れていると言えない（第1位）

「保育に『運動遊び』を取り入れる目的（ねらい）は何ですか（第1位）」は「体を動かす楽しさ、心地よさの実感 58%」, 「多様な動き（動作）の経験 13%」, 「体力の向上 9%」であった。

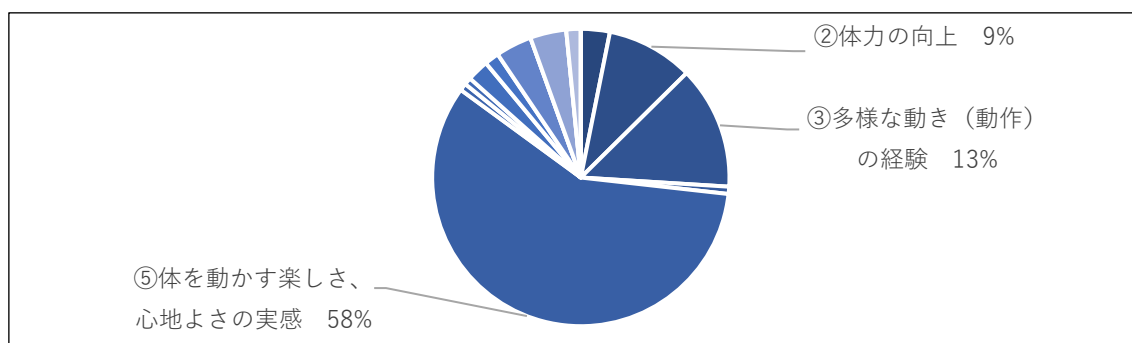


図 27 【姿勢が悪い】回答群の保育に「運動遊び」を取り入れる目的（第1位）

「保育に『運動遊び』を取り入れる上で、あなたは、どのようなことを課題に感じていますか（第1位）」は、「思わず身体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方 19%」, 「①発達特性に応じた遊びの内容 17%」, 「遊びのレパートリー・バリエーションの少なさ 10%」, 「保育活動での取り入れ方 10%」が挙げられた。

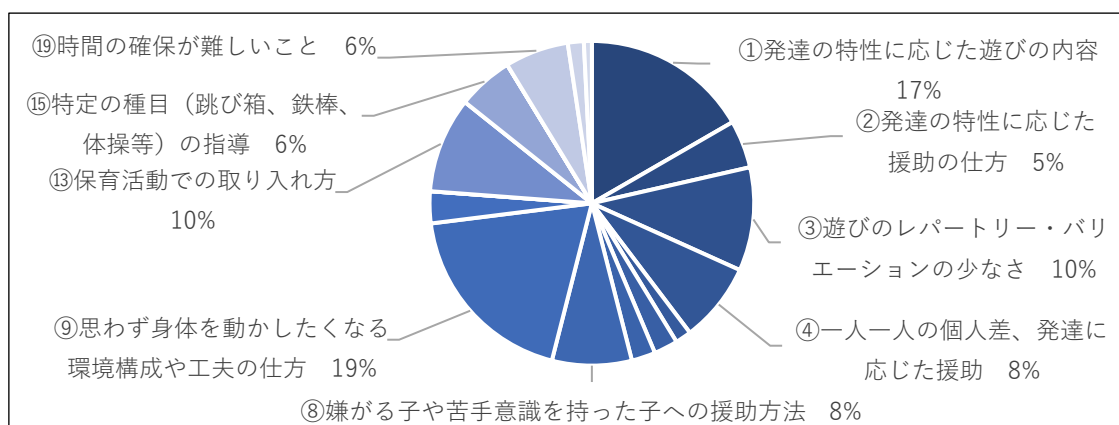


図 28 【姿勢が悪い】回答群の保育に「運動遊び」を取り入れる上で、あなたは、どのようなことを課題に感じていますか（第1位）

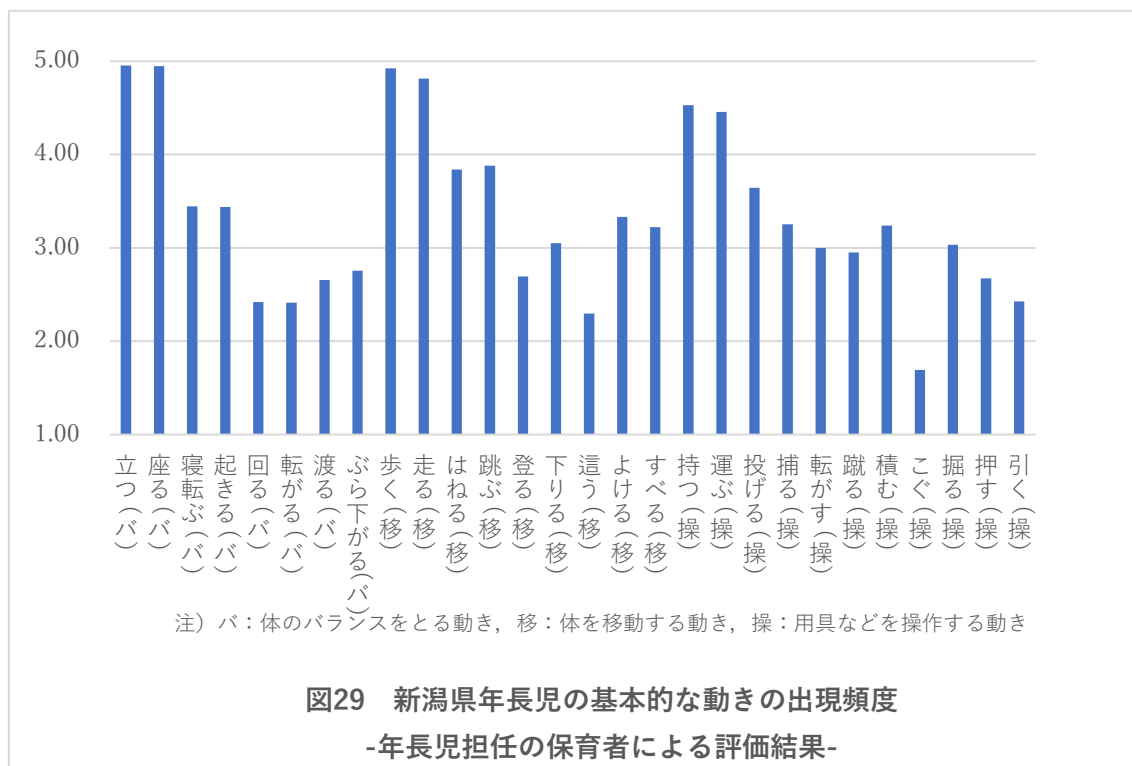
3.2 運動遊びに関する実態調査 調査票 1（共通用）

3.2.1 年長児の基本的な動きの実態

年長児の担任に日々の保育の中で子ども（年長児）が「基本的な動き」（体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具などを操作する動き）をどの程度行っているか調査した。

「基本的な動き」は、幼児期運動指針を踏襲し、「体のバランスをとる動き（立つ・座る・

寝転ぶ・起きる・回る・転がる・渡る・ぶら下がる)」、「体を移動する動き(歩く・走る・はねる・跳ぶ・登る・下りる・這う・よける・すべる)」、「用具などを操作する動き(持つ・運ぶ・投げる・捕る・転がす・蹴る・積む・こぐ・掘る・押す・引く)」, 28種の動きを選出した(図29).



調査は年長児の担任を対象に日々の保育の中で子ども(年長児)が28種の「基本的な動き」をどのような頻度で行っているか5件法で実施した(5:毎日行う/ほぼ毎日, 4:よく行う/週に3回程度, 3:たまに行う/週に1回程度, 2:あまり行わない/1ヶ月に数回程度), 1:ほとんど行わない/年間に数回程度, 又は行わない).

回答は総数555件, 新潟市(176件), 長岡市(66件), 上越市(46件), 柏崎市(30件), 新発田市(26件), 三条市(23件), 南魚沼市(20件), 燕市(19件), 佐渡市(14件), 五泉市(12件), 阿賀野市(11件), 見附市(11件), 村上市(10件), 加茂市(10件), 魚沼市(10件), 小千谷市(9件), 胎内市(8件), 妙高市(8件), 糸魚川市(7件), 津南町(6件), 聖籠町(3件), 阿賀町(3件), 弥彦村(3件), 関川村(2件), 刈羽村(1件), 田上町(1件), 出雲崎町(1件)であった.

頻度が低い「基本的な動き」は, 少ない順に, こぐ・操作(1.7), 這う・移動(2.3), 転がる・バランス(2.4), 回る・バランス(2.4), 引く・操作(2.4), 渡る・バランス(2.7), 押す・操作(2.7), 登る・移動(2.7), ぶら下がる・バランス(2.8), 蹴る・操作(3.0), 転がす・操作(3.0), 掘る・操作(3.0), 下りる・移動(3.0), すべる・移動(3.2), 積む・

操作 (3.2), 捕る・操作 (3.3), よける・移動 (3.3), 起きる・バランス (3.4), 寝転ぶ・バランス (3.4), 投げる・操作 (3.6), はねる・移動 (3.8), 跳ぶ・移動 (3.9), 運ぶ・操作 (4.5), 持つ・操作 (4.5), 走る・移動 (4.8), 歩く・移動 (4.9), 座る・バランス (4.9), 立つ・バランス (5.0) であった。「基本的な動き」の出現について, 問うたが, 日常保育で見られるものの姿勢が崩れており, 正しい動きではない, と判断している保育者が見受けられ, 幼児の姿勢, 「基本的な動き」においても正しい姿勢と動きへの意識の高さが伺えた。

4 自由記述

保育者が置かれている状況や見方・考え方を理解するために, 自由記述から得られたデータを質的研究方法によって分析し, 繰り返し現れる現象をコード化, 可視化したものを図 30 に示す。

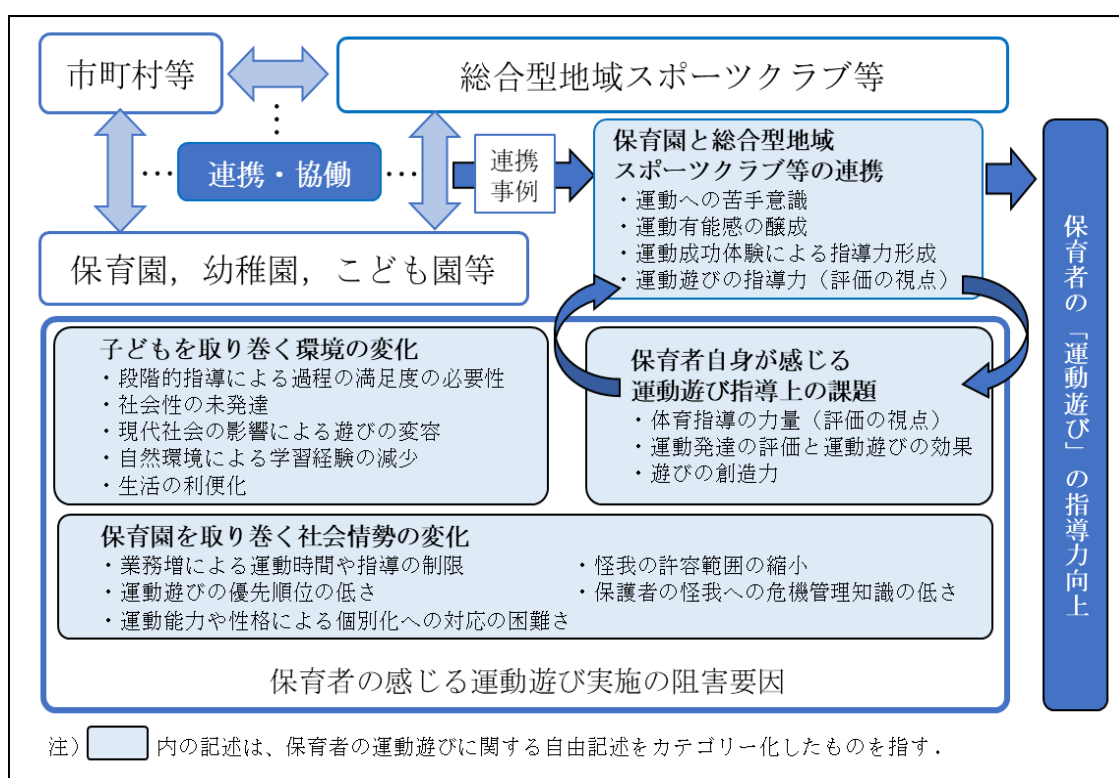


図 30 自由記述のコード化による運動遊びの阻害要因と指導力向上相関図

カテゴリーは, 「保育者自身が感じる運動遊び指導上の課題」, 「子どもを取り巻く環境の変化」, 「保育園を取り巻く社会情勢の変化」, 「保育園と総合型地域スポーツクラブ等の連携」であった。「保育者自身の運動遊び指導上の課題」のコードは, 「体育, 運動遊び指導力 (評価の視点)」, 「運動発達と運動あそびの効果」, 「遊びの創造力」, 「子どもを取り巻く環境の変化」のコードは, 「段階的指導による過程の満足度の必要性」, 「社会性の未発達」, 「現代社会の影響による遊びの変容」, 「生活の利便化」, 「自然環境による学習経験の減少」, 「保育

園を取り巻く社会情勢の変化」のコードは、「業務増による運動時間や指導の制限」、「怪我の許容範囲の縮小」、「運動遊びの優先順位の低さ」、「運動遊びの継続実施の困難さ」、「保護者の怪我への危機管理知識の低さ」、「運動能力や性格による個別化への対応の困難さ」、
「保育園と総合型地域スポーツクラブ等の連携」のコードは、「運動への苦手意識」、「運動有能感の醸成」、「運動成功体験による指導力形成」、「運動遊びの指導力（評価の視点）」、「保育者が行う運動遊び・体育への総合型地域スポーツクラブ等によるサポート」の4つのカテゴリーに分類された。運動に苦手意識のある保育者は、苦手意識があるからこそ、自身ができるようになった過程と経験が保育の基盤となっており、運動課題につまずく幼児への運動指導に役立つ、指導力向上には総合型地域スポーツクラブ等のサポートが有効であると述べていた。自由記述の例を4.1.1～4.1.4に示す。

4.1.1 保育者自身を感じる運動遊び指導上の課題

- ・自分があまり運動が得意ではないため、苦手意識が強いこと、見本ができることとできないことがあること、個々に「ここを改善したらできるようになる」という見極めが難しいです。(体育指導の力量：評価の視点)
- ・自分が経験してきた運動遊びは伝えることができるが、現代の子の体の動きで、どのような部分の動きが不足していて、どのような運動を取り入れると体幹が鍛えられるのかなどの知識が欲しいと感じている。(運動発達の評価と運動あそびの効果)
- ・若い先生たちが自分自身“遊ぶ”という経験が乏しいのか、決まった遊び以外できない、(遊びの創造力)

4.1.2 子どもの遊び方の変化

- ・縄跳び、鉄棒、雲梯、跳び箱などをコツコツと練習する子どもが少なく、結果がすぐに得られないとあきらめる子どもも多い。(段階的指導による過程の満足感の必要性)
- ・個で遊ぶ子が増え、ルールを分かち合ったり、譲り合うことが出来ず、思い通りに行かないと集団から抜ける。(社会性の未発達)
- ・園にいる間は体を動かして遊ぶ子が多いが家に帰ると休みの日などはゲームやYouTubeを見ている子が多い様子。(現代社会の影響による遊びの変容)
- ・車社会、生活が便利になり子どもたちが体を使う経験がとても少なくなった。(生活の利便化)
- ・少し前までは日々の生活の中で自然に行き身についていたことが出来なくなっていることに危機感を感じる。(自然環境による学習経験の減少)

4.1.3 保育園を取り巻く社会情勢の変化

- ・子ども子育て支援制度や保育の無償化などにより、より多忙となり運動にあてる時間も労力も、ゆとりがなくなっている状態です。(業務増による運動時間や指導の制限)
- ・調査、監査も多く、事務量が倍増しています。(事務量の倍増)

- ・行政当局から保育中の事故予防を徹底するよう指導されているためか、小さな怪我をしてしまうような遊びも保育の中に取り入れることに消極的になっている現場の実情がある。
(怪我の許容範囲の縮小)
- ・保育士の中で(運動遊びは)優先順位が低いと感じ、保育の中に取り入れたいと思っています。(運動遊びの優先順位の低さ)
- ・日々の保育や年間の行事、イベントもあり運動遊びを継続的に行うことが難しい。(運動遊びの継続実施の困難さ)
- ・保護者が怪我に敏感で、小さな怪我をして大きな怪我を防げるのに、とにかく怪我だけはさせないでほしいという親が多くて困る。(保護者の怪我への危機管理知識の低さ)
- ・運動能力、個々の性格に差、違いがあり取り入れるのが難しいと感じることがある。(運動能力や性格による個別化への対応の困難さ)

4.1.4 保育園と総合型地域スポーツクラブ等の連携

- ・小学生の頃は運動が苦手で、世の中の人には自分のような運動音痴人間とそうでない人間の二種類あると思っていました。(運動への苦手意識)
- ・中学校には部活動が二種類しかなく、仕方なく友達につられて入部しました。でも、下手は下手なりに練習すれば上達すると小さな自信ができました。(保育者自身の運動有能感の醸成)
- ・短大では恩師に出会い、運動が出来ない人は、それを克服したとき、できない子がどこでつまづいているかよく分かるため、よい指導者になれる、と幼児体育の時間に学びました。それは40年近い保育士生活の原点です。(運動成功体験による指導力形成)
- ・縄跳び、コマまわし、跳び箱等、できない子ができるようになるためのポイントや言葉かけはどうしたら良いのかを、クラス担任をしていた時はいつも考えていました。(運動あそびの指導力・評価の視点)
- ・うまくできるようになった時のあの笑顔が見たくて、保育園の保育士たちはスポーツクラブから年数回指導を受けています。指導法やポイントを学ぶことができ、大変ありがたいです。継続して指導を受けられることを願っています。(保育者が行う運動遊び・体育への総合型地域スポーツクラブ等によるサポート)

5 まとめ

新潟県の保育者から幼児期の「運動遊び」の取組の実態について、以下の知見が得られた。

「子ども(年長児)の動きや体の使い方、身のこなしについて気になること」は「姿勢が悪い(座っているとき、立っているとき、歩くときなど)」、「気をつけなど、同じ姿勢を保てず崩れてしまう」ことを懸念している。

「保育に『運動遊び』を取り入れにくい要因」は、「他に優先してやるべきことがあるため」、「遊びのレパートリー・バリエーションが少ないため」、「時間の確保が難しいため」が、ほぼ同じ割合であった。運動遊びに積極的に取り組めない理由は、新たな法律や法改正、監査等による事務業務増による運動時間や指導の制限、さらに、怪我の許容範囲の縮小、保護者の怪我への危機管理知識の低さ、運動能力や性格による個別化への対応の困難さが挙げられた。「自分の園での『運動遊び』の取組みに満足している」に関して、「どちらともいえない」と回答した人が45%であった。

「保育に『運動遊び』を取り入れる目的（ねらい）」は、「体を動かす楽しさ、心地よさの実感」と回答した人が多かった。次いで「体力の向上」、「多様な動き（動作）の経験」であった。

「保育に『運動遊び』を取り入れる上での課題」は、「発達の特性に合った遊びの内容」、「一人一人の個人差、発達に応じた援助」、「思わず身体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方」が、ほぼ同じ割合であった。なお、担任では「遊びのレパートリー・バリエーションの少なさ」が最も多かった。保育者自身の運動遊び指導上の課題として、体育指導の力量（評価の視点）、運動発達の評価と運動遊びの効果、遊びの創造力が挙げられた。

「子どもの頃（小学生の頃まで）外遊びをしていた」と回答した人は、全体の97%の保育者が外遊びをしていた。保育者自身が子どもの頃は外遊びが主であった。主な場所はグラウンド、校庭、公園、空き地、神社・お寺の境内、道ばた、川、池、林、田畑と自然の中が多く、遊ぶ内容は役職間での差はなく、鬼ごっこや遊具を使った遊びが多い傾向にあった。また、担任の保育者は、自転車等の道具を使用した遊びが多い傾向にある。一方、園長や副園長・主任は、自然環境で遊ぶ経験が担任よりも多い傾向にあった。

子どもにも年々変化があり、保育者が働きかけないと体を動かしたがない、動かしてもすぐに飽きてしまうなど、「運動遊び」を継続して行えない子どもが増加しており、段階的指導による過程の満足感の経験が必要であり、現代社会の影響による遊びの変容を踏まえた幼児期に必要な運動遊びが求められている。

「運動遊びについて、身近な場所で学ぶ機会がある」については、48%の担任が「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答し、園長、副園長・主任に比べ、担任は「運動遊びについて、学ぶ機会がない」と感じている。「運動遊びについて機会があれば学んでみたい」に関して、79%の保育者が「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答した。

年長児の「基本的な動き」の実態は、頻度が低い「基本的な動き」は少ない順に、こぐ・操作（1.7）、這う・移動（2.3）、転がる・バランス（2.4）、回る・バランス（2.4）、引く・操作（2.4）、渡る・バランス（2.7）、押す・操作（2.7）、登る・移動（2.7）、ぶら下がる・バランス（2.8）、蹴る・操作（3.0）、転がす・操作（3.0）、掘る・操作（3.0）、下りる・移動（3.0）（下位10位まで）であった。「基本的な動き」の出現について、問うたが、日常保育で見られるものの姿勢が崩れており、正しい動きではない、と判断してい

る保育者が見受けられ、「幼児の姿勢」、「基本的な動き」においても正しい姿勢と動きへの意識の高さが伺えた。

運動に苦手意識のある保育者の自由記述では、苦手意識があるからこそ、自身ができるようになった過程と経験が保育の基盤となっており、運動課題につまずく幼児への運動指導に役立ち、さらなる指導力向上には、総合型地域スポーツクラブ等のサポートが有効であることが伺える。

新潟県の保育者から、子どもの姿勢に関する懸念など、幼児期の「運動遊び」の取組の実態について様々な知見が得られた。楽しく体を動かす「運動遊び」の普及・啓発するためには、保育者の運動遊び指導・援助の時間確保、幼児期の運動に関する知識と指導力の向上のための機会を設けることが必要であり、そのためには総合型地域スポーツクラブ等との連携が有効であると思われる。そのような好循環を生み出すために、市町村が主体的に、保育園や幼稚園・こども園と総合型地域スポーツクラブ等が連携・協働し、運動遊びを推進できる環境を整える取り組みが求められる。

謝辞

本調査実施にあたり、ご協力及びご助言いただきました、新潟県内の保育者、市町村教育委員会、子育てに関する行政機関各所の皆様に感謝申し上げます。

調査票

本調査で使用した調査票、「運動遊び」に関する実態調査のお願い①（調査票1 共通用）、「運動遊び」に関する実態調査のお願い②（調査票2 年長児担任用）を以下に示す。

「運動遊び」に関する実態調査のお願い①

調査票 1 (共通)

「運動遊び」に関する実態調査に御協力をいただきありがとうございます。この調査は、保育園等における「運動遊び」の取組の実態を把握し、本県における幼児期の「運動遊び」の普及、啓発等を目的に新潟県が行うものです。調査結果は統計処理のうえ、本県における事業及び大学での研究に限り使用します。

- この「調査票 1 (共通)」は、① 園長、② 副園長、主任保育士等の管理的又は指導的立場にある特定のクラスを担当しない保育者、③ 「年長児」クラスを担当する保育者(担任)、それぞれ1名が回答してください。
- あなたが所属する園の「年長児」について、保育者個人の観点から回答をお願いします。なお、調査結果は統計処理されるので、園や個人が特定されることはありません。
- 記述項目以外は、該当する番号を○で囲むか、枠内に番号を記入してください。
- この調査では、「運動遊び」とは体を使った遊びのことをいい、「体を動かす遊び」や「遊びの中での運動」など、子どもが主体的に行う体を使った全ての遊びを「運動遊び」とします。

新潟県県民生活・環境部 スポーツ課

- 1 あなたの園がある市町村名を記入してください。 _____
- 2 あなたの所属先を教えてください。(※ 公設民営の場合は、「私立」を選択してください。)
- ① 公立保育園 ② 公立こども園 ③ 私立保育園 ④ 私立こども園 ⑤ その他()
- 3 あなたの性別を教えてください。 ① 女性 ② 男性
- 4 あなたの保育者としての経験年数を教えてください。
- ① 5年未満 ② 5年～10年 ③ 11年～20年 ④ 21年～30年 ⑤ 31年以上
- 5 あなたの役職(立場)を教えてください。
- ① 園長 ② 副園長、主任保育士等の管理的(指導的)立場 ③ 年長児のクラス担任 ④ その他()
- 6 子ども(年長児)の動きや体の使い方、身のこなしを見ていて、どんなことが気になりますか。上位3つを順位の高い順に番号を記入してください。
- ① つまずきやすい・転びやすい
 - ② 転んでも手が出ずに、顔面をケガする
 - ③ 人や物をよけられず、よくぶつかる
 - ④ 歩く経験が少ない
 - ⑤ まっすぐに走れない
 - ⑥ 気をつけなど、同じ姿勢を保てず崩れてしまう
 - ⑦ 上手にしゃがめない
 - ⑧ 姿勢が悪い(座っているとき、立っているとき、歩くときなど)
 - ⑨ すぐに「疲れた」、「動けない」と訴える
 - ⑩ 体を動かしたがりらない(運動したがりらない)
 - ⑪ すぐにあきらめてしまう、続けたがりらない
 - ⑫ その他()
- | | | | |
|----|----|----|----|
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 |
| 番号 | | | |

7 あなたにとって、最もあてはまる番号を選択してください。

質 問	とても そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
自分は(自分の園では)*、保育に「運動遊び」を取り入れている。	5	4	3	2	1

* 御自身の役職(立場)に応じ、回答してください。

調査票 1-2 (共通用)

8 質問7で「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と回答した方に質問です。それは、どのような理由からですか。上位3つを順位の高い順に番号を記入してください。

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| ① 場所(スペース)がないため | ⑨ 過去に怪我をさせてしまったことがあるため |
| ② 用具(道具)がないため | ⑩ 他に優先してやるべきことがあるため |
| ③ 時間の確保が難しいため | ⑪ なんとなく(特に理由はない) |
| ④ やり方(取り入れ方)が分からないため | ⑫ その他() |
| ⑤ 遊びのレパートリー・バリエーションが少ないため | |
| ⑥ 子どもが興味を持たないため | |
| ⑦ (自分が)体を動かすのが嫌い、運動が苦手なため | |
| ⑧ 子どもの安全確保が難しいため | |

順位	1位	2位	3位
番号			

9 あなたにとって、保育に「運動遊び」を取り入れる目的(ねらい)は何ですか。上位3つを順位の高い順に番号を記入してください。

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ① 運動量の確保 | ⑪ 運動習慣の獲得 |
| ② 体力の向上 | ⑫ 大きなケガの予防 |
| ③ 多様な動き(動作)の経験 | ⑬ 肥満の予防 |
| ④ 巧みな動き(動作)の獲得 | ⑭ 生活リズムの改善 |
| ⑤ 体を動かす楽しさ、心地良さの実感 | ⑮ 園の方針や目標、指導計画の達成、実現のため |
| ⑥ 有能感の実感 | ⑯ なんとなく(特に理由はない) |
| ⑦ 集中力の向上 | ⑰ その他() |
| ⑧ ルール・きまりを守る重要性 | |
| ⑨ 仲間との協力や競争 | |
| ⑩ スポーツ(運動)の基礎づくり | |

順位	1位	2位	3位
番号			

10 保育に「運動遊び」を取り入れる上で、あなたは、どのようなことを課題に感じていますか。上位3つを順位の高い順に番号を記入してください。

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ① 発達の特性に応じた遊びの内容 | ⑬ 保育活動での取り入れ方 |
| ② 発達の特性に応じた援助の仕方 | ⑭ 相談できる人がいないこと |
| ③ 遊びのレパートリー、バリエーションの少なさ | ⑮ 特定の種目(跳び箱、鉄棒、体操等)の指導 |
| ④ 一人一人の個人差、発達に応じた援助 | ⑯ 見よう見まねで、漫然とやっていること |
| ⑤ 動き(動作)の見方、観察の仕方 | ⑰ 自分自身が不得意、又は嫌いなこと |
| ⑥ スポーツや学校体育へのつながりに関する知識 | ⑱ 学ぶ機会が不足していること |
| ⑦ 保育者として一緒に楽しめないこと | ⑲ 時間の確保が難しいこと |
| ⑧ 嫌がる子や苦手意識をもった子への援助方法 | ⑳ 安全対策や危険防止策の実施が難しいこと |
| ⑨ 思わず体を動かしたくなる環境構成や工夫の仕方 | ㉑ その他() |
| ⑩ 子ども意欲を引き出すための方法 | |
| ⑪ お手本として自分がやって見せること | |
| ⑫ 用具、固定遊具の操作・使い方やそのねらい | |

順位	1位	2位	3位
番号			

11 あなたの園では、運動を担当する専門の外部講師を導入していますか。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ① 導入している → 質問 12 へ | ② 導入していない → 質問 13 へ |
|--------------------|---------------------|

調査票 1-3 (共通)

12 質問 11 で「導入している」と回答した方に質問です。あなたの園では、外部講師等による内容は、どのよう
にして決めていますか。

- ① 外部講師と相談し、一緒に内容を決めている。 ③ 外部講師に要望を示し、その通りにしてもらっている。
② 外部講師が決めた内容をそのまましている。 ④ その他 ()

13～15 あなたにとって、最もあてはまる番号を選択してください。

質 問	ととも そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
13 積極的に体を動かす(運動する)子とそうでない子と二極化している。	5	4	3	2	1
14 運動や体の操作が上手な子どもは、親子での「運動遊び」が影響している。	5	4	3	2	1
15 運動や体の操作が上手な子どもは、兄、姉との「運動遊び」が影響している。	5	4	3	2	1

16～29 あなたにとって、最もあてはまる番号を選択してください。

質 問	ととも そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
16 「幼児期運動指針」(文部科学省)の内容を理解している。(存在を知らない場合は「1」を選択)	5	4	3	2	1
17 子どもの頃(小学生の頃まで)、「外遊び」をしていた。	5	4	3	2	1
18 運動(スポーツ)や体を動かすのが好きだ。	5	4	3	2	1
19 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊んでいる。	5	4	3	2	1
20 「運動遊び」の知識や技能がある。	5	4	3	2	1
21 日々の保育の中で、子どもに「運動遊び」を働きかける(「いざなう」)のは得意だ。	5	4	3	2	1
22 日々の保育の中で、子どもと一緒に体を動かして遊ぶのが好きだ。	5	4	3	2	1
23 日々の保育の中で、「運動遊び」をする時に、子どもに手本を見せるのは得意だ。	5	4	3	2	1
24 「運動遊び」は、運動を担当する専門の外部講師に任せるよりも、自分が行いたい。	5	4	3	2	1
25 「運動遊び」は、自分が行うよりも、運動を担当する専門の外部講師に任せたい。	5	4	3	2	1
26 「運動遊び」について、他の保育者の保育の様子を見る機会がある。	5	4	3	2	1
27 「運動遊び」について、身近な場所で学ぶ機会がある。	5	4	3	2	1
28 「運動遊び」について、機会があれば学んでみたい。	5	4	3	2	1
29 自分の園での「運動遊び」の取組に満足して	5	4	3	2	1

調査票 1 -4 (共通用)

30 あなたは、子どもの頃(小学生の頃まで)、放課後や休日に、どこでよく遊んでいましたか。上位3つを順位の高い順に番号を記入してください。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ① グラウンド、校庭 | ⑦ 図書館、公民館 |
| ② 公園、空き地、神社・お寺の境内 | ⑧ 学童保育施設(児童クラブ、児童館等) |
| ③ 道ばた、川、池、林、田畑 | ⑨ その他() |
| ④ ショッピングセンター、商店街 | |
| ⑤ 学校の教室、図書室、体育館 | |
| ⑥ 自分の家、友達の家 | |

順位	1位	2位	3位
番号			

31 あなたは、子どもの頃(小学生の頃まで)、放課後や休日に、どのような遊びをよくしていましたか。上位3つを順位の高い順に番号を記入してください。

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| ① 遊具(ブランコ、すべり台等)を使った遊び | ⑫ 積み木、ブロック等のおもちゃを使った遊び |
| ② 砂場等でのどろんこ遊び | ⑬ まりつき、あやとり、お手玉等を使った遊び |
| ③ ボールを使った遊び(野球、サッカー、ドッジボール等) | ⑭ メンコ、ビー玉、おはじき等を使った遊び |
| ④ 自転車、三輪車、一輪車、ローラースケート等 | ⑮ 絵やマンガを描く |
| ⑤ 石ころや木の枝等、自然のものを使った遊び | ⑯ ミニカー、プラモデル等のおもちゃを使った遊び |
| ⑥ おにごっこ、缶けり、かくれんぼ等の遊び | ⑰ テレビ、ビデオ、DVD 等を見る |
| ⑦ 探検ごっこ、秘密基地づくり | ⑱ 絵本、本、マンガを読む |
| ⑧ なわとび、ゴム跳び | ⑲ テレビゲーム、携帯ゲーム |
| ⑨ 虫取り、魚とり、釣り | ⑳ その他() |
| ⑩ トランプ、加減、ボードゲーム、カードゲーム等の遊び | |
| ⑪ 人形遊び、お店屋さんごっこ、ままごと等のごっこ遊び | |

順位	1位	2位	3位
番号			

32 あなたの中学生のときの部活動を記入してください。()

33 あなたの高校生のときの部活動を記入してください。()

(例) テニス部、バレー部、吹奏楽部、していない など

34 あなたは、県の「幼児期からの運動習慣アップ支援事業」のプレ研修会(H30:阿賀野市、加茂市、小千谷市、南魚沼市、糸魚川市)又はモデル研修会(R1:田上町、長岡市、刈羽村、上越市)に参加したことがありますか。

- ① ある ② ない

35 「運動遊び」について、日々の保育で感じることや困っていること等があれば、自由に記載してください。

自由記載

以上でアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

【問合せ先】

質問の内容に関すること 新潟県 県民生活・環境部 スポーツ課 企画係 小野塚 TEL:025-280-5626
 調査票の返送に関すること (公財)新潟県スポーツ協会 スポーツ推進課 澁谷 TEL:025-287-8600

調査票 2-1 (年長児担任用)

「運動遊び」に関する実態調査のお願い②

調査票 2 (年長児担任用)

「運動遊び」に関する実態調査に御協力をいただきありがとうございます。この調査は、保育園等における「運動遊び」の取組の実態を把握し、本県における幼児期の「運動遊び」の普及、啓発等を目的に新潟県が行うものです。調査結果は統計処理のうえ、本県における事業及び大学での研究に限り使用します。

- この「調査票2 (年長児担任用)」は、「調査票1(共通用)」を回答した「年長児」のクラスを担当する保育者(担任)が回答してください。
- あなたが担当している「年長児」について、保育者個人の観点から回答をお願いします。なお、調査結果は統計処理されるので、園や個人が特定されることはありません。
- 回答は、該当する番号を○で囲むか、枠内に番号を記入してください。
- この調査では、「運動遊び」とは体を使った遊びのことをいい、「体を動かす遊び」や「遊びの中での運動」など、子どもが主体的に行う体を使った全ての遊びを「運動遊び」とします。

新潟県県民生活・環境部 スポーツ課

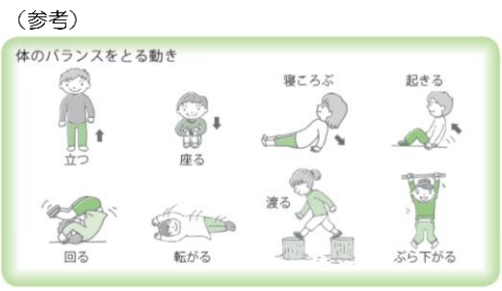
※ 項目の1から4については、調査票1 (共通用)と同じ内容ですが、再度、回答をお願いします。

- 1 あなたの園がある市町村名を記入してください。 _____
- 2 あなたの所属先を教えてください。(※ 公設民営の場合は、「私立」を選択してください。)
 - ① 公立保育園 ② 公立こども園 ③ 私立保育園 ④ 私立こども園 ⑤ その他()
- 3 あなたの性別を教えてください。 ① 女性 ② 男性
- 4 あなたの保育者としての経験年数を教えてください。
 - ① 5年未満 ② 5年～10年 ③ 11年～20年 ④ 21年～30年 ⑤ 31年以上
- 5 日々の保育の中で、子どもたち(年長児)は次の動きをどのくらいの頻度で行っていますか。次の表に示したそれぞれの動きについて、クラスの3分の2程度の子どもが当てはまると思う番号に○をつけてください。

- | | |
|--|---|
| 5 毎日行う.....ほぼ毎日
4 よく行う.....週に3回程度
3 たまに行う.....週に1回程度 | 2 あまり行わない.....1ヶ月に数回程度
1 ほとんど行わない.....年間に数回程度、又は行わない |
|--|---|

【体のバランスをとる動き】

動き	毎日 行う	よく 行う	たまに 行う	あまり 行わない	ほとんど 行わない
立つ	5	4	3	2	1
座る	5	4	3	2	1
寝転ぶ	5	4	3	2	1
起きる	5	4	3	2	1
回る	5	4	3	2	1
転がる	5	4	3	2	1
渡る	5	4	3	2	1
ぶら下がる	5	4	3	2	1



(出典) 幼児期運動指針ガイドブック (文部科学省)

調査票 2-2 (年長児担任用)

【体を移動する動き】

動き	毎日 行う	よく 行う	たまに 行う	あまり 行わない	ほとんど 行わない
歩く	5	4	3	2	1
走る	5	4	3	2	1
はねる	5	4	3	2	1
跳ぶ	5	4	3	2	1
登る	5	4	3	2	1
下りる	5	4	3	2	1
這う	5	4	3	2	1
よける	5	4	3	2	1
すべる	5	4	3	2	1

(参考)



(出典) 幼児期運動指針ガイドブック (文部科学省)

【用具などを操作する動き】

動き	毎日 行う	よく 行う	たまに 行う	あまり 行わない	ほとんど 行わない
持つ	5	4	3	2	1
運ぶ	5	4	3	2	1
投げる	5	4	3	2	1
捕る	5	4	3	2	1
転がす	5	4	3	2	1
蹴る	5	4	3	2	1
積む	5	4	3	2	1
こぐ	5	4	3	2	1
掘る	5	4	3	2	1
押す	5	4	3	2	1
引く	5	4	3	2	1

(参考)



(出典) 幼児期運動指針ガイドブック (文部科学省)

6 「まとまった時間(一斉(設定)保育・自由保育)」に体を動かして遊んだり、運動したりする場合、あなたは、「一斉(設定)保育」と「自由保育」のどちらの形態をとっていますか。

- ① 一斉保育中心 ② やや一斉保育中心 ③ 半々 ④ やや自由保育中心 ⑤ 自由保育中心

7 あなたにとって、最もあてはまる番号を選択してください。

質 問	とても そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
体を動かすのに、移動の時間などの細切れの「すき間時間」を活用している。 (例) 遊戯室から教室に帰るときにケンケンやジャンプなどを取り入れている。	5	4	3	2	1

以上でアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

【問合せ先】

質問の内容に関すること 新潟県 県民生活・環境部 スポーツ課 企画係 小野塚 TEL : 025-280-5626
 調査票の返送に関すること (公財)新潟県スポーツ協会 スポーツ推進課 澁谷 TEL : 025-287-8600

監修 令和元年度幼児期からの運動習慣アップ支援事業モデル研修会アドバイザー

新潟青陵大学短期大学部 教授 幼児教育学科長 青野 光子
新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科 准教授 佐近 慎平
上越教育大学大学院 教授 芸術・体育教育学系長 周東 和好
長岡市教育委員会子ども未来部保育課 総括副主幹（保育指導担当） 竹田 浩美
NPO 法人スポーツクラブあらい クラブマネージャー 後藤 忍
NPO 法人スポネットせいろう 事務局員 伊保橋 良

（順不同敬称略）

令和元年度幼児期からの運動習慣アップ支援事業（新潟県委託事業）
保育現場における「運動遊び」の取組に関する実態調査実施報告書

令和2年3月31日

公益財団法人 新潟県スポーツ協会

〒950-0933 新潟市中央区清五郎 67 番地 12

デンカビッグスワンスタジアム内

TEL025-287-8600 FAX025-287-8601